

潮風

第8号

1992年8月25日

三崎事件

荒井政男さんは無実

国連事件委員会へ提出予定の カウンターレポート英訳完成

救援会では「再審事件交流会」に合流して、国連人権委員会にカウンターレポートを提出することにしました（潮風六号に詳細記載）。日本政府の死刑囚の人権は守られている、冤罪で苦しむ人はいないというような内容のレポートの提出に対して、荒井さんをはじめ再審を求めている冤罪死刑囚が多くいることやその逮捕・取調べ・拘留・裁判・死刑囚処遇・再審制度に多くの問題があることを具体的に訴えていくことにしました。

荒井政男さんは、「今度の国連人権委員会へカウンターレポート提出の件、宜しく願います。日本文内容読み返しています。全く異議なしです。よろしくたのみます。……カウンターレポートの意義はすばらしいアイデア行動です。そして国連人権委員会に冤罪死刑囚の実態の事実を訴えることは重要な行動ですね。涙もろい父さんは、感謝感涙です（本号八ページ参照）。」と、家族あての手紙ので伝えてきています。

和文は前号に掲載しましたが、英文が完成しましたので紹介します。英訳にたずさわって下さった方々にこの場をかりてお礼を申し上げます。ありがとうございました。荒井さんと共にこれからも粘り強くたたかいましょう。

"Misaki Case": Mr. Arai's innocent case

1. Mr. Masao Arai was arrested as a criminal of a murder case in which all a three membered family were killed . That occurred at Misaki in Miura city in Kanagawa prefecture in December 1971.

Although he got a wound in the head on the day arrested , and was ordered to keep quiet by the doctor, the police severely investigated and forced him to confess. Besides the police didn't permit him to ask for a lawyer during whole through the investigation.

The court rejected his claim of being innocent and sentenced him to death in the first and second trial, according to his false confession and the eyewitness's testimony. The Supreme Court rejected his appeal and sentenced him to death in October, 1990. He is now put in Tokyo Prison.

Mr. Masao Arai applied for a new trial to Suga branch of Yokohama District Court in January 1991.

2. Mr. Masao Arai is absolutely not the criminal of Misaki Cace. The time when the case happened, he was sleeping in his car and the parking place was very near to the site the case happened. When he woke up he was let to know the case, so he left the place.

The eyewitness mistook him for another man who had left the place. There was no material evidence to decide that Mr. Masao Arai was the criminal.

Why Mr. Arai can't be the criminal? ① Mr. Arai is seriously handicapped in his both legs by the past traffic accident and it was impossible for him to run upstairs and kill as many as three people. ② The size of the foot prints (25.5 or 26 centimeters) left at the site didn't fit the one of his boots (27 centimeters) he was wearing at that time. ③ The kind of the edged tool seemed to have used for the murder hasn't been specified yet. ④ No blood was noticed either on his clothes or on his car. If he had been the criminal, his clothes could have gotten a lot of blood on it. ⑤ His finger prints weren't found at the site. ⑥ There are a lot of contradictions between his false confessions and the objective facts of the murder.

The court should decide the opening of his retrial as soon as possible.

3. About Mr. Arai's condition in Tokyo Prison;

Since the Supreme Court rejected his appeal in 1991, he has been allowed to communicate only with his family and his lawyers. He is permitted to see his lawyers only for thirty minutes under the watch by the prison guard. When he send a letter to his lawyers, he must show his draft in advance. His draft often blotted out and he is ordered to rewrite it, then after the permission, he can send it.

Mr. Arai asked the director of Tokyo Prison to permit him to communicate with the members of his relief party because it was very necessary for his retrial, but that wasn't permitted without explanation.

The communication with others is the necessity for his retrial. The director of Tokyo Prison immediately should abolish the barrier against the communication.

We sincerely hope the early existence of the followings:
Mr. Arai will be declared not guilty, will be released from the death sentence, will be able to live with his family peacefully.

July 1992

Mr. Masao Arai's Relief Party

さまざまな動きのなかで再審へ ⑥

山際 永三

日弁連再審集会で

死刑再審要求ピラ配付

去る六月五日に日弁連の「再審問題二〇周年記念集会」が日弁連講堂で開かれた。一九五九年に日弁連が徳島事件・吉田老事件の支援に取り組み、以来多くの再審事件にかかわり、七二年に再審問題研究会を発足させ、死刑四事件の無罪獲得など少なくない成果を上げることができたことを記念するもので、再審の「過去・現在・未来」というサブタイトルが付いている。日弁連では毎年この時期に再審弁護団会議を開催してきたが、今年は二〇年を総括する記念集会となったという。

私たち「再審事件交流会」関係では、日弁連に提訴をして弁護委員会が出来ていない事件が大部分であるため、このように多くの事件で再審請求が行われており、また再審の希望者がいるということを、ぜひ集会で訴えたいと、事件紹介資料の配付を日弁連事務局の人権課長柴山敏雄氏にお願いしていたところ、

実行委員会に諮られて会場入口に置くことが許された。死刑廃止フォーラムの時に作った死刑再審要求キャンペーン（現在10事件が参加）波崎事件富山常喜さん／袴田巖さん／秋山芳光さん／渡辺清さん／石田富蔵さん／金川一さん／晴山広元さん／三崎事件荒井政男さん／諸橋昭江さん／佐々木哲也さん）のピラ約百組を作って「交流会」の数名が集会に参加した。

この三月に日弁連の再審法改正実行委員会が新設の刑事弁護センターに統合された関係もあって、同センター事務局長の寺井一弘弁護士が司会、真部勉実行委員長・阿部三郎日弁連会長・鈴木孝雄人権擁護委員会委員長の挨拶、竹澤哲夫弁護士の基調報告、上田誠吉弁護士の「再審の厚い壁と白鳥決定」と題する講演、「裁判と科学」について北山六郎・大塚一男両弁護士・法医学の内藤道興氏らの発言があった。ゲストの九州大学教授・大出良知氏が、最近の裁判例を説明しながら「白鳥決定はまだ定着しておらず、裁判所はさ

らに悪くなる傾向にある」と言われたことが強く印象づけられた。最後に佐藤博史副実行委員長が「努力の歴史を受け継いで、課題は山積している。今日会場で配られたピラには十件の死刑再審事件が紹介されているが、その中で日弁連が取り組んでいるのは一件にすぎない。これからも努力しよう」と発言された。私たちの活動にふれてもらえて嬉しかった。会が終わったあと、出口ではピラを受け取ってくれる弁護士が多く、用意したピラは全て配付できた。

国連へのカウンター レポート近く完成

昨暮から「再審事件交流会」で準備していた国連の規約人権委員会あてのカウンターレポート（日本政府が昨年十二月に提出した第三回報告に対抗する報告）がやっと完成に近づいた。「日本には無実事件が多すぎる」と題する五ページの本文は、日本では死刑再審無罪の四事件があったにもかかわらず、並行してさらに無実の死刑事件がくりだされていること、法律の適用を誤った誤判事件も多く、死刑以外にも再審希望が多いこと等を説明し、添付資料として約十通の事件紹介が付いて全体が二十数ページになる予定。

寄稿

監獄の歴史と現在を訪ねて 3

九州・三池編（その1）

大山 武

「囚人が死ねば、一挙兩得」という金子復命書が北海道囚人外役労働の悲劇をもたらしたことは、前稿で触れた。その金子堅太郎に囚人外役労働を献策したのは、のちの三井の大番頭・団琢磨だと言われる。

金子と団は、ともに福岡・黒田藩出身で一八七一（明治四）年の遣欧使節団に藩主に従って渡米、金子はハーバード大学で法律を、団はマサチューセッツ工科大学で鉱山学を学んだ。帰国後、金子は元老院書記官、団は東京大学工学部の教官となり、団は金子の妹と結婚している。団は一八八四（明治一七）年に工務部御用掛となり、官営三池鉱山局技師・開坑長となった。三池炭坑は一八七三（明治六）年に官営となると同時に囚人労働を導入し、採炭の圧倒的部分を囚人に依存しており、一八八三（明治一六）年には三池の採炭を主な目的とする三池集治監が設けられていた。

金子が北海道三井巡視復命書を書いた一八八五（明治一八）年末は、団が三池に着任してから一年余りたった頃である。その後、三池炭坑は一八八九（明治二二）年に三井に払い下げられ、団はその三井財閥の大番頭となるのである。

日本の囚人労働史は、こうして、北海道に先立つ、「暗黒の地底労働」と言われた九州・三池にさかのぼる。それはまた日本帝国主义の歴史でもあった。

一年前まで地底への

入口が残っていた

一九六〇年の大争議で有名な三池炭坑は、有明海に面する福岡県大牟田市と熊本県荒尾市にまたがる。かつての炭坑は今や三井が経営する大遊園地に変わったが、町のいたる所に炭住が共同浴場などと共に昔のままで残っており、「家族ぐるみ・地域ぐるみ」と言わ

れた大闘争の面影を残していた。

大牟田市にある三池工業高校が集治監の跡地である。今でも外堀の三分の一ほどは、集治監の赤煉瓦塀がそのまま使われている。現在、校舎の建て替え工事中とかで、校舎の一部は仮囲いがしてあった。休日ではほとんど人気がない構内を、カメラを持って見て回っていたら、昔の看守のような黒いだぶだぶの制服を着た警備員が、いかめしい顔をして近づ

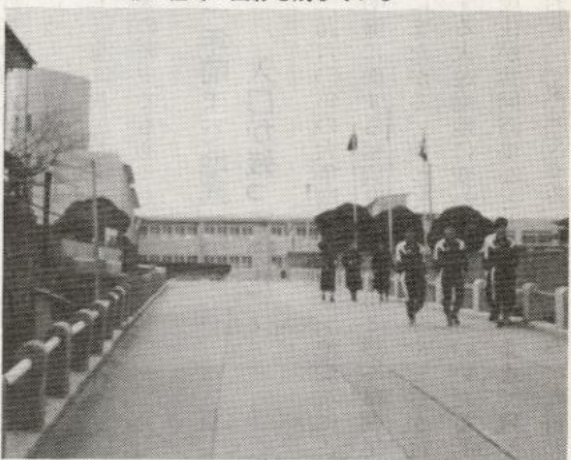


→集治監赤煉瓦塀がそのまま使われている



↑ 三池集治監表門（重松一義『図鑑・日本の監獄史』より）

↓ 現在の三池工業高校正門
この坂は往時の面影を残している



いてきた。どうやら、怪しまれたらしい。それにしても、ガードマンではなく昔ながらの制服を着た自前の警備員とは、なつかしい。

逆にこちらから、「ここには昔、集治監があったそうですが」と聞いてみた。すると、疑いが晴れたのか小父さんは破顔一笑、「そうですね、そうです」と親切に説明を始めてくれた。それによると、今残っているのは赤煉瓦塀だけだが、校舎の建て替えが始まった一年前までは、囚人を地底に送り込んだ入口や当時使われていた小屋がそのまま残っていた

とのことであった。

破獄・暴動続発の「難治三池」

三池炭山が一八七三（明治六）年に官営となると同時に、まず三瀨原（みづま—久留米市周辺）の懲役囚五〇名が出役、以降熊本・佐賀・福岡の各県の懲役囚が出役していたが、前述のように一八八三（明治一六）年に三池集治監が設けられた。これは三池の採炭を主な目的とする長期重罪監獄で、開庁と同時に東京集治監を中心に重罪囚を移入している。

収容人員は一八八五年で二五四名、八七年には一千名を超え、八八年末には一四六三名に急増している。そして、その翌年の一八八九（明治二二）年に三池炭坑は三井資本に払い下げられ、集治監・各県監獄の採炭労働は三井鉱山三池鉱業所の請負となった。

集治監は、九州以外から移された採炭経験のない重罪囚がほとんどであったこと、囚人労働が三井資本の営利に奉仕する作業となったことよって、従来の地元出役時代と様相が一変した。監獄当局をして「難治三池」と言わしめ、戦後の那覇刑務所暴動と並ぶ日本監獄史上最大の暴動を生み出した三池囚人労働の歴史が、ここに始まるのである。

かつて集治監表門があった所に三池工業高校の正門がある（写真参照）。公道から正門にいたる坂は、今でも往時の面影をとどめている。運動部の練習帰りの高校生の一団が談笑しながらこの坂を下りていった。三池の囚人労働や炭坑労働の歴史はこの子らにどのように伝えられていくであろうか。「学生服にランドセルの顔が笑ってた」という三池労働者の歌の一節が、頭の中をよぎった。

（続く）

荒政さんだより ⑦



●蚊が房内に！

★新聞で、ドイツのベルリン生れの女優マレーネ・デートリッヒさんの遺体が、ベルリン市旗に包まれてベルリンの母の墓に並んで埋葬されたことが出ていました。この女優さんは、独特な広い額と、足が脚線美なので父さんも昔大ファンでしたよ。洋画大好きでしたからね。あの広い額を今も父さんは想い出します。ナチドイツ軍を批判していたこのドイツベルリン生れの女優のベルリン埋葬に反対する一部ドイツ市民があるのも事実ですが、ベルリン埋葬には五千人のドイツ市民が葬儀に参列したそうです。アーメン。

★今獄庭の草花で姫花が花盛りですよ。そして真赤なバラの花盛りですよ。そして獄猫の数が減ったけど、父さんの窓辺に良く猫がきますよ。そしてスズメやヒヨドリがよく来ますよ。そしてパンをくれと唄うのですから可愛いですが、父さんが

一切パンをやらないので、この頃ようやく窓辺は静かになりつつあります。この房に居た先の方が余程パンをやっていたんだと思いませんか（笑い）。

★次に大きらいな蚊が五月十三日から房内に入り始めました。今日で「五羽」叩きました。今日から窓のスキ間から入らないように「紙」をつめましたよ。これから蚊との闘いがつづきます。

（五月十七日記）

●激励送ります

★「お元気？通信」読みました。永田洋子さんのニュースに激励送ってね。・「大きな手の中で」読みました。元気な彼にさらに元気を送りましょうね。・「六月の炎」読みました。今だに厳正独居生活受刑をガンバッている彼に激励送ってね。・再審キャンペーンのピラ綴り読みました。仲間たちへ心から激励を送りたいですね。・「甲山支援通信」読みました。裁判の方、全力で闘い抜いて下さいと激励送ってね。・「オーリーブ通信」読みました。彼の裁判勝利に拍手を送ります。ガン

バロー！・「ばじとう」読みました。石橋さ

ん一家の記録パンフに心がなごみます。ガンバロー！・「キタコブシ」読みました。彼の元気を何よりうれしく思います。さらにガンバロー！・朝日新聞の歌壇の切り抜き綴り、相変わらず坂口弘氏の歌ガンバツてるね。救援会の皆さんによりしく伝えて下さい。父さんは食事療法全力をあげています。再審開始へ共に闘い抜き勝利するまで闘い抜こう！

（五月十九日記）

きのうは房前で体重測定がありました。父さんは六一キロで減量目標あと一キロ減量です。だが父さんは五八キロまで減量したいと思っているんですがね。少し無理かもね。食欲がとても旺盛だからね。

（五月二十二日記）

●家族への野紙発信不許可

今日小川原先生へ発信することができましたよ。今日下書きしたものの許可が来たので、すでに清書してあったから野紙六枚でカーボンの紙使って計三部作ってあったのです。今回の下書きは、事件に関する「公判連絡」のみを書いてあるから、不許可になるとは思っていなかったのですから、すでに清書を、下書

きと同時に完成してあったのです。(笑)

次に小川原先生に発信する(罫紙六枚分と共に)ともに、娘宛の罫紙使用の再審連絡手紙日記も六枚使って出した所、弁護士さん宛のほうがいいが、私信の娘宛の罫紙使っているのはだめだと云って係長(今年係長になったばかりの人物です)が突返してきて便箋にかきなおして出せというのです。父さんは何故「ダメ」なのか説明してくれというと「規則だから」便箋七枚迄にかきなおせというのみです。そして受取れとくりかえすのみです。父さんには納得いかないから、もつと詳しくきかせて下さいと言っても父さんの尋ねることをきいてくれようもしないで、発信ミニレターを入口の資料の上にボンとほうりなげてトビラを閉めて姿を消してしまつたのです。父さんは早速中味の罫紙六枚を、小川原さんへ出した文と同じもの(カーボンコピーしてあった)と入れ替えて「公判連絡罫紙使用六枚発信特別許可願ひ」の願箋を書いて発信のやり直しをしたのですよ。(五月二十九日記)

この願箋を書いて発信したミニレターは、今迄通り発信許可になつたのですよ。今迄にもそうして罫紙使用願箋つけて発信できてき

たのですからね。ということとは、便箋七枚迄が発信規則であつても弁護士への発信内容と同文ならば公判連絡内容罫紙使用発信特別許可願ひ願箋をつけて出せば今迄通り発信OKということですよ。今回、私信日記風に使用した「罫紙使用六枚」が「ダメ」だということらしいのですよ。…と分かつたのですが、私信日記風に書いて使用した罫紙六枚の内容文にも、公判に関する小川原弁護士との面会のやりとりも書いてあるのですから、公判連絡文として、「発信特別許可願ひ罫紙六枚使用願ひ願箋つけて」出したのですが、私信扱いにされて「ダメ」だと突返されたのです。

つまり罫紙使用についての説明をしてくれないうで、ただ便箋七枚使用が規則だといつてくり返すのみですから、父さんは納得できなかつたのです。しかも今迄に短歌も罫紙に書いて発信許可願ひ書いて許可になつていたのですよ。だから横書き罫紙を買いだめしたのです。

便箋七枚が発信規則だといつても、死刑確定になつたとたんに、こんな規則を押しつけたのですから、未決に準ずるといふ監獄法に反していますよ……。いずれにしても罫紙使

用についての説明を求めても満足な説明も指導も出来ない人が係長資格はないと父さんは思いましたね。係長職とはどんな職場でも感情に流されてはダメですね。(略) いずれにしても新人の看守だから、罫紙使用の詳細、指導の説明が欠けたのは、批判されても仕方がないでしょう。看守といえども人間ですから欠点があつたとしても当然でしょう。勿論批判されてもしかたがないときもあるでしょう。便箋七枚使用規則を看守権力のようにまちがえないで欲しいですね。

(六月一日記)



●また転房で、血圧が!

土、日曜連休になつてからは、月日が矢のように過ぎていくのが分かります。

船員室よりも広い独房内ですから、心の持ちようで船員室より生活しやすいからね。船とちがつて揺れないから少々物足りないですがね。だが、豆虫がほとんど、ゴキブリ、油虫、蚊といった虫たちがどんどんこれからにぎやかに出てくるから、船員生活とちがつ

た生活の面白味(蚊なんかはとて辛いですね)がありますね。毎夜蚊との闘いが始まっているけども、頭からシャツを逆さにかぶって防蚊しています。蚊の奴は夜中と夜明け前と、大体この二回が一番活動時間のようです。だから、父さんも、蚊の時間に合わせて防蚊対策しているこの頃です。

次に転房してからの怒りはようやく治りましたから、ご安心下さいね。房内のひどく汚なかった窓も流し台も、トイレも、食器口も、小窓も、しっかりと磨きましたから、どうやら看守への怒りも治まった訳です。体のつかれもどうやら治ったからです。父さんの転房する房内トイレは、いつもひどいなんてんじゃないよ。本物のブタ小屋よりも汚ないんだから、腹が立つんですよ。今回もびかびかにみがき上げたから、気分もやっと落ちついたのです(笑)。(六月十二日記)

★六月十日午後から四つ隣に転房しました(定期転房六ヶ月に一回の監獄法あり)。転房を逆手にとつてこの重労働を体の為に鍛えんと苦しみを薬だと心の切り替えにしたのです。そうすると、この六ヶ月で二回も転房させた看守の行為が逆に怒りから笑いの喜びに変え

ることができたのです。

定年まで刑務所生活している看守が、定年で退職するのは受刑囚と何の変わりもない訳です。満期刑を受刑するのと同じだと老看守が言いながら、定年退職日が明日なんです。こんなうれしいことがない。あんたもガンバリ抜いて下さい。と云つて父さんに声をかけて別れた老看守の白髪まじりの笑顔が思い出されますよ。ではグーナイ。(六月十三日記)

●潮風七号ありがとう

嬉しく読みました。今度の「国連人権委員会へカウンターレポート提出の予定」の件宜しく願います。日本文内容読み返しています。全く異議なしです。よろしくたのみます。

「さまざまな動きのなかで再審へ⑤」で、カウンターレポートの意義はすばらしいアイデア行動です。そして国際人権委員会に提出する冤罪死刑囚の実態の事実を訴えることは、とても重要な行動ですね。涙もろい父さんは感謝感涙です。

赤堀政夫さんの「訴え」すばらしい文章です。赤堀さんに宜しくお伝え下さいね。

「山小屋だより」嬉しく読返しています。

あの有名な雷電為衛門の故郷が東部町大石だということ。奈良原に向うバスの途中に生家とお墓があることを知りうれしいおどろきですね。このバスの路線上には百体の観音石仏が路傍に立っていますとのこと。山の風景が見えるようです。奈良原のウイチチさんに宜しくね。読み返して高山植物の宝庫が見えてきます。胸が一杯になってきます。とっても父さんは心から励まされます。本当にありがとうね。

免田さんの体験談と激励ありがとうございました。うれしくてうれしくて、読返し免田さんの苦しかった体験談を父さんも参考にして生きて生き抜いて闘って闘い抜きます。呉れぐれも宜しくお伝え下さいね。

山野さん、鉄腹さん、玉田さんに宜しくお伝え下さいね。

便秘については、父さんはとても「快便」なので下さるご安心下さいね。

(六月二十六日記)



暑中お見舞申し上げます

猛暑の折、お元氣なら嬉しいのですけれど
：と御健勝を祈りつつ東京のむし暑さに眠れぬ夜を想像しています。消耗しますものね。

山の雨期は低温で日照時間も短く、ざりと雨らしい雨も降らない梅雨。六月末にストーブを焚くという近來にない異変が起つたりして寒い夏を迎えました。畑では伸びたたくても大きくなれない夏野菜達。そして発芽してもいいハーブも朝夕の冷え込みと日中の気温との差の著しさに発芽出来ず、次第に固くなる地表をホークでほぐしたり、水を注いだりしてオロオロしています。それでも彼等の生命力・復元力はたくましく人間の比ではないことを度々知らされました。これも山村暮らしをしているからこそ、かつて在りし古代の暮しに心を走らせ、郷愁にも似たなつかしさを感ずるのでしょうか？また、文明に犯され埋没していた意識も目ざめます。本當に不思議なんです。流れる雲、山間を渡る風に雨、そして樹木や草若には精靈が宿りそれぞれの言葉をもって語りかけて来るんです。皆な生きています。たとえどんなに短いのちでも。私は夜の訪問者である蛾とはどうしても馴

じめず明りを求めて群がる蛾達が無気味で疎ましく思っていました。でも彼等の寿命は短かく夜ごとに元氣に飛んだり、はったりしていても朝になると変りはた彼等の亡骸が床の上に散乱しているんです。何とも悲しい光景です。私は、その姿を見た時から蛾に対する意識が変り、ちよつとうるさいけどしかたないなと思いつつ彼等を観察し一緒に遊んでいます。よく見ると醜いと思つていた蛾にも沢山の種類があつてとてもきれいなのにびっくりしました。

山小屋だより



ニッコウキスゲ

めて彷徨う未熟児です。こんなこともありました。風呂釜の湯をあげようと裏に行つた時大きな蛇の抜けがらを見つけた。まだ脱皮して間もないのでしょうか。しつとりと濡れていて破れたところもなくきれいに脱皮していました。あまりの見事さに感動しながら体長を計れば一二センチもありました。ところで蛇の抜けがらを見つけると縁起がいいんですつてね。お金に不自由しないとか。真偽のほどはわかりませんが私はひたすら信じることにします。

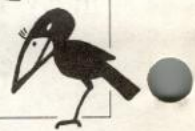
今日は八月五日です。よく晴れた空に赤トンボが飛んでコスモスがゆれていきます。吹く風はもう秋。バルセロナのオリンピックの歓声が何処かで鳴り、広島島の平和の鐘が天まで届けと聞えてくる様です。明日は八月六日。心にずっしり重くのしかかる、まだ終っていない戦争。各地で慰霊式が開催されると思いますが、美辞麗句で終ることなく三六五日意識のもとに置いて歴史の真実を考えていきたいと思つています。まだまだ暑い日は来るでしょう。くれぐれもお体を大切に。庭におりたつたむく鳥にこの便りを託します。お元氣で！

奈良原のウイッチ

随筆

弱肉強食のわが庭

蒲公英



占領軍のご主人様の荷物に紛れこんでやってきて猖獗をきわめ、この世の緑を一掃するかにみえていたアメリカカヒロヒトリが四年前、なにかの異変で突然姿をけし、以来絶望的であったわが庭の緑にも平和が戻ってきました。平和が戻ってきたところでわが庭の手入れにも励みがでてきて、この六、七月は東京での「本職」の時間を抛って、埼玉の庭に費すことに肚を決めました。

変な虫が又発生しました。肌の触りが蚕そっくりののっぺり虫、せいぜい二、三cmにすぎない虫ですが、沢山さつきの枝に取り付きました。それに桑畑を失った尺取虫が生き残るため、移動してきました。保護色のため、土瓶でも掛けられそうな枝に見えます。

むかし、蚕の吐く糸は、国にとって大切な輸出品でしたし、現金収入の乏しい農家にとって蚕は宝でもあったのです。まゆの出来不出来は農家の死活の問題でもありました。

桑の木の芽吹くころ、晩霜が下りて桑が全滅することがあります。そんな晩の農家は殺氣立っていました。

私たち農村の学童は、桑の葉を荒す「害虫」尺取虫退治によく動員されたものです。春は体のだるい季節です。それにあののっぺりした肌に触れるのはいやでした。それでもまだ幼虫のころですからよかったです。今年のように七月にもなると、図々しいほどの胴体に成長しています。駆除しなければなりません。虫の胴体に鉄を入れて、両断又両断、生きもののいのちを断つのはいい気持ちしません。「わるく思わないで。これを自然淘汰、恨むならダーウインを恨め」と虫のいい言い訳の印導を渡しておくのです。

さつきの枝を掴むと変な感触が掌に伝わってきました。毛虫のながい毛が針のようにびっしり刺さっています。総毛立つとはこのことでしょうか。大きな鉢の底の汚れを拭いていると、汚れがゾロツと動きました。十二cmもある百足でした。のがそうか、殺そうか、一瞬の判断で後者をえらびました。鎌の背で首を押してみましたが効果がありません。漸く首がはなれたときはこちらの方が怖くなって

いました。胴体だけがドンドン逃げていくのです。ギョツとしましたね。石垣を必死にのぼっていました。力尽きて地に墮ちました。皆さんの批難の目が私に集中するようになりませんが、以前百足にひどい目にあっているのです。

足長蜂にも刺されました。仰天して蜂を掴まえ、殺そうか、と思案した上放してやるとヨロヨロと巣の方へとび去って別の一匹が偵察するように頭の上で輪を書いています。

鎌を研いでいる上を巨蜂が旋回しています。悠々とした飛翔ぶりや胴体が飛行船そっくりです。息を詰めて遠ざかるのを待ちました。

前山が開発されて生活の場を失った生きものたちが、わが庭に避難してきました。鶯が池の魚を浚って、残ったおたまじゃくしを蛇がくわえて泳いでいます。蝮が出没します。

狸が交通事故でよく道に横たわっています。いまだかつて狸の遺族が保障されたという話はきいておりません。鳥もきますが、あの太い嘴で目をつかれたら一たまりもありません。おかめいんこが、ヴィヨンヴィヨン涼しいよと歌っていますが、いよいよ三伏の暑さ、見上げると栗のいがが大きくなっていました。

潮風にのって



◆Sさん、こんにちは、パンフと荒政さんのおたよりコピー、ありがとうございます。

「死刑囚からあなたへI」の中あの笑顔がこの山まで、また、やって来て下さったような思いで読ませていただきました。犬が大好きという荒政さんは、うちの犬の健康までも、いつも気づかっただ下さったんですヨ。それで、同封のパンフを荒政さんに差し入れていただけとありがたいのですが、よろしくお願いたします。

(松山 山本)

◆七号では、「便秘」についてですね。私も便秘症です。コンニャクが良いのですか。これからコンニャクを食べるように心がけます。七号をできれば、便秘で苦しんでいる磯江さんに送っていただけたらと思います。

(神奈川 丸山)

◆荒井さんによろしくお伝え下さい。

(松山 水口)

◆荒井さんの無実を晴らすために一所懸命頑張らましよう。荒井さんに身体を大切にしようお伝え下さい。

(東京 木下)

◆この一カ月、何やらハチャメチャのうちに日が経ってしまいました。「読む物」がアツという間にいよいよ高くなって、些かギョツとしています。何だか世の中が急速に悪くなっている様で心配です。「真実に顕れざるはなし」。厳しい現実と思いますが、何とかして、一日も早く冤罪が雪がれます様、お祈りしております。そして救援の皆様地道な一つ一つの積み重ねが、必ずや芽吹き、花ひらき、よき実をもたらします様と願ってやみません。荒井さんの御健康も併せ祈りつつ。

(東京 齊藤)

◆六月に入り、ここニューヨークの郊外の樹々もより一層緑の深まりをみせ、冬の間に渡っていた鳥たちも今はすべて帰ってきて囀りを競っています。

荒井政男さん、そして救援会の皆様お元気でしようか。北海道の樺戸監獄のある月形町の知恵遅れの子供たちの施設園長から、急に形修留学を命じられアメリカにきて九カ月がたちます。

荒政さんに最初に東拘でお目にかかり、しばしば公判を傍聴させていただきはじめたら、早や十五年ほどの歳月がたったのだなあと、今しみじみ感慨にふけております。その間、自分は、荒政さん支援にほとんど何の力にもなりえず、今またこうして異国の地に遠のいてしまい、つくづく己れの無力さに恥入っております。

しかも送っていただいている「潮風」を拝読し、荒政さんの不屈の魂に触発されて、私も精神的な支援だけは息長く、そして晴れて無罪を勝ちとる日まで続けていきたいと念願しています。

アメリカの社会の中に身を置いて生活してまだ一年弱ですが、この国全体を覆っているさまざまな矛盾や構造的な悪の部分、経済的な不況の中でますます鮮明に見えだしているような気がいたします。「富こそ力である」という神話という呪縛のようなものが、この国の末端にまで浸透しています。アメリカこそ世界で最も強大でなくてはならないという恐るべき傲慢な心が人々を支配しています。そして富と権力を有する者の権益を守るためだけ機能し、威力を行使する暴力装置(警察

と軍隊)・法律・Social Security System など、それらの根底にはベトナム戦争や湾岸戦争にみられるような「暴力」で物事を決着し、他国を力づくで支配しようとする誤った「力の論理」が貫かれています。大衆の中にもあくなき物質欲にかりたてられた「消費主義」、少数民族や有色人種への根強い差別、自然を破壊し征服し尽そうとする近代文明主義、それらは総じて「死の文明」「死の思想」と呼ぶべきものではないかと、私は最近考えはじめています。個々人の中にもまた社会全体の中にも覆っているこの「死の支配力」の暗闇から、もう一度人間がすべて平等で、自由と平和を享受し、人権が尊重され、富を分か合い、愛と正義にうち満ちた社会の建設に向けた大きな転換が求められているような気がします。それはひとつの人間解放の旅なのだと思います。

友人の車に乗せてもらい、道路を走っていると、道ばたに驚くほど沢山の動物たちの死骸を目にします。この春生まればかりの小動物(狸やリス、ウサギ、スカンクなど)や鹿なども車にはねられ無残な姿を路傍にさらしています。それは一〇〇メートルに一匹ず

つの頻度で死んでいます。全米で網の目のような道路網上で、毎日信じられないくらい動物たちが殺されています。実に恐ろしい「車の暴」の国です。小さな生命たちにとっても、また Homeless と呼ばれる貧しい人々にとっても、この国は実に住みにくい「死の支配する国」なのでしょう。

荒政さんお元気で、救援会の皆さん頑張ってください！

(ニューヨークにて 新海)

◆暑いですね。荒井さんはお元気ですか。(大阪 石橋)

◆荒政さん、元気に再審をたたかっておられるようで何よりです(小生が差入れたピンクのTシャツ気に入ってもらえたようですね)。(東京 中川)

◆荒政さんの糖尿病心配ですね。みなさんではげましてあげてくださいね。(東京 大道寺ちはる)

◆いつものことながら、「潮風」ののって届く荒政さんの闘志満々の元気さにはすごいものがあ、元気づけられる思いがします。報告によると、再審事件交流会というのが関係者によって開かれたようですが、いい試みて

すね。皆が連携を保つことで、多くの人間がえん罪に苦しめられ、再審を求めているという事実の現存すること自体を広く世間に知らせていくことから証拠開示要求など具体的問題にまで至って、大きな力を発揮することができるんじゃないでしょうか。

(大きな手の中でより 木村修治さん)



《会計報告》

1992年7月30日現在

① 収入		② 支出	
前月より繰越	194,583	潮風(7号)印刷費	29,750
カンパ、会費、講読料	39,600	発送費(切手代)	10,800
パンフ売上げ	2,520	交通費(家族宅)	7,000
家族より援助諸経費	20,000	封筒代	947
合計	256,703	合計	48,497

① 256,703 - ② 48,497 = 208,206 ……次回へ繰越
 ●ありがとうございました。再審裁判の諸費用についての御協力もよろしくお願いします。

今日も元気で（番外編）

“便秘（二）その予告”

前回は突然パスしちゃってすみません。

“風邪”を予定したんですけど、急な用事で離沖したため、とうとう書けませんでした（ついでに今回も次回につなげる予告編なんです、御かんべんを）。編集部の方では、このコーナーを休んでは“今日は不元気だった”という証明になってまずいと思ったのか、頑張ってくれたようですネ。どうも御苦労様。さて便秘。

人間は、普通、入口を閉じて一週間ぐらいは持つのですが、大小や皮膚の出口を閉じると数日であの世行き。入れるより、出すことの方がそれだけ体にとって大事ってことです。

便秘は、獄中獄外問わず、一般に体験されているはず。出るものが出ない。ウーンとふんばらないと出ない（それでも出ない）ということ、つらいですよネ。とりわけ獄

中者にとって便秘が大きな問題となるのは長期の人が必ずといっていいほどやられる拘禁症のひとつになっているからです。

運動不足（体力低下）とストレスで腸の蠕動力が弱っているところに、野菜や繊維不足の食事なんですから、長くズチ込まれていればいるほど、自然に便秘的傾向（獄中者の多くのがなるのは、腸がゆるむことから来る弛緩性の便秘です）にもなっていく訳です。

たとえ、獄医に便秘と訴えても、ただ糞出しのための化学合成の下剤をくれるだけ。便秘になると、体の他の不調が原因で起ったものでない限り、慢性化してなかなか治らない——治せないものなのです。

慢性化した便秘は風邪以上に“万病の源”になります。ただの“糞詰まり”などと、軽く考えないでください。

そんな訳で慢性化した、あるいは慢性化したような便秘をかかえ込んでいる人は、それでも自分の体を信頼し、自分の体は自分の力でなんとか治してみようとすれば、相当な努力と工夫を必要とします。

それでは、どんな努力と工夫があるのか。慢性の便秘はなんで怖いのか。手当て法や予

防法は……。そうした具体的なことは、次回本編にて！

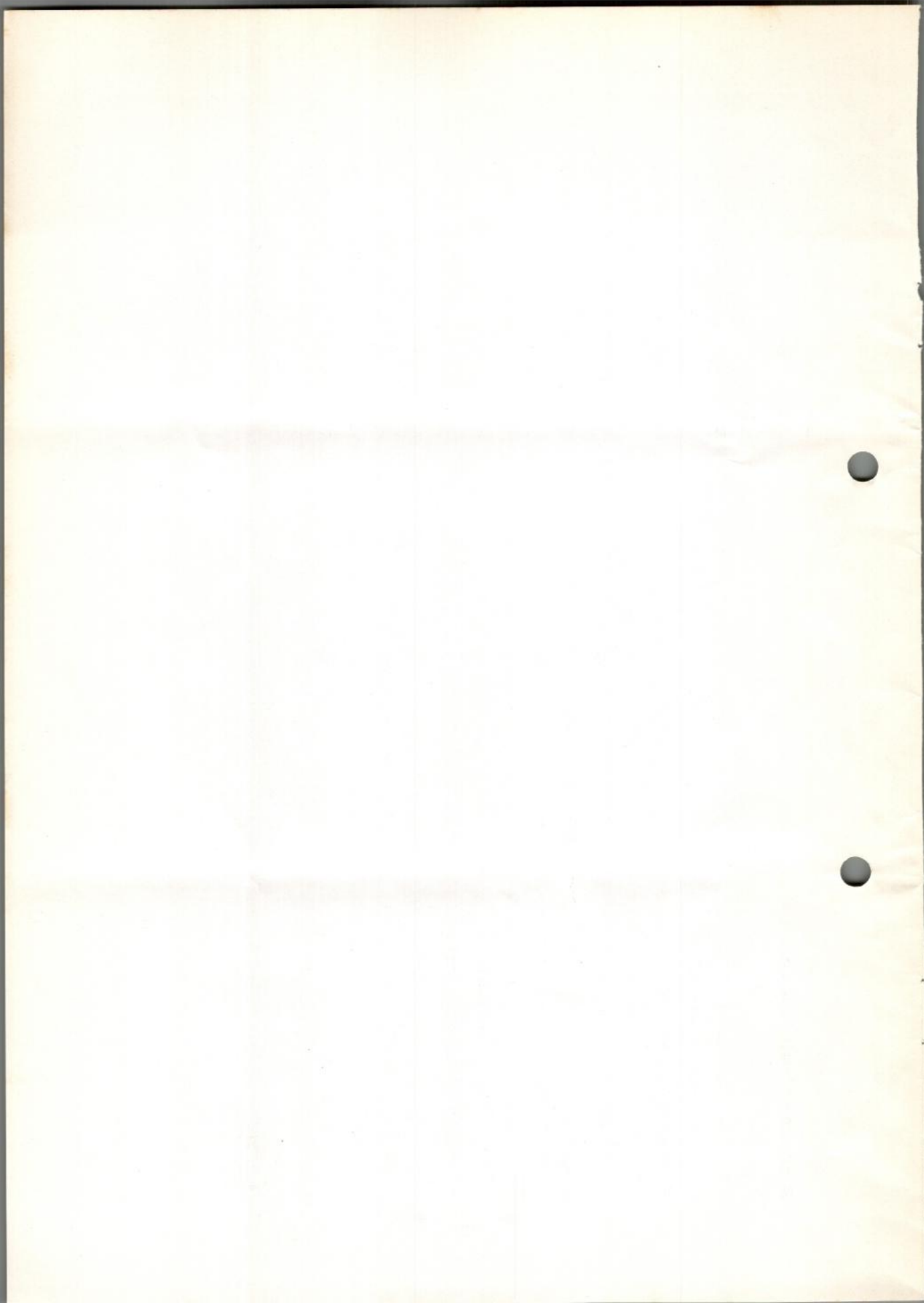
医食コンサルタント「琉玄」 木田明夫

◆編集後記◆

●七月初めの昼下がりのこと。山に日頃見かけないサラリーマン風の男の人が数人やって来ました。「誰れこの人達？」と不審に思っで行き会った人に尋ねれば、「不正大麻・けし撲滅運動期間」のお役人さん！でした。毎年六月十六日～七月十五日がその期間なのだそう。す（広報紙にそうありました）。見つけ次第抜き取ること！なんだ可笑しくなってゲラゲラ笑ってしまいました。おたのしみのことですね。

●バタバタと編集したので誤字脱字もいつもより多いかと思えますが、ごかんべんを。今日も元気でコーナーは健在。この元気で、実りの秋を迎えましょう。再審もヒットを！。と、夏バテしないで力一杯がんばりたいものです。次号の原稿メ切りは十月末日です。みなさんの投稿・感想・励ましのお便りをお待ちしています。

（青木）



発行 荒井政男さん救援会

東京都千代田区神田錦町一―一―六

神田錦町ビル三階 大手町共同法律事務所気付

郵便振替 東京31546727

一九九二年八月二十五日 第八号発行

頒価 二〇〇円

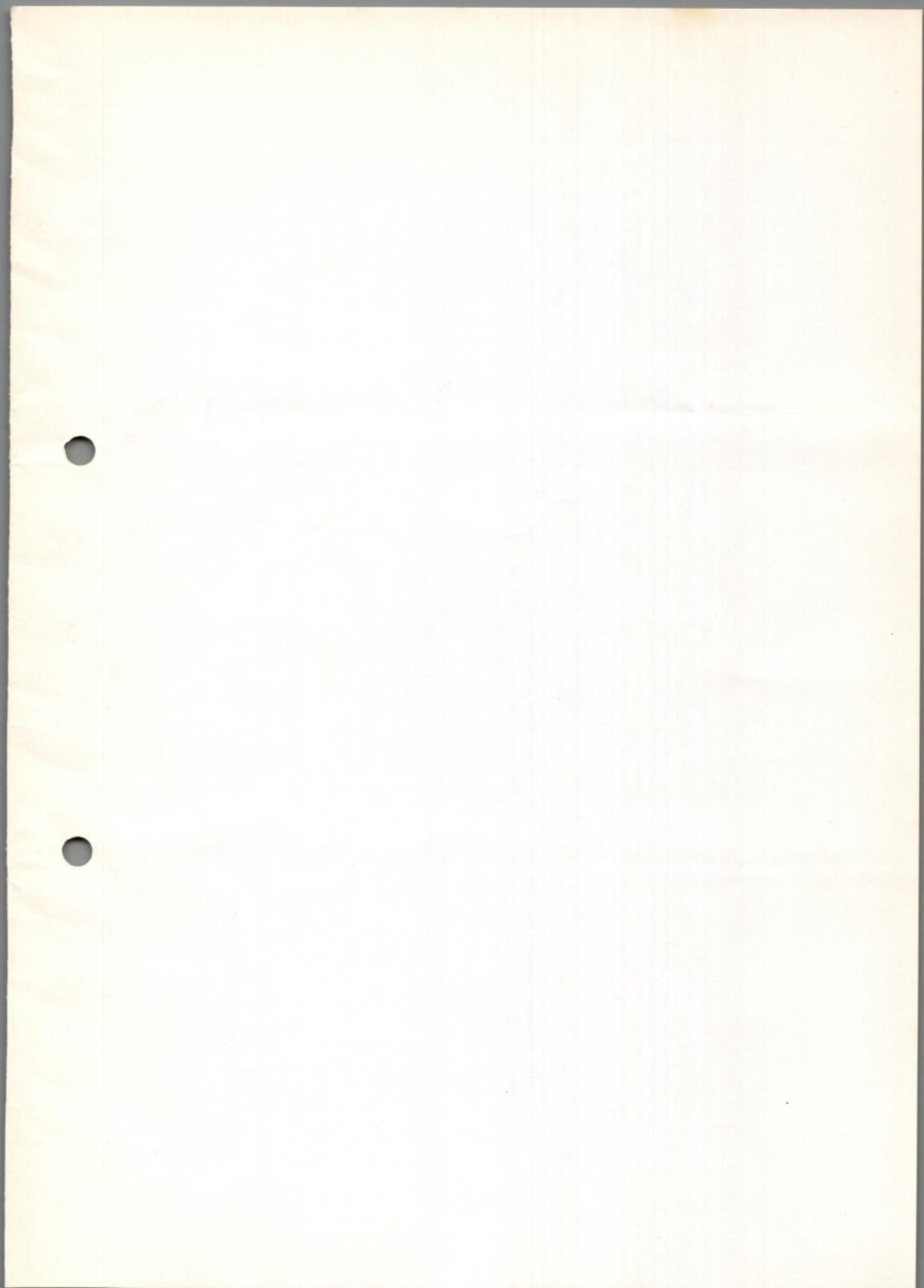
潮風

第9号。

1992年11月25日

三崎事件

荒井政男さんは無実



再審請求から二年

いつも荒政さんと

一九九〇年十月十六日、最高裁によって上告を棄却されました。その直後から荒井政男さんは、東京拘置所によって死刑確定囚としての処遇にかえられ、獄外との文通面会などの外部交通を家族・弁護士だけに制限されました。

この『潮風』は、上告棄却直後から三ヶ月に一回、荒井さんのたよりと読者からの励ましの声を中心に発行してきました。荒井さんから今号に向けて、こんな力作は初めてではないかと思われる絵が短歌とともに届きました。いつもは真中のページに掲載している「荒政さんだよ」ですが、再審請求から（一九九一年一月）二年目を迎えようとしているいま、これからも荒井さんとともにという気持ちをこめて、ここに掲載しました。

荒政さんだよ⑧



●汗・汗・汗で
タオルしぼって
手にマメが

父さんも元気ですから休心下さいね。毎日、汗ふき仕事と、蚊の退治にガンバっています。

今年三月六日と、六月十日と自殺房から転房したことは、すでに手紙日記で報告したとおりですが、この房内天井にはテレビ監視カメラが取り付けてないから、天井が高くて、その分房内の暑さがカメラ房よりも半分ですよ。だから、汗の出るのも半分ですよ。だから、今年の猛暑も汗地獄もだいぶ助かっています。そのかわり九時減灯後は小説文字も読めませんよ。手紙書く間も汗、汗、汗ですよ。タオル絞るのに左手のひらに固い豆一ヶ今年もできたよ。

（八月二十九日）

官本小説「竜馬がゆく」全八巻中のまだ六巻を読んだ所です。今日七巻八巻を借りて読

みます。幕末時代の馬関戦争当時の下関海峡の様子が書かれています。だから、下関、門司、小倉、彦島その他のなつかしい地名が続々と出てきますからもう胸が一杯になりました。それが六巻に殆ど書かれているのですよ。だから六巻は読み終わるのに二十五日もかかりました。

八月二十九日の読売朝刊で、団藤元裁判官が「死刑廃止問題は、頭の問題ではなく心の問題です。」と発言されているのを読みました。全くこの通り同感です。（九月四日）

九月五日からとてもさわやかな秋風が吹き、肌冷える位心地よい気温となりました。あの汗地獄から脱出したのですよ。夏バテ気味から立ち直り、食欲も出てきたので、減食に注意用心しています。今朝久しぶりで蚊を叩きました。早速歌をつくりましたよ。短歌は多い日は二十首位作るときがありますよ。

●夏から秋へ

今日この頃は、半袖シャツだけでは寒い位です。そろそろ冬物と交替しなければなりませんね。マ、あわてることもないけどね。今日からヒヨドリが窓辺に姿を現わしましたよ。

気温が低目になってきたので早速東拘庭に戻ってきたのですよ。そして私の窓辺に「あいさつ替り」にエサを求めに来たのですよ。私が「ピー子」と名付けているヒヨドリでしたよ。ピー子は平気で窓辺に止まったりするからわかるのですよ（笑）。（九月二十一日）

先日の一七号台風余波で獄庭の柿の木から無実身に心にかかる雲やなし祈らじとても神ぞ守らん

獄の庭日射し輝き柿の実が色鮮やかな食べ頃の色

獄窓辺柿の実たわわ食べ頃の色うまそうに吾が目誘いぬ

ラチオから吾がふるさとのラチオ寄席無実地獄に狂おしく聴く

獄近き高速道路工事中ドリルの音が房にこたます

いとし娘が足大怪我で無理面会きたる優しさ涙こぼるる

面会のジーパン穿きて妻老いし長き苦勞の姿いじらし

次ページ短歌より

十一ヶの柿の実を獄カラスたちがみんな赤くなるのを待って、次々と食い散らかしてしました。さらに、今日、柿の木に成っている一〇ヶから一三ヶの位の柿の実をカラス二羽が来て柿の木に止まって実を突っついて食べるのを見た私は、窓の鉄板を叩いて追っばらつてやりました（笑）。今日から冬期処遇になり入浴日も五日に二回（火金）となりました。ムギ茶も今日から柳の葉茶に変わりました。ウチワも引きあげがあったよ。

糖尿病の現状報告ですが、食事減らして体重減量すると、足先指先しびれが治り始めることが分かりました。だがね。食事減量すると腹が空って辛いですから、少しずつ実行しているのですよ。（十月一日）

潮風八号ありがとう

国連へ提出予定のカウンターレポートの英訳完成ありがとうございます。英訳して下さい方々に感謝します。

日弁連再審集会で死刑再審要求ピラを配付して下さった皆さんに心から感謝申し上げます。また、監獄の歴史と現在を訪ねてでは、監獄の恐しい歴史に身も心もふるえましたよ。

“山小屋だより”のウィッチさんの山の生活ぶりが見えます。蛾達に対する意識が変わったことは嬉しいことです。ホタルとの出会い。大きな蛇の抜けがらはサイフに入れておくとお金が儲かるとか、お金に不自由しないとか……は、私も子供のころから聞いていますよ信じているんですよ。（笑）：赤トンボが飛んでいる奈良原の山里を昔いただいたカラー写真を眺めながら、ウィッチさんの名を呼びながら、奈良原高原をしのんでいます。

東拘地獄にも赤トンボが十月初め頃運動場前の桜の枝先に数羽止まったり、飛び回ったりをくり返して私の目をなぐさめてくれましたよ。寒さに向う折柄お体に気をつけて、マキの用意と冬ごもりの用意にガンバって下さいね。サンキュウベリマッチ。

蒲公英さん“随筆”ありがとうございます。獄中では、ヒナ雀をカラスが襲っては食べているのを見たことがありますよ。蒲公英さんは、六、七月を埼玉の庭に費やしたのです。そして自然のいろんな生き物たちとの出会いをレポートして下さいありがとうございます。ますますお元気で。いよいよ東拘養老マンションも秋冷えの頃となり、十月五日頃から寒

さが大好きなヒヨドリたちが獄庭に戻ってきて夜明けとともに囀り始めましたよ。ビーツピーッと高声で私の窓辺近くで歌うんですよ。私も夜明け前から目を覚まして短歌作っているんですよ。(笑) クスクス……。

「潮風にのって」松山の山本さん、神奈川の丸山さん、松山の水口さん、東京の木下さん、斎藤さん、ニューヨークの新海さん、大阪の石橋さん、東京の中川さん、大道寺ちはるさん、そして「大きな手の中で」よりありがたく読みましたよ。ニューヨークから新海さんのお便りスゴイですね。アメリカの裏を見えていますね。木田明夫さんの次回を楽しみに待っていますね。

●パンフレットを読んで

「晴山さん救援ニュース」「かすみ草」「冤罪通信」「コトバ」「六月の炎」「監獄通信」「お元氣通信」「死刑廃止の会ニュース」「甲山裁判支援通信」「荒井政男さん救援会通信」読みました。ヌリツプシは、救援の泉水公判記事中の少しです。

・「四国フォーラム92」の写真入りパンフレット読みました。山本さんから送られたものですね。

立派な人たちの写真入りメッセージ横顔ですね。大成功を心から祈ります。山本さんがんばってとお伝え下さい。

・救援紙ありがとう。狭山事件再審弁護団が新証拠を提出したこと。万年筆が発見された鴨居を捜索した元刑事が新証言、これはいい証言ですね。ともにガンバローとお伝え下さい。益永利明さんのヌード訴訟等全面敗訴の判決。残念です。でも益永さんはともて元気ですよ。

・死刑と人権66、かたつむりの会しっかりとがんばっていて獄外の活動ぶりに感謝しています。
・ナルドの香油では、藤波さんのガンバリが伝わってきます。お体の健康を祈り上げています。

・甲山支援通信号外に私のメッセージも載せて下さりありがとうね。山田悦子さん共にガンバローとお伝えしてね。共に白髪を抜ける迄闘い抜こうね。私も再審目指して全力投球しています。

・かんしょう会だよりでは、福岡の浜田さんの手紙記事ありましたね。未決中文通していたのでなつかしいですね(笑)。

・ねっとわあく15、赤堀政夫さんと免田栄さんの写真も出ていましたからなつかしいです。死刑廃止を共にガンバロー！

・ばじとうふう、石橋さん一家の生きざまがわかり胸が熱くなりました。いつもいつもありがとうございます。今後とも甲山事件共々共闘よろしくおねがいたします。

・「大きな手の中で」では木村修治さんのお元氣さに私を逆に励まされています。お母さんが退院したこと、ホッとしています。良かったね。さらにご養生なさって下さいね。木村さんに共に生きて生き抜いて闘って闘い抜こうとお伝え下さい。

私が東拘にいた当時の若い看守だった人たちが今はみんな偉くなっています。そんな人たちの一人と話す機会があり、「どんなに偉くなっても死刑執行台のボタンを押さないで下さい」といいました。すると、その幹部看守さんは、「そんな時がもし俺にきたら俺は看守を辞職して土方になってでも生活していくよ」といいました。私は思わず「あんたは偉い」とほめましたよ。これが看守さんの本音だろうと私は嬉しく思いました。最近のニュースです。(十月二十日)

さまざまなきのなかで再審へ

⑦

山際 永三

「日産サニー事件」

再審開始決定の意味

ことし三月二十三日に「日産サニー事件」の再審請求が認められ、新聞にも「再審の叫び25年目の光」と大きく報道された。これに対して不当にも検察側が即時抗告をしたため、審理は仙台高裁に持ち込まれた。

この再審開始決定について『法律時報』の小田中聰樹・福島至両氏の論文と『法学セミナー』の大出良知氏の論文を読んだので、救済運動の側からの解説(受けうり)を試みたい。

針の穴にラクダを通すほど難しい再審は、最高裁の「白鳥決定」(一九七五年)と「財田川決定」(七六年)によって「疑わしきは被告人の利益に」の法則が適用されるようになり、基準がゆるめられたと言われている。その結果、弘前事件をはじめ免田事件、財田川事件、松山事件、島田事件など殺人事件関係で九件もの誤判決が明らかとなり、四人の

確定死刑囚が無罪となって生還してきた。これは世界的にも例のない重大なことで、日本に冤罪が多いことの証明にもなった。ところが島田事件の再審開始決定(八六年)以来、

多くの再審請求があるにもかかわらず、六年近くはわたって次の再審開始がなされない状態が続いた。八八年から九二年にかけてさえ確定した死刑事件の七人が再審を希望している(わが荒井政男さんもその一人)。現在の確定死刑囚五十六人のうちの二十人以上が再審希望者で、まさに再審のラッシュだ。にもかかわらず再審の扉は一時期よりもさらに堅く閉じられているようにさえ思える。

そうした時、久し振りの朗報となったのが「日産サニー事件」(斎藤嘉照さん)だ。この再審がどのようにして認められたのか、われわれとしては大いに勉強すべきである。

証拠の総合再評価と

限定的再評価

再審請求には、「新規明白」な証拠がなけ

ればならないとされている。確定判決の根拠となった「旧証拠」のなかに無かった新しい証拠を発見し、しかもそれが「明白」でなければならぬというのだ。最高裁の「白鳥・財田川決定」は、もしその新証拠が確定判決の裁判所の審理中に提出されていたとすれば確定判決の事実認定が揺らぐかどうか、それを旧証拠の全体と新証拠を総合的に再評価して判断すべきだとした。これは誤判決を正すためには全く正当な、また必要なことを打ち出した良い決定だった。

ところが、これに対して裁判官や検察官の一部からは、限定的再評価説というのが主張された。それは、旧証拠の再評価には限度があり、あくまでも新証拠の重みと何が立証されたのかを判断することが重要だといっているのである。最近の再審請求棄却決定(名張事件、布川事件など)はこの考え方だといふ。この考えに立つと、新証拠がそれだけで完全に無実を証明するものでなければダメということになってしまふ。つまり、「白鳥・財田川決定」の前に戻ってしまうことになる。こんな酷いことがまかり通っているのが現在の日本の法曹界なのだ。

「日産サニー事件」の再審開始決定(福島地裁いわき支部)は、証拠の総合再評価説に

立っていて、新証拠だけでなく新証拠に関連させて旧証拠の検討にも踏み込んで判断しているという。同事件の新証拠は、被害者の死体の傷と凶器とされた果物ナイフが合わないという法医学鑑定で、この新証拠自体が殺害方法の不可能性を証明しているから、確定判決の事実認定が揺らぐのは当然と言えるが、今回の決定は旧証拠の柱であった「**告白**」の内容にまで検討の範囲を広げて、多くの点で「**告白**」に信用性がないこと、「**告白**」と客観的な事実との矛盾を指摘しているという。同事件は、そもそも物的な証拠がなく、被害者と格闘したという齋藤さんの着衣に血痕がなく、果物ナイフなどの凶器に指紋がなく、現場の指紋に齋藤さんのものがない、足跡が一致しない、被害者の手の中の毛髪の鑑定がなされたはずなのに不出されている等の問題点があった。——なんと、わが三崎事件と似ている点があるではないか。

また今回の決定は、従来の再審と違って請求から決定までの年月が比較的短いこと（八八年に請求）も評価されている。さらに、再審請求の事実調べ（証言など）が公開の法廷でなされたことも画期的だったという。仙台高裁での審理が公正に早く行われ、齋藤さんの無実が確認されることを望むばかりだ。

大阪・渡辺清さん 再審請求手続出す

一九八八年六月に最高裁で上告棄却となり死刑が確定していた渡辺清さん（大阪拘）は、この四月二十七日に大阪高裁に再審を申し立てた。

渡辺さんの事件は四件あり、①六七年名古屋の女性殺害、②六七年大阪の男性殺害、③七二年大阪の女性殺害、④七三年大阪の女性殺害のうち、②と③は無実、①と④は有実である。④事件のあとマスコミは多くの類似事件を渡辺さんの犯行と書きた。逮捕された渡辺さんは、絶望的な気持ちのなかで④と①だけでなく③も認めさせられてしまった。騒がれていた類似事件の容疑が消えたあと、まるで類似していない②も押しつけられてしまったもの。

今回の再審請求における「新証拠」は、②事件に関して、被害者の死体の傷と凶器とされた果物ナイフが合わないという法医学鑑定書。傷の深さがそのナイフによっては不可能だという内容。渡辺さんの一番の時の裁判官もこの②事件を疑問としていたが、「**告白**」が維持されていたため結局四件とも有罪（無期懲役）となった。二審で死刑となったが、

最高裁もあまりに疑問点が多いために十年にわたって上告棄却を出すことができなかったという経緯がある。

渡辺さんの弁護士は、引き続き③事件についても「新証拠」を提出する予定という。

北海道・晴山広元さん 再審請求手続出す

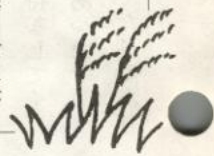
一九七九年に上告、八五年と九〇年の二回弁論が開かれるという異例の展開となり、渡辺清さん以上に最高裁段階の長かった晴山さんは、九〇年九月に棄却された。その後札幌弁護士会が晴山さんの支援を決定するなどの盛り上がりもあって、この九月二十四日札幌高裁に再審請求を申し立てた。

晴山さんの事件は「空知連続女性殺人事件」と呼ばれており、①七二年五月の月形事件、②同年八月の砂川事件、③七四年の奈井江事件（強姦）が起訴されたが、全部無実。渡辺さんと同じで一番は無期懲役、検察官控訴で二審が死刑という酷いケースだ。全く曖昧な証拠（①②の毛髪鑑定、「**告白**」など）で有罪が認定されている。

「新証拠」は、②事件の被害者着衣に付着していた土が、現場の土と成分が異なるという鑑定結果など十一点だという。

春遠からじ

蒲公英



今日はすばらしい「小菅秋天」です。

荒涼と寂しげな周りの風景がふだんと違って見えるのです。荒川の土手に青草が萌えています。

いつも先を急いでいるので、視覚は土手を捉えていても、心ここにあらずで、風景を楽しむ余裕はありませんでした。

土手に沿った拘置所に正門を左へ曲ると、やっぱり様子が違ってきます。

まだ午後の一時というのに家々の影がながながと道を横切って、拘置所の練瓦堀に突当り、そこから直角に立ち上って面白いシルエットを描いています。

ほんの数十日まえまで、この時間帯は陰ひとつない炎天下の真下でした。日の移動のほげしさに驚いて、ふと思ひ出したのが、次のような江戸小咄です。

月と日と雷が旅にでて同じ宿に泊りました。朝、月と日の姿が見えません。宿の人に訊ね

ると「お月さんとお日さんはもうお発ちになりました」、雷は感心して「月日のたつのは早いものだ、わしは夕立にしよう」

「光陰矢の如し」とか「一寸の光陰軽んずべからず」等、ふるい格言が私の脳裡を浮んだり消えたりしました。

今日は折山敏夫さんに面会してきましたが、彼、すこししよけています。「自分の頭のは、えも追えないのに人の面道をみる」と周りから敬遠されてしまったのだそうです。よく聞く言葉です。

差入屋に入って千円札で買物をしている時、入ってきた男の人が一万円札をポンとケースの上において「これで適当に入れておいてくれ」と頼んで帰ってゆきました。

「単位が違いますね」とうらめしうに言う私に、日頃無愛想な店の主人が「ずいぶん長くここに通っていますが、どの位になりますか」と聞いてきました。「一五〇一六年位でしょうか」と答えましたが、これは間違いでした。

一九五〇年の朝鮮戦争の時、アメリカの圧力による国鉄の大量首切りが始まり、事をスムーズに運ぶための謀略とも思える不可解な

事件が次々と発生しました。三鷹事件もその一つですが、逮捕された人のうち、共産党員だけが全員無罪、非党員であった竹内景助さん一人が死刑を背追い込むことになりました。それはしないでしよう、と少しばかり義憤の感情を動かしたばかりに、東池袋にあった、当時の巣鴨監獄に通うようになったのが、そもそも発端です。

巣鴨から小菅へと舞台は移りましたが、いまだに「収容所」とご縁が切れておりません。人みなが「赤子」であったあの頃でさえ受刑者にも面会できる自由がありました。

「先進国」に成り上った今の日本はどうでしょう。人権より「国権」が優先します。

「国の道」少し外れた人への締めつけ、見せしめ、いいえこの国に生存するあらゆる層へ生殺与奪自由の嚇しをかけてきています。

寒くなりました。この冬を待たず下獄する人たちはこれから先、囚人服で寒さに耐えねばなりません。

冬がくれば「春とおからじ」と詩人はうたいます。「予想もつかない将来」に望みを託して、どうぞ元気で冬を迎えてください。

時は流れる雲のように形を変え色を染めて
黙々とまたある時は饒舌に過ぎていきます。
奈良原に来て四度目の秋。今年は早々と九月
二十七日に霜が降りて、夏野菜は全滅。たの
しみにしていた秋菊もしみてしまいました。
それから又暖かく穏やかな日が続いて嬉しや
と思っていればふいにグリーンと気温が下ると
いった具合でこの気温の激しさに一喜一憂の
秋です。が奈良原へ来て一番美しい紅葉に出
会いました。初めにナナカマドやかえでが山
を赤く染め、次に白樺の黄色。今はカラ松が
山をオレンジの一角に塗りかえました。その
見事な事！一ヶ月も続いています。続くとい
えば夏から十一月まで千客万来で週末はいつ
もにぎやかでした。長野県は山国ですから魚
といえば佐久の鯉が唯一である、パツとし
ません。それに私もいつの間にか菜食を好む
ようになつてしまい、めつたに肉や魚を口に
しなくなりました。ですから先日荒井さん
がよくご存知のMドクターとKさんと蒲公英
さんが、それぞれ鯛にイカ、帆立にサンマそ
の他チラシ鮎の具から煮物まで持参してくだ
さいました(ざっと二〇人分はあったでしょ
う)。その上板前さんもやつてくださるあり

がたさ！私は「お盆とお正月が一緒に来たみ
たい」とキヤアキヤアはしゃぎながらフル
コースに大満足のお客様です(もちろんブラ
ンデーとウイスキーに赤ワイン付きです)。
私はいたたく前からこの豪華な晩餐にすっか
り酔ってしまいました。ありがたくって、嬉

山小屋だより



しくて……。このように皆さんのあつたかく
つてやさしい御厚情に支えられている私は世
界一の果報者です！心から感謝すると共に明
日への活力として大切にしなければバチが当
りますよね。ホントに。

九月家の前のとうもろこしの毛が茶色に色
づく頃、たぬきがやってきました。農家の人
はかじられたとうもろこしを見てカンカンに
怒っていました。が軍配はどうやらたぬき君に
あがっていました。なにせあの手この手の仕
掛けをかわしてたぬきは御満悦。夕方舌づつ

みを打ちながら悠々と歩いているたぬき君を
見たのです。その歩き方はモンローウォーク。
私は思わずふきだしてしまいました。野良猫
も沢山います。聞くところによれば農家の改
築新築によるホームレスの猫達のようなです。
そこで私は魚を食べた日は、あらや骨を彼等
にあげることにしました。何時誰れが来るの
かわかりませんが見に行くといつもお皿はか
らっぱ。そして私はなんともうれい気分にな
るのです。十月の終りまでセッセと巣を作
っていたはずめ蜂もいなくなりました。白樺
も裸木となり、高原特産の花豆も収穫しまし
た。今一番元気なのはきのこ達です。今年も
ひらたけや椎茸がポコポコ出て大感激！彼等
は冬の鍋料理の大事な脇役ですから。

そうそう十一月三日、荒井さんのお便りの
ことをAさんから聞きました。どうもありが
とう！嬉しかったです。蛇の皮は財布にしつ
かり入れましたよ。きつとりツチになります
ね。

寒くなります。どうかくれぐれもお体を大
切に。遠くはなれていても結んだ手をしっか
り握りしめて希望という道を歩いていきまし
よう。お元気で！
奈良原のウイッチ



潮風にのって

■磯江さんの旭川生活も九月三日で満十年を迎えます。「潮風」の益々のご発展を。

(東京 丸山康男)

■「潮風」いつもありがとうございます。荒井さんの元気に笑ったり、心なごんだり。よろしくお伝え下さい。(九月) 荒井さん、良い気候ですね。冬に向って、体をきたえて下さいね。(二〇月) (大阪 石橋)

■こんにちは、「潮風」八号落手。ありがとうございます。荒政さんの血圧・糖尿はいかがですか。ホームヘルパーの東京都の講習で血圧・糖尿のメカニズムや食事のことなど習いましたが、獄中では本当におつらいことばかりだと思います。ストレスもからだを弱める大きな原因です。大切になさって下さいね。この秋は祝日は休日手当が出るので仕事しやすそうです。ホームヘルパーも

人手不足なんです。

(東京 足立)

■早速ですが「潮風」お送りいただきありがとうございます。郵便局へ行く時間がないため、切手でカンバを送ります。頑張ってください。

(東京 堀)

沢山の切手をありがとうございました。今号の発送に使用させていただきました(編)

■「潮風」は荒井政男さんの便りのほかにも、いろいろな記事があつて、楽しみながら読めます。救援会の方々ご苦勞様です。

(東京 M・I)

■あと数日で職場復帰ですが、ダブルインカムになって財政がもち直したらポチポチカンパだけでもさせていただけようと思います。育児休暇の間、まあ一金を使った使った。もうじきとくに獄内にきつい冬ですし(荒井さん、くれぐれもご自愛されますよう)。前にも送らせていただいたニュース送ります。

(東京 玉田)

■荒政さん、そして救援会の皆さんこんにちは。

皆さんお元気で頑張っておられる御様子が「潮風」八号からも十分に私に伝わって参ります。

荒政さんお元気そうでなによりですネ。

未決時よりも更に不自由な確定者処遇の不当さに対する荒政さんの憤りが行間から感じられて胸が痛いです。荒政さん、ファイトを失うことなく再審に希望を持って、持ち前の陽気さで、そこはそこなりに楽しみながらお越しになって下さい。私も国賠(五件)や、死刑廃止や、獄組や刑訴など、山積みの仕事の消化に日々多忙を極めてますが、ファイト満々、元気一杯です。共に元気で頑張り抜きましょう!

(大阪拘 山野静二郎)

■こんにちは!いつもパンフを送付してくれてありがとうございます。このたび控訴審のため、高松の刑務所の未決に移監となりました。これからもよろしく願います。

(高松拘 田中勝久)

◇パンフレットより◇

■「潮風」八号を落手しました。国連人権委員会への提出レポートの英文に抹消はありませんでした。今号は荒政さんの俳句が載っていないのでちよつと残念ですが(構え、気が取りがなく獄中の日常が表現されているので、ほくは以前から好きでした)、でもお元気そ

うで安心しました。なお、「土・日曜連休」
 になってからは、月日が矢のようにすぎてい
 く」というのまったく同感です。

(東京拘 大道寺将司「キタコブシ」九月号
 より)

◆「潮風七号」を読んで大拘の山野さんの
 図書抹消国賠訴訟を知ったのですが、「抹消」
 で賠償金三五万円というのは、この国ではち
 よつと考えられない超出血大サーピスなんじ
 やないでしょうか。あるいは何件かまとめて、
 といったことだったのでしょうかねえ。

東拘では確定死刑因には専用電気カミソリ
 が貸与されるんですか。名拘では現在も入浴
 時におけるカミソリ(T型)の共用ですよ。

(電気カミソリを自弁で購入すれば別ですが)
 もつとも共用といっても少し前から、その範
 囲を縮小すべく努力はなされている。…これ
 までは浴槽の数×2のカミソリが用意され、
 A群を使用中にB群を濯いで消毒(といって
 も温熱器に入れるだけだし、何といったって
 15分間隔のことですからね)し、それを交替
 で次々に使用させるというものだったのです
 が、最近はこのカミソリの数が大幅に増え
 ている…のですが、そうはいつでもやはり、

共用であることにかわりはないですからね。
 エイズが身近な問題になって今、その感
 染力は巷間で考えられるほど強くはないとい
 え、不特定多数間でのカミソリの共用なんて
 ことは、やはり、シャバでは、というより自
 分達なら絶対にしないことなんじゃないでし
 ょうか。

(名古屋拘 木村修治「大きな手の中で」)

《会計報告》

1992年10月30日現在

① 収入		② 支出	
前月より繰越	208,206	潮風(8号)印刷費	32,600
カンパ、会費、講読料	34,500	発送費(切手代)	7,200
家族より援助諸 経費	10,000	交通費(家族宅)	3,500
合 計	252,706	合 計	43,300

① 25,2706 - ② 43,300 = 209,406 ……次回へ繰越
 ●ありがとうございました。再審鑑定や実験につい
 てのカンパ協力もよろしく願います。

◆編集後記◆

●一九九二年もあと五十日。今年もいろい
 るなことがありましたが世の中は、住みにく
 くなるばかり。こんなとき思い出すのはヤセ
 ススキーのことば。

「敵を恐れることはない。せいぜい君を殺
 すだけだ。味方を恐れることはない。せいぜ
 い君を裏切るだけだ。無関心な人々を恐れよ。
 ……」です。そこで私は叫びます。「政治家
 よ、人民をなめるなあり。」と。(S・U)
 ●しかと確めたことではないのですが、救援会
 の常連ではどうも私が一番の若手(?)のよ
 うです。

そんな私も北風が吹く季節になって寒さに
 身構えています。荒井さんも足にこたえる季
 節になりました。シンシンと冷えこむ冬の獄
 を差入れの布団と、綿入れズボン・湯タンポ、
 そしてみんなのたよりでほしいと願
 っています。(青木)

(お詫び)連載中の寄稿「監獄の歴史と現
 在」を、誌面の都合で次号に回させていただ
 きました。次号をお楽しみに。

今日も元気で(六)

便秘(三)

便秘はやっかいなものである以上に、怖いことを前回書きましたが、それは糞が大腸内に溜りすぎると、体の健康上さまざまな害をおよぼしてくるからです。

食べ物の滓が腸内に溜ると、腐敗発酵の過程でいろんな毒ガスが発生し、それが血の中にどんどん再吸収されて体内を巡るので、軽いもので肌荒れ、イライラ、重ければ頭痛、肩こり、めまい、吐きけ、不眠などの症状を引き起こす訳です。こうした状態が更に続くと、しまいには大腸ガンの原因にもなったりします。

便秘には大きく分けて、弛緩性とけいれん性のものがあります。獄中で重くなるのは、腸の運動機能が低下し、蠕動力が鈍ってしまふ弛緩性のもの(けいれん性は、腸が極度に緊張し、収縮してしまうので、便通ストップになる)。獄中者が一度便秘になると、クセ

になりやすいのも、単に拘禁症というだけでなくけいれん性とは違い(こっちは緊張を除けば治る)、弛緩性のは腸の運動機能を回復させないことには根本的に治らず、しかもそれは薬に頼れないから獄中ではなかなか難しいってことに理由があります。

原因は前回書きましたが、加えて独居の坐業や早めし、出役工場で用便を我慢したりすることも、原因の中に入ると思います。

俗に便秘にならない為には、毎日決まった排便習慣をつけるとか、適度な運動をすることか、野菜や繊維の多いものを食べるとか、ストレッチは溜めないとか……いろいろあります。マアその通りなんですけど、自由が制約され運動の機会は少い、食べ物はカロリーの帳尻合わせで炭水化物と脂肪が多く、野菜類は少い、緊張とストレッチばかりはたつぷりある獄中では、シャバの常識もなかなか通用しません。獄中では獄中で可能なやり方を考え、工夫しなければなりません(とはいえ、できることはちゃんとやるべきです。配食の野菜は残さず食べ、運動はしっかりやる。蛇足ながら私は運動で外に出た時、青もの補給のチャンスとばかり、食べられそうな野草とか木の若葉をす

ばやく取り、モグモグ食べてました。まるで牛やね！)

ほんじゃ、どうするか。

まずは「おなかマッサージ」。

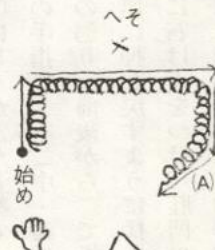


図1

●掌を使い、右下腹部より矢印に沿っての字を書く様、ていねいに押圧マッサージをしていく。軽く圧する程度の力。

●毎日朝食前と夜就寝前に10分間ずつやる(時間あれば30分間やってよし)。朝時間がなければ数分でやめ、夜20〜30分間みっちりやるようにする。

●入浴時一分間でもよいから浴槽の中でこのマッサージをやる。

このマッサージは腸に活力を与え、少しでも機能を衰えさせない為にするものだから、

予防にもまた治す際にも基礎的手当法として
用います。便秘になっている人ももちろん、
便秘になりやすい人は、すぐにも「おなかマ
ッサージ」を始めると共に、内臓全体を強化
する運動（前屈腹筋と両手広げ体を左右にネ
ジる）も是非やるようにしてください。

さて、既にしつこい便秘に悩んでいる人。

潮風七号にも書いてあった様に、便秘対策
として一般に朝起きしな水をコップ一杯飲
むとか、同様に塩水や冷たい牛乳を飲むとか
言われていますが、それだけでは常習便秘の
人には効かないようです（たまに便秘になる
人は、こんな方法で通じがつかうことがあるの
で、すぐ下剤など求めずに試してみてください）。
そんな人は普段から次の努力をしてみてください。

(一) 頭頂部と尾骨内側の指圧。

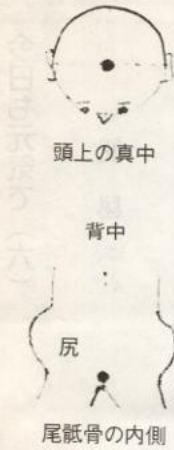


図2

●この二ヶ所を各3分間ずつ指圧。やや
強めにグリグリと。使う指はどの指で
もよい。
(二) 指マッサージ



図3

●人差指の掌側の第一関節と第三関節の
間及び手首の上を、反対の手の親指で
マッサージする。

(三) 足裏マッサージ。
●揉みほぐす感じで。左右同様、片手で
5分間づつ。

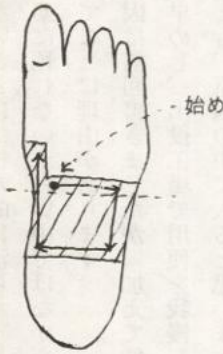


図4

●足裏真中あたりを矢印の方向に、手の
親指を使い強めの力で押し延ばすよう
に、押圧していく。

●左右同様、片足に5分間ずつ。
(一) (一) (二) (二) (三) (三) (四) (四) (五) (五) (六) (六) (七) (七) (八) (八) (九) (九) (十) (十) (十一) (十一) (十二) (十二) (十三) (十三) (十四) (十四) (十五) (十五) (十六) (十六) (十七) (十七) (十八) (十八) (十九) (十九) (二十) (二十) (二十一) (二十一) (二十二) (二十二) (二十三) (二十三) (二十四) (二十四) (二十五) (二十五) (二十六) (二十六) (二十七) (二十七) (二十八) (二十八) (二十九) (二十九) (三十) (三十) (三十一) (三十一) (三十二) (三十二) (三十三) (三十三) (三十四) (三十四) (三十五) (三十五) (三十六) (三十六) (三十七) (三十七) (三十八) (三十八) (三十九) (三十九) (四十) (四十) (四十一) (四十一) (四十二) (四十二) (四十三) (四十三) (四十四) (四十四) (四十五) (四十五) (四十六) (四十六) (四十七) (四十七) (四十八) (四十八) (四十九) (四十九) (五十) (五十) (五十一) (五十一) (五十二) (五十二) (五十三) (五十三) (五十四) (五十四) (五十五) (五十五) (五十六) (五十六) (五十七) (五十七) (五十八) (五十八) (五十九) (五十九) (六十) (六十) (六十一) (六十一) (六十二) (六十二) (六十三) (六十三) (六十四) (六十四) (六十五) (六十五) (六十六) (六十六) (六十七) (六十七) (六十八) (六十八) (六十九) (六十九) (七十) (七十) (七十一) (七十一) (七十二) (七十二) (七十三) (七十三) (七十四) (七十四) (七十五) (七十五) (七十六) (七十六) (七十七) (七十七) (七十八) (七十八) (七十九) (七十九) (八十) (八十) (八十一) (八十一) (八十二) (八十二) (八十三) (八十三) (八十四) (八十四) (八十五) (八十五) (八十六) (八十六) (八十七) (八十七) (八十八) (八十八) (八十九) (八十九) (九十) (九十) (九十一) (九十一) (九十二) (九十二) (九十三) (九十三) (九十四) (九十四) (九十五) (九十五) (九十六) (九十六) (九十七) (九十七) (九十八) (九十八) (九十九) (九十九) (百) (百) (百一) (百一) (百二) (百二) (百三) (百三) (百四) (百四) (百五) (百五) (百六) (百六) (百七) (百七) (百八) (百八) (百九) (百九) (百十) (百十) (百十一) (百十一) (百十二) (百十二) (百十三) (百十三) (百十四) (百十四) (百十五) (百十五) (百十六) (百十六) (百十七) (百十七) (百十八) (百十八) (百十九) (百十九) (百二十) (百二十) (百二十一) (百二十一) (百二十二) (百二十二) (百二十三) (百二十三) (百二十四) (百二十四) (百二十五) (百二十五) (百二十六) (百二十六) (百二十七) (百二十七) (百二十八) (百二十八) (百二十九) (百二十九) (百三十) (百三十) (百三十一) (百三十一) (百三十二) (百三十二) (百三十三) (百三十三) (百三十四) (百三十四) (百三十五) (百三十五) (百三十六) (百三十六) (百三十七) (百三十七) (百三十八) (百三十八) (百三十九) (百三十九) (百四十) (百四十) (百四十一) (百四十一) (百四十二) (百四十二) (百四十三) (百四十三) (百四十四) (百四十四) (百四十五) (百四十五) (百四十六) (百四十六) (百四十七) (百四十七) (百四十八) (百四十八) (百四十九) (百四十九) (百五十) (百五十) (百五十一) (百五十一) (百五十二) (百五十二) (百五十三) (百五十三) (百五十四) (百五十四) (百五十五) (百五十五) (百五十六) (百五十六) (百五十七) (百五十七) (百五十八) (百五十八) (百五十九) (百五十九) (百六十) (百六十) (百六十一) (百六十一) (百六十二) (百六十二) (百六十三) (百六十三) (百六十四) (百六十四) (百六十五) (百六十五) (百六十六) (百六十六) (百六十七) (百六十七) (百六十八) (百六十八) (百六十九) (百六十九) (百七十) (百七十) (百七十一) (百七十一) (百七十二) (百七十二) (百七十三) (百七十三) (百七十四) (百七十四) (百七十五) (百七十五) (百七十六) (百七十六) (百七十七) (百七十七) (百七十八) (百七十八) (百七十九) (百七十九) (百八十) (百八十) (百八十一) (百八十一) (百八十二) (百八十二) (百八十三) (百八十三) (百八十四) (百八十四) (百八十五) (百八十五) (百八十六) (百八十六) (百八十七) (百八十七) (百八十八) (百八十八) (百八十九) (百八十九) (百九十) (百九十) (百九十一) (百九十一) (百九十二) (百九十二) (百九十三) (百九十三) (百九十四) (百九十四) (百九十五) (百九十五) (百九十六) (百九十六) (百九十七) (百九十七) (百九十八) (百九十八) (百九十九) (百九十九) (百) (百)

どのコースでやっても構いませんが、毎日
どれかを朝起後と夜就寝前の2回やること。
朝は糞が出て出なくても、マッサージを終
えたら必ず便器に座り（排便するつもりで）、
図1の(A)部分を左手指先で斜にゆっくり押し
下してください（注、これは排便刺激の上で、
大切なことですから忘れずに）。

「おなかマッサージ」をやって、(一)、(二)、
(三)までやれば大抵の通じはつきます。いやそ
れでもダメだった人には「奥の手」しかあり
ません。床にしゃがんだ姿勢で、ズボンの上
から左右の手指先二本（中・薬）を交互に使
い、肛門の廻り（前後から）で指先に感じる
固まりを奥に押し戻すように揉む。この後さ
らに指先に石けんをつけ、肛門の中、外に塗
ります。ここまでやれば自力解放は間違いな
し。

何もそこまで難儀せんでも、下剤や流腸な
ど便利なものがあるじゃないかと思われるで
しょうが、常習便秘なら薬を乱用することに
なっただんだん効かなくなり、結局は強くし

『潮風』購読のお願い

荒井政男さんは、三崎事件（1971年12月、神奈川県三浦市三崎で起きた一家三人殺害事件）の犯人としてデッチ上げ逮捕されました。

無実を訴えて闘いつづけてきましたが、1990年10月7日に上告棄却され、死刑が確定しました。荒井さんは、ただちに再審を提訴してたたかっています。しかし、当局は死刑が確定してからは、死刑囚処遇のもとで、獄外との面会・文通を弁護士・家族に制限しました。

この『潮風』は、荒井さんが家族へ宛てて出した手紙の中から、“荒政さん（荒井さんの愛称）だより”として荒井さんの声を獄外に、また“潮風にのって”としてみなさんの声を獄中の荒井さんに届けるために死刑確定直後から発行しています。

共に再審を闘い、死刑を廃止していくために、『潮風』の購読をお願いします。

*** 頒価200円（送料一部72円）**（振替用紙に荒井さんと潮風へのあなたの一言をそえて、何号分としてまとめて送って下さるとうれしいです。）

*** 申し込先** 荒井政男さん救済会
東京都千代田区神田錦町1-1-6 神田錦町ビル
大手町共同法律事務所気付

*** 振替** 東京3-546727

た薬のおかげで腸の働きを一層ダメにし、ますます頑固な便秘症にしてしまうのです。獄中では常習便秘の人は、薬に頼らないで自分の努力で治すしかありません。

突然便秘になった場合、下剤の力でなんとかしたいと思う人は注意して下さい。獄医にただ「下剤をくれ」なんて言っていると、とんでもない強烈な合成薬の頓服を出され、今度のは逆にピッピーシャッシャーが止まらんよーってな笑い話にもなりかねませんので。常習でないなら「緩下剤」の投薬を要求すべきでしょう（これは私の体験談。ちなみにシャバで一番安全有効な緩下剤はゴマ油。大さじ軽く一杯を飲みます）。

便秘との闘いは一にも二にも「クッソー」という根性とねばりです。すつきりいくよう各自のフン闘を祈ります。

医食コンサルタント「琉玄」 木田明夫

〈訂正〉

八号に間違いがありましたので訂正します。

10頁2段15行 印導↓引導

10頁3段10行 書いて↓描いて

10頁3段19行 保障↓補償

発行 荒井政男さん救援会

東京都千代田区神田錦町一―一六

神田錦町ビル三階 大手町共同法律事務所気付
郵便振替 東京31546727

一九九二年十一月二十五日 第九号発行

頒価 二〇〇円

潮風

第10号●

1993年2月25日

三崎事件

荒井政男さんは無実

Handwritten characters in blue ink, possibly a signature or title, located at the top center of the page.



新法務大臣 後藤田正晴に

弁護団が要請書を提出

法務大臣 後藤田正晴 殿

要 請

ご承知のとおり、一九八九年十二月に国連総会で採択された「死刑廃止をめざす市民的及び政治的権利に関する国際規約・第二選択議定書」(いわゆる死刑廃止条約)は、一九九一年七月十一日に発効しました。

わが国は、残念ながらその条約の締約国に未だなっておらず、むしろ反対をした経緯があります。これは、世界の多くの国が死刑制度を廃止することにより「人間の尊厳を高め、人権を一層増進させる」(同条約前文)方向に大きく一步を踏み出そうとする動きに反することであります。

わが国政府は、さまざまな分野で「国連中心」の政策を掲げながら、人権の分野ではとかく世界の潮流に遅れをとっているとしか考

えられません。

一九八三年免田栄氏をはじめとして死刑確定者の誤判決が明らかとなり、再審によって無罪となる事例が、谷口繁義氏、斎藤幸夫氏、赤堀政夫氏と四例にもわたったことは、わが国司法制度上の画期的な出来事であったと考えます。ところが、その四例の「死刑再審無罪」の時期と平行して、あるいはその後も、多くの冤罪者の死刑が確定しております。この事実はまだに常軌を逸したものと云わざるを得ません。

我々が弁護人となっている、荒井政男氏もその一人です。荒井氏は今から二十一年前のいわゆる「三崎事件」で起訴され死刑を宣告され、一九九〇年十月に上告を棄却されましたが、全くの冤罪です。荒井氏の再審請求申立は一九九一年一月三十一日に横浜地裁横須賀支部に提出されました。我々弁護人としては、荒井氏の無罪を得るまで努力を尽くす所存です。

法務大臣である貴殿は、死刑廃止が世界的な潮流となっていることを認識され、また、多くの冤罪死刑囚の存在にも留意された上で、

せめて死刑執行の手續きをとられることのないよう、切に要請いたします。

一九九三年一月二十七日

東京都千代田区神田錦町一―一六

大手町共同法律事務所

荒井政男氏弁護団

弁護士 伊藤 まゆ

同 青木 孝

同 幣原 廣

同 小川原 優之

同 宮本 智

後藤田法務大臣は「確定している者の執行は、法務の仕事に携わる者として大事にしないと、法秩序そのものがおかしくなる」(十二月一三日付朝日新聞)と語っている。救済会は、十二月十四日に配達証明で要請書を送付した。これからも続けて「死刑執行をするな」とハガキや手紙を出そう。

〔宛先〕東京都千代田区永田町二の二の一

衆議院第一議員会館五二七号

又は、東京都千代田区霞が関一の一の一

法務省法務大臣 後藤田正晴まで

さまざまな動きのなかで再審へ

⑧

山際 永三

狭山事件の再審

求意見で緊迫

日本政府は、一九七九年に「市民的及び政治的権利に関する国際規約（人権規約）」を批准し、義務となっている報告書の第三回を九一年十二月国連事務総長に提出した。その日本政府報告書が、同規約人権委員会（委員十八人）で審議されるのは今年三月の第四七回会期（ニューヨーク）においてと言われていたが延期になり、今年七月十二日から三十日までの第四八回会期（ジュネーブ）になりそうだ。人権規約を批准する国が増えて、新しい国や報告提出の遅れている国についての審議が優先されているとのことである。

わが「再審事件交流会」では、昨年いっばいかけて英文のカウンタレポートを作成し、いつでも十八人の委員に送れる状態になっていたが、他のカウンタレポート作成グループ（自由人権協会、死刑廃止運動、獄中者組合など）が、もう少し様子をみてから送ろうと

しているので、それに歩調を合わせることにした。「再審事件交流会」の英文報告書は、本文がA4判五ページで、具体的な十三事件の資料（英文）が添付される。

国連人権委の審議

遅れて今年七月か

狭山事件（石川一雄さん）の第二次再審請求は東京高裁に申し立てられていたが、昨秋に裁判所は検察官に、ひき続き弁護団に対して刑事訴訟規則第二八六条に基づく「求意見」を行い、十二月七日に検察官からの意見書が提出された。それが異例なほど膨大なもので、被害者の死因・脅迫状の筆跡などについて四通の鑑定書も同時に提出された。狭山事件は、第一次再審、同棄却後の異議審、特別抗告審、第二次再審と経緯してきたが、その間徐々にではあるが、事実認定において裁判所の判断の変化を勝ち取ってきた。

たとえば死因については、数通の法医学再鑑定により、原判決認定の「扼殺」（手で首

を締める）ではなく「絞殺」（紐のような物で首を締める）であることが決定的に証明され、裁判所も「絞殺」の可能性を認めざるをえないようになっていた。焦った検察官が弁護側の主張にケチを付けるため、さらにもう一人の法医学者に再鑑定を依頼した。その法医学者が悪名高き石山いく夫で、今回分厚い鑑定書を出してきたのである。

石山の鑑定書は、一九八九年のものだが、今回東京高裁から提出される前に、その内容の概要は漏れていた。なぜかというところ、石山自身が狭山事件と名指しは避けながらも誰がみても狭山とわかるような書き方で、弁護側の主張にケチをつける独断的・非科学的な意見内容を、自分の東大法医学主任教授退官講義（九一年二月）や市販の本（筑摩書房発行「法医学への招待」九一年九月）の中で得意げに発表し、多くの人々から「正式の鑑定書が裁判所に提出される前に鑑定人が自分でペラペラとしゃべりまくるなど不見識もはなはだしい」とひんしゆくをかってきた。再審をつぶすことに執念をもちやすこの古畑種基の孫（曾孫？）弟子の姿は、異常とさえ言える。

現在狭山再審弁護団は、その石山鑑定への反論をはじめとする弁護側意見書を作成するために全力をあげている。

寄稿

監獄の歴史と現在を訪ねて(四)

九州・三池編(その二)

大山 武

三池集治監のあった福岡県大牟田市にはいくつかの囚人墓地があり、囚人墓地保存会の人たちが保存に努力している。そのうちのひとつ、「合葬ノ碑」がある大牟田市竜湖瀬町の順照寺を訪ねた。鉄筋コンクリート造りで一

見学校のような建物の順照寺の境内に、「合葬ノ碑」はあった。境内といっても、近代的な造りの順照寺の場合、普通の家の庭くらい



順照寺境内「合葬の碑」

の広さなのだが、そこに「合葬ノ碑」と二つの地蔵が立っている。若い住職によれば、もともとは近くの民家の軒先にあったのだが、区画整理か何かでとりのけられそうになったので、ここに移したのだそうだ。

碑には「福岡県元三池監獄在監人死亡者。

明治二五年五月建」とある。明治一九年の三池監獄の記録に「該署二墓地ノ設ケナキヲ以テ明治拾七年八月申有地(三池郡稲荷村字竜湖瀬二四拾坪、同郡櫛木村字散田式拾坪)ヲ買入墓地ト定ム」とあるから、この「合葬ノ碑」はこれらの埋葬地に仮埋葬されていた死没囚を合葬した墓碑にちがいないという(霊よ、安らかに——三池炭坑囚人労働写真集——大牟田市囚人墓地保存会)。

無人の炭住と「解脱塔」

三池集治監の囚人の一部が出役し、坑口に集治監派出所まで設けられていたという旧勝

立坑の近くに、「解脱塔」という囚人墓碑があるというので、行ってみた。「解脱塔」があるという小山のふもとにはかつての炭住で、四十棟余りの長屋と巨大な共同浴場が残っていたが、それも新しい団地の造成のために取り壊されつつあった。この山一帯が集治監の埋葬地で、炭住ができてからもよく白骨が発見されたそうである。無人の炭住の背丈ほどもある雑草のなかをぬけて、その山に登ってみたが、「解脱塔」を見つけることはできなかった。

この他にも、一の浦町の五十基余りの小墓石群などいくつかの囚人墓地があるという。

暗黒の地底労働

三池集治監では全囚人の三分の二にあたる千人余りが二交代で採炭に出役していた。労働の実態は別の機会にゆずるが、その過酷さを示す数字をあげておこう。

一八九三(明治二六)年から九七(明治三〇)年の囚人の平均死亡率は、北海道集治監で一・六%、東京集治監で二・六%、三池集治監は五・四%で、全国でもとびぬけて高い。ちなみに、当時のイギリスの囚人死亡率は

○・九%である。

高死亡率の原因が採炭労働にあったことは言うまでもない。作業事故による死亡者は一八九七(明治三〇)年は五人、九八年は九人、九九年は六人といったぐあいである。採炭夫の病死者は、例えば一八九九年一月―九月では三九人で三・八九%、そのうち呼吸器系疾患が二五人である。同時期の内役夫の病死者の死亡率は二・四八%、呼吸器系疾患は一〇人中二人にすぎない(田中光夫「炭鉱における囚人労働」)。

逃走者のいない大暴動

過酷な労働に対する囚人の抵抗も激しかった。集治監開庁の翌月、一八八三(明治一六)年五月には早くも、七浦坑から帰還途中の囚人六名が連鎖を切って逃走(内三名捕縛、二名重傷、一名逃走を遂げる)。翌六月にも十七名が鋸で便所の格子を切り落として破獄(内二名拒捕斬殺、二名捕縛、その他は逃走を遂げる)。八月にも七浦坑内で二十数名が看守の帯剣を奪い、棒や鶴はし持って逃走未遂(六名斬殺、二名重傷、看守三名負傷)。翌九月には集治監とは別に大浦坑に出役し

採炭夫昼役之部

	起床	喫飯	出役	午飯	罷役	還房	就業時間
1月	7時	30分	7時半	30分	3時	4時	6時
2月	6時半	〃	7時	〃	3時半	4時半	6時半
3月	6時	〃	6時半	〃	4時	5時	7時
4月	5時半	〃	6時	〃	4時半	5時半	7時半
5月	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
6・7月	5時	〃	5時半	〃	5時	6時	8時
8月	5時半	〃	6時	〃	4時半	5時半	7時半
9月	6時	〃	6時半	〃	4時	5時	7時
10月	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
11月	6時半	〃	7時	〃	3時半	4時半	6時半
12月	7時	〃	7時半	〃	3時	4時	6時

採炭夫夜役之部

	喫飯	監房掃除	出役	夜食	罷業	還房	就業時間
1月	3時半	30分	4時	1時間	3時半	7時半	10時間
2月	4時	〃	4時半	〃	4時	〃	〃
3月	4時半	〃	5時	〃	〃	7時	〃
4月	5時	〃	5時半	〃	〃	6時半	9時間半
5月	〃	〃	〃	〃	〃	5時半	〃
6・7月	5時半	〃	6時	〃	〃	6時	9時間
8月	5時	〃	5時半	〃	3時半	6時	10時間
9月	4時半	〃	5時	〃	4時	6時半	10時間半
10月	〃	〃	〃	〃	4時半	6時半	〃
11月	4時	〃	4時半	〃	4時	7時	〃
12月	3時半	〃	4時	〃	3時半	7時半	10時間

採炭囚動作時限、田中光夫「炭鉱夫における囚人労働」より

ていた熊本県監獄署の囚人が大暴動を起こし、坑内油庫に放火、民間人二三人、囚人二四人、馬匹二三頭が焼死している(延焼防止のために、抗口をふさいだ言われている。そうでなければ、この数字は理解できない)。大浦坑の大暴動は炭鉱出役史上の最大の暴動だが、原因については、監獄側の資料でも、極度の労働強化のために、坑内を燃やして廃坑にすることを目的としたものとされている(重松一義「日本の監獄史」)。これだけの大暴動でありながら、一人の逃走者もなかった

ことがその証拠である。かつて三池炭坑の中心であった四山坑も廃坑となり、今は無人であった。その門前で右翼暴力団に刺殺された久保清さんの碑が、近くにある。現在操業している炭坑は、日本に二つしかないという。囚人と労働者は炭坑と運命をともしせられ。資本だけが移動して生き残り、そのような労働者の歴史がなかったかのようにして繁栄することなど許されるものではない。

⑨ 荒政さんだより



●キムチを買ってみよう

十一月からキムチが買えるようになったからもう差入れ食品は何もいりません。何故今頃になってキムチ買入れが許可になったのか不思議ですよ。マ、大好物だからそれでいいけど、ニンニク抜きだつたらガツカリだね(笑)。マ、受取ってみないと分からないけどね。

今日の新聞で、三浦和義さんと大久保さんの裁判でアメリカの裁判所で全証拠開示裁判も闘っていることが出ていたね。アメリカでは全証拠開示裁判をやりと、不利有利をかまわず隠さず出さねばならないのだそうです。アメリカの裁判法のように日本の裁判も警察・検事が全証拠を隠せないことになれば、父さんの無実明白になるんですね。三浦君たちの事件というのは、現場がアメリカなので全証拠が出てくるのは、権利としても確かでしょうね。だから検察側

はデッチあげが崩壊するから慌て焦っているのが新聞でもみえみえでしたね。三浦君と大久保君の今までの裁判の内容を父さんは知らされているのですから無罪勝利することは見えていますよ。とにかくガンバルよう声援を送っていますよ。

●熊(ひぐま)のように座って

(一〇月三十一日)
今日は北風が吹いて冷たいですよ。だから冬衣重ね着して熊(ひぐま)のように座っています。両足投出しなので健常者よりも冷え込みがきついわけです。だから防寒ズボンがとっても助かります。防寒も引きが何より助かります。

父さんはアグラ座りが出来ないので足先きが冷えて困ります。クツ下しっかり重ねばきしていますが、それでも冷えます。でも十二月一日から膝かけ毛布が許可になるからクツ下三枚で充分助かりますからご安心下さいね。今、入浴から上がってきてキムチを受け取ったところです。

(十一月二十七日)

●完治しない糖尿病 気長にコントロール

読売新聞でも糖尿病シリーズが十二回まで出ているのを読みましたよ。その結論は完全に治らない病気だということでした。ただし、本人が体でコントロールして生き抜いていくことができるということでした。食事療法と体重減量で気長に闘っていくことしかないということでした。ガツカリしたがこの生き地獄生活を逆手にとつて東拘養老院内生活で自分の体をコントロールしていく自己規制生活を努力していくことだと再認識した次第です。完治しない病気に対処していく気長な闘いのだと自覚して焦らずに再審闘争同様にガンバります。

次に、父さんの窓辺の柿の木の実がとうとう全部小鳥たちの餌となりました。ハツバもすべて散りました。十一月に入ってから、渡り鳥のツグミがきています。しかもヒヨドリ一族と同じくツグミ一族も例年来ていた一族ですよ。

十二月二日から湯タンポが使用できます。去年まで一回使用(午後三時頃から翌朝ま

で)三十円でしたが、ナント、今年から四十円に値上げになったのです。ガツカリ。便乗値上げです。父さんは値上げ反対です。

年賀ハガキは十二月一日メ切でしたから十一月二十五日に提出しました。東拘から許可された身内と弁護士さんと教誨師キリスト牧師さんだけです。発信文はカンタンに書いたよ。でないといと検閲から突返されてしまうのです。(十一月二十八日)

●湯タンポは無料にして

パンフレットありがとう。

ゆうべは救援会会合にきている皆さんの夢を見ましたよ(笑)。忘年会でもしているような呑み会しているような夢でしたよ。お母さんの夢も見ましたよ。夢の中のお母さんは若い時代の姿でしたから、どこの夢だったのか思い出せませんね。

さて、今年もあと少しで正月ですね。獄外は不景気風が吹きまくっているようなラジオニュースもありましたので案じています。東北地方は雪が降っているようですがウィッチさんの家もすっかり雪の中でしょうと思います。雪の支度を充分なさっているだろうか

案じています。そうそう、夢の中には森医師さんもいましたので「潮風」九号を読んでた故で夢見たんだろうと思います。

十二月七日、一つ隣りへ午後から転房したその疲れもようやく治りましたのでご休心下さいね。十二月七日は午後一時から夕食近くまでかかってやっと引越(転房)無事に終りました。半年に一回の獄法にあるという強制転房だから、階舎房全員なのです。まだトイレ研なきはやっていません(笑)。

父さんは運動欠かさず必ず出ていますからご安心下さい。身体健康維持と老化を防ぐために、全身太陽の光を浴びて歩いたり日向ほっこしたりしています。歩くのがとても苦手なのですが、一所懸命歩くことを目的にガンバっています。共に体の健康に気をつけながら再審目指して闘い抜きましょうね。

今夜明け前です。お布団ありがとうね。とても暖かいですよ。だから自宅に寝ているのと変らないですよ。勿論クツ下はいて寝ています。自宅に寝ていた時も冬はクツ下はいていたからね。湯タンポは新年になってから使うことになるでしょう。こんな訳で湯タンポ貸値上げ反対不買が続けられます。そもそも

父さんの要求闘争の項目の中には、湯タンポ無料貸与を言っているんですよ。その獄中闘争要求項目の中では少しですが、要求が通って「生ヤサイ」も多く回数出るようになったし、牛乳無料のませるも月に三、四回出すようになったしね。マ、東拘食費が上がった事情もあるといえるわけです。しかしながら湯タンポ貸値上げはとつても不当で許せません。フトンが官品の老人たちや障害者には湯タンポ貸料は無料にすべきです。(十二月十六日)

●一大傑作はわが窓辺庭絵

「潮風」九号ありがとう。われながら荒政の窓辺庭絵コピーに感心しています(笑)。心がこもっていますのがあふれているねえー!!(笑)。一大傑作ですねえー!!(笑)。正に自画自賛ですね(笑)。

蒲公英さんのお元気なレポート「小菅秋天」を読み返しながら菓鴨から小菅へと舞台は変ったが、長い長年月を囚人たちへの面会行動続けてこられた蒲公英さんの行動の労苦に今更ながら頭が下がります。心からありがとうございます。そして御苦勞様とお伝えし

物言わぬ木の葉と吾れも語りたや吾が運命の無実怨みし

血糖の採血の針腕痛し六月の風医務室さやか

餌くれと獄猫座る窓下に吾れと目が合いニヤーンと鳴きぬ

獄庭の雀の群れがにぎやかにコーラス唄う窓の夕暮れ

獄の猫窓辺ガラスにうずくまり吾れを見ている真夜の目光り

早起きを獄の雀と競い合い吾れ寝不足し今朝は負けたり

孫娘面会室ではしゃぎいて母に叱られふてくされおり

獄の真夜蚊に刺されては目覚れど蚊をさがせども老眼見えじ

のど自慢獄のラジオに耳すまし吾れきき惚れし日曜日かな

昼ご飯大きなサンマ久しぶり元魚屋の吾れの喜び

獄房の孤独に馴れて涙枯れ無実無念の二十二年目
(一九九二年六月作)

てね。たんぼさんは私の確定間近日まで面会に来て下さいました。支援者との分断は再審妨害そのものです。

山小屋だよりの吊し柿の写真もありがとうございます。ひらたけや椎茸がポコポコ出ていること、大喜びのウイチチさんの百万ドルの笑顔が目には浮んできました。

次に木田さんの「便秘」とのたたかいの図面ありがとうございます。父さんはずっと昔からこの図面通り、お腹をもみもみ回してやっているのですよ。大小共宿便排出に工夫していたことと、木田さんの図面と一致したのですよ。現在もお腹をもみもみやっています。快便快小でています。ありがとうございます。

(十二月二十一日)

●二〇歳に若返って

死刑廃止へ現場から

今日看守係長がきて房前できのう小川原弁さんと面会した折に父さんが未決中文通していた確定死刑囚の父さんの階にいる人の名を話したことに、ケンカ腰でドナリつけてきたので父さんもどなり返してやったよ。すると管区へ来いというのでいきました所、

(十二月二十二日)

係長が区長と突立ったままで、区長が静かに弁護士面会でも獄中者の名前をしゃべってはいけない。と説明してくれましたが、なぜ弁護士さんに話してもいけないのか？それは監獄法で決められているのか？父さんには理解できなかったが、一応ケンカしないで帰ってきましたよ。ただ若い係長のゴウマンな口ぶのきき方にはとても許せない生意気な口調ぶりに許せない怒りが残っています。…この怒りを今後水に流すか？否か？が問題です(笑い)。確定死刑囚友名を手紙で書いたり又は弁護士に話したりしてはいけません。とは、監獄法にも、獄房内心得にも書いてないのです。それをダメだと弾圧してくるから若返って闘魂さらに燃える父さんです。父さんも二〇歳の青年に戻って吾が子ほど年若い看守の暴言に断処していきます。多分、法務省から何かの指令が来たものと思われまます。確定死刑囚を密殺執行する差別主義の法務省の死刑を廃止するためにも、確定死刑囚が殺されないよう囚友の現状……はますます怠らずに囚友同志で確認し合って、死刑廃止へ現場からですよ。ではね、今夜はこの辺で。

血圧一七四―九〇でした。薬のみます。血糖値二〇四に下がってきたよ。天皇誕生日のお汁粉も捨てたよ。

結論として、法務省は確定死刑囚を極秘に密殺してきている訳ですから、確定死刑囚は運かれ早かれいまのままでは法務省の尖兵である看守からいざれ殺される運命にあるわけですから、根本的に殺す者と殺される者（父さんも含まれる）との対立運命者なのです。従って殺す側の看守等の立場は法務省指示により確定死刑囚の言動にまで微細な監視をやるのが仕事なのです。今回の係長の行為はその表れなのです。水と油ですから決して溶解妥協点がないのです。あるのは死刑廃止のみです。この「死刑廃止」こそが非人間的な看守業をもまた救う道なのです。同時に冤罪者も救う道なのです。同時に有実の確定死刑囚たちも救う道なのです。同時に人類の愛を取り戻す唯一の道なのです。

人権だの、プライバシーだのという看守の言葉はこじつけだと最終的に分析結論にいたしました。はつきり弾圧です。確定囚友の名前を弁護士さんに話そうが手紙で書こうが法的根拠がないのです。父さんは密殺されています。

ないから囚友たちの元気な日常を知らせる自由と権利があるのです。水と油の対立者たちなのだから殺す者と殺されまいとする者との闘いが日常生活の中にゲンゼンと存在しているのです。

(十二月二十四日)

●明日から獄中も休み

受刑者も今日で作業が終わりです。正月休みといったって父さんには何も変りない年末年始ですよ(笑)。今日は年末最後の発信日なので急ぐ気分です。年末だから短歌を清書したりしていました。まだまだものすごい数があるメモを大学ノートに写して、また罫紙に清書していくのですから、整理の甲斐があります。小説は頭休めに読んでいるんだが、ついついのめりこんでしまいます。子供心に戻ってしまっているよ。十三―十五歳はデッチ奉公時代小説ばかりでしたよ。

(十二月二十八日)

●闘春 新年おめでとう

イクラに無念の涙が

今日は元旦。折詰一ケとふかしアン入り饅

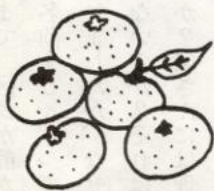
頭紅白二ケ入りバックとリンゴ一ケが出ました。例年の通りです。朝食は餅のつきたての柔らかいのが一ケと雑煮汁でした。昼食には牛肉切身ステーキとホウレン草スープと生やさしい皿でした。夕食はヤサイ煮込みと茶わん蒸しとスプーン一匙位のイクラが出たのです。これは二十三年ぶりのなつかしさと同時に無念の怒りが涙となって溢れこぼれました。

(一月一日)

今日の歌より

生き地獄住めば都のたとえあり
一木一草吾が友なりし
雀等がいつも窓辺で吾れを呼ぶ
パンを呉れよと歌を唄いし

(二月四日)



面会制限しておいて

内容で叱責とは

心ない東拘

年末の弁護士接見で荒井さんが囚友の話をしたら、若い看守係長に怒鳴られ、管区にまで呼び出されたそうです。いつもながらの東拘の心ない対応には腹が立ちます。

死刑囚同士だからこそ、お互いの身を気遣い、「彼は今日も元氣か」「体調を崩していないか」と思うのは当然の人情ではないでしょうか。それを弁護士に話したからといって、いちいち叱責する必要があるのでしょうか。東拘は「他の獄中者のプライバシーを守るため」という理由を挙げるのでしようが、お互いの身を気遣い面会で話すことがプライバシーの侵害になるなんて、誰も考えません。逆に、看守こそ、自分が担当している死刑囚のことを、「今日も元氣でよかった」と自分の家族に話すくらいの気持ちがあってもよいはずですよ。それを「プライバシーの侵害」とは言わない

でしょう。

そもそも再審弁護人との接見に立会いをつけること自体が不当です。一般面会についても監獄法は監獄法施行規則に制限をゆだねていますが、施行規則にも内容制限の規定はありません。

実務では、①「不法に物品を授受するとき」②「逃走を図ろうとするものである場合」③「犯罪をそそのかすものである場合」④「施設の規律秩序を害するおそれのあるものである場合」には、「その行為若しくは発言を制止し、又は接見を一時停止することができ」という扱いをしているようです。

最後の理由はいまいすぎて問題ですが、これに「他の獄中者のプライバシー」を含めたとしても、荒井さんの発言が「施設の規律秩序を害するおそれがある」とは大げさにすぎます。たとえ事後「指導」であるとしても、「指導」の理由があるとは思えません。

この問題は、根本的には、面会にいちいち立会いをつけて内容をチェックする日本

の監獄のやり方にあると思います。ヨーロッパなどでは十人くらいが一部屋で、立会いなしに一緒に面会するような形が当たり前だそうですね。そういうやり方なら、今回のようなことは問題にもならないはずですよ。

さらに問題なのは、「心情の安定」を理由に死刑囚の面会が極度に制限されていることです。執行の危険に毎日さらされているからこそ、自分の気持ちや再審のことを他の人に訴えたい、一人でも多くの人といろいろなことを話し合いたいと思うのは、人として当然の欲求ではないでしょうか。「心情の安定」のためなどといって面会を制限するなど全く逆転した発想です。

また、ただでさえ面会が制限されているのに、自分の父親ほど年齢の違う荒井さんを怒鳴りつけたり、管区に呼び出して心理的圧力をかけて、ますますものが言えずらい状況を強制するような心ない対応はやめてほしいものです。

このように非人間的な監獄の状況だからこそ、荒井さんとさらに強い絆を作り上げ、再審にむけて頑張っていきたいと思えます。

1993

無実の荒井政男

益永陽子さん



丸山康男さん



迎春

佐川和男さん



闘

明けまで
おめでとう
ござい

(荒井さんの年賀状より)

◇きのうの今日にすぎないものを、一夜明ければ新年です。

なんの抱負も展望も持ち得ないま、に一九九三年を迎えることになりました。

馬齢八十二歳、世の中を睨むには少し年をとりにすぎたようです。

というわけですが、どうぞ今年もよろしく願います。

(東京 上野延代さん)
◇一九九三年となりました。今年も共に闘いましょう。

「真実を闘わずして無罪勝利なし」のスローガン全く同感です。面会と通信の権利を何故奪うのでしょうか。私たちは許しがたい非人間的な土俵の上で冤罪と闘うことのきびしさを思います。然し、法の裁定による真実へ希望をつながざるを得ません。私も又闘いだけがこの道を切り拓く武器になると信じます。

荒井さんの固い信念と体力が外を励まして、勝利をかちとって下さることを信じます。

(千葉 野田五三郎さん)

◇賀笑 いつもニュース頂きながら諸般・諸事に追われて「渡世の義理」を欠いていて申し訳ありません。まずは年頭のごあいさつまで。

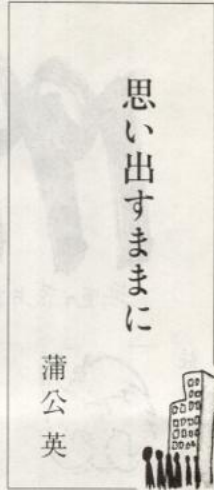
(群馬 乱鬼龍さん)

赤松晶子さん、山野静二郎さん、袴田茂治・袴田秀子さん、大森勝久さん、永田洋子さん、藤波芳夫さん、生原勇さん、楯腹剣次さん、新美隆・みつ子さん、浜野好子さん、木下達雄・貴美さん、田中勝久さん、山根一郎さん、木村京子さん、井野博満さん、中央狭山闘争本部安田聡さん、足立玲子さん、赤堀政夫さん、全障連関西ブロック、大森恭子さん、中川憲一さん、山田省二さん、大野萌子さん、吉沢稔さん、山本利恵さん、後義輝さん、深田卓さん、植垣康博さん、今村高五郎さん、三橋智樹さん、他のみなさんからいただきました。

~~~~~  
ありがとうございます。 「潮風」も粘り強く結びあってこの一年を共にたたかいたいと思います。(編)

## 思い出すままに

蒲公英



前号の「潮風」で三鷹事件にちよつと触れたばかりに、抜け目のない編集者から竹内景助さんについて書け、と強い要請を受けました。渺として月日の彼方にかすんでしまっている事件のことです。不確かな思いのままにかつての巣鴨監獄のあとが今のサンシャインです。あそこに足をはこぶようになったのはいつ頃のことだったでしょうか。

共産党員全員が無罪釈放となり、竹内死罪で一件落着後のことですから、どれほどの期間でもなかったのですが、手紙だけは頻繁にいただいています。

まだ、お仕着せの「民主主義」が獄中にも及んでいる時期でもあったし、竹内さんの無実が公然と語られていたときですから、当局の処遇もかなり穏やかだった気がします。外部からの物品、食料の差し入れも制限された記憶がありませんし、看守がそばで記録していたかどうかも不確かです。面会室の鉄

の仕切りも空気や音声をよく通しましたし、今のようにな潔なプラスチックボードに遮られ、空気も通声もままならぬ不粋な面会室の風景より、「牢獄」の代名詞のように言われていた鉄格子の方がはるかに感情が通い会えていたものです。

ある時、私が一番疑問に思っていたことを質問したことがあります。竹内さんは苦笑しながら「いやあ、僕はおつちよこちよいでね、仲間を助けたかったし、それに英雄になりました」

竹内さんがおつちよこちよいかどうかは知りませんが、この人の性格を共産党はうまく利用したのでは、と推測することはできません。「組合(党)はあなたを支援していますか」の問いには曖昧な態度で、強い批判は聞かれませんでした。慮るところがあったのでしょうか。焦りが感じられました。

「平林たい子さんに手紙を書きました」と竹内さんから聞いてから日ならずして平林さんが新聞に記事を寄せて「竹内景助という無智な男が私に助けを求めてきた」と書いていました。その後どういう経緯でか、平林さんが竹内さんを支援されている、と聞いていま

す。

処遇改善の獄中闘争を次々にやっていますが、処分を受けた話は聞いておりません。

とは言っても監獄であることに違いはなく、竹内さんの発病を奇貨として、処刑もできず、要求の多かつたこの「荷厄介」な人物の治療を放置したままで獄死をねらっていたことは確かです。もし竹内さんが一介の鉄道労働者でなく、又事件関係者の支援の目が行き届いていたなれば、みすみす竹内さんを闇に葬らせるようなことはしなかつたでしょう。

小さな子供さんたちのことが気掛りだったようで、よく話をされていました。

筆まめな人でしたが、死の少し前から来信の内容がガラッと変って個人礼讃に終始するものになってきており、へんな潔癖さから、少し足が遠のいているとき、新聞紙上で竹内さんの死が報じられました。

あれは発病信号だったのです。済まないことをしてしまつたと思っています。

すこしばかりの供物を個人的に遺族におくつたのに、国民救援会から「領収書」なるものが届けられ、なにか釈然としないものを感じた記憶が残っています。

やはり今年は暖冬なのでしょうか、暖かい師走です。とはいえ秋より気温は下り、夜は氷点下の日々も多くなりましたが、雪の日も稀で風もなく穏やかな晴天が続いています。とくに太陽の強い光線はガラス窓を通して陽が沈むまで室内を暖めてくれますので部屋はポカポカと温室そのもの！太陽ってほんとにありがたいですね。お日様の照らない曇りの日に干す洗たく物はバリバリと凍って板の様になってしまいます（東京とはだいたい10℃は違います）。長い冬の季節に一番大切なは何といっても薪の確保です。先日も建築中の現場から木ツ端をもらい、車がないのでそれをタンボールに詰めて何回も何回も運びました。そんな私の姿を見た近所の人が「しよ、いこの方がらくだにいい」とか「薪はメタ、（沢山のこ）いるだに、石油にした方がいいよおー」と声をかけてくれました。ほんとうにそうなのですけれど、山に来てまで石油ストーブは厭ですし、何と言ってもあのメラメラと燃える炎と火色の変化は、とても魅力的です。ですからここへ来る方は誰もがストーブ係を希望してニコニコと講釈よろしく個人的に薪をくべてくれます。人はみんな炎が好

きなんです。恋の炎、恨みの炎とか……。ついでに自慢をしますと、このストーブは友達が三カ月もかかって造ってくれた世界で唯一ひとつのものなのです。ですから私の大きな宝物！いつか是非見に来て下さい。



山小屋だより

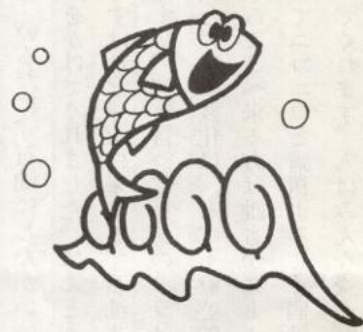
十二月中旬、畑では霜にもめげず白菜もかぶもホウレン草も元気です。しかし放置しておいては駄目になってしまうので白菜は収穫して保存し、かぶは防寒、大根や人参は葉を落して穴に埋めました。こうしておくで凍らずに春までもつそうです。そしてすぐ食べる分は台所のそばに埋めましたが、それはみんなねずみの御馳走になってしまいました。でもいいんです、それで。クリスマスは、ホワイトクリスマスとなり元旦は信じられないほどらかな晴天で東の山間から静かに昇る朝日を生まれて初めて

仰ぎました。七時十三分の感動的一九九三年の幕開けです。それから三日、東京から来た中年の紳士達とお餅をつきました。お餅はきねと臼があれば、せいろがなくても蒸し器でお米はふかせると思っていました。これは間違いでやはり道具は大事です。それでもドタバタ大奮闘の末、搗き手が良かったせいもあってお餅が出来ました。見た目はぶつぶつ餅でしたけれどそれぞれが口々に「うーんなかなか美味しい、本物のお餅の味！」と自我自賛の大合唱。おまけに「これぞまさしくアナキスト」と訳のわからないことを言って笑いこけ、早々と「福はうち」のお正月を迎えたのでした。

が、一寸先は闇、語り合う人も居ない日常に幾許かの不安と疑問が山の生活を問い詰めます。自然を拝し、そこに神を見たとしても、毎年増えていく建物。とうとう奈良原にもリゾートホテルがオープンしました。

これから寒に入ります。寒いと足が疼いて眠れぬ夜もあることと思いますが、お体を大切に頑張ってください。それではまた五月にお逢いしましょう。お元気で。一月二〇日

奈良原のウィッチ



## 潮風にのって

荒井さんをしっかりと応援して

赤堀政夫

師走に入りまして救援会のみなさんにはお変りはありませんか。お伺い申し上げます。救援会の仲間の人たちや弁護士のみなさん、荒井さんの家族の人たちにはよろしくいって下さい。御礼をいって下さい。お伝えして下さい。おねがいします。

先日は潮風ニュース送ってくれまして本当に有がとうございました。受取りました。す

ぐに読ませてもらいました。

荒井さんの獄中の生活のことや健康状態のことその他を知りましたのです。荒井さんの家族の人たちや救援支援運動を一生懸命にみなさんはまじめに真剣に活動をやっていることと私は思います。大変ですね。ごくろうさまです。荒井さんのところへ家族の人たち、弁護士の人たちが面会に行きましたら私からの言伝を忘れずに本人に伝えてもらいたいです。かならずおねがいします。

荒井さんに会えたならば、自分の体は責任をもって守って下さい。なるべく病気をしないように気をつけて下さい。風邪をひかないようにすることです。運動がある日は外に出まして太陽の光にあたって足体頭首などを動かして体操をして体を丈夫にきたえて下さい。大事にして下さい。再審裁判へ向けて無罪判決を、無罪判決を一日も早くかちとるためです。政男さんは元気を出してしっかりとがんばって戦って下さい。

赤堀は今は名古屋に住んでいます。私ほども元気で一生懸命まじめに真剣にいろいろな集会へいきましては大勢の人たちが集まっているみなさまの前に出まして、死刑廃止す

ること、死刑執行は絶対にするなど法務大臣、田原隆宛に願書を書いて送っております。死刑廃止フォーラム会場にいきまして参加された大勢の人のいる前でアピールを大きな声を出してきこえるように呼びかけて訴えてきました。精神障害者、身体障害者の人たちと一緒になつて生命と人権のこと差別・偏見をしないようにするために私は全国各地へ行きまして大勢の人たちと会いまして一緒に集って仲良くしてお互いに話し合い相談をして大きな大衆に向けてよびかけていろいろ訴えています。たいへんな仕事です。毎日毎日私はいろいろな用事がありまして忙しいです。出張する日が多いです。またお知らせします。

さむくなるからみなさんは体を大切にして下さい。かぜをひかないように気をつけて下さい。むりをしないようにして下さい。元気ががんばって仲良くして荒井さんを全力をもってしっかりと応援してやって下さい。さいごまでみなさんはがんばって戦って下さい。

さようなら

一九九二年十二月

荒井政男さま、弁護士のみなさま

◆ 荒政さん、救援会の皆様御苦労様です。荒政さんこんにちは。お元気で何よりです。私の方も変りないですよ。

十一月末から大拘も熱いコーヒーが飲めるようになり、長い間要請してきたかいがありました。感動しつつコーヒーをすすっています。

荒政さん、私の末っ子の件を知ってるでしょ。あのチビっ子も春に高校卒業して専修学校に進学します。ホント速いものです（近日面会します）。

荒政さん寒いから足を大事にして頑張ってくださいよ。きつといいことがありますからね。

（大阪拘 山野静二郎さん）

◆ 「潮風」九号をどうもありがとうございます。無実の罪で死刑にされることほど悲惨なことは他に無いと思います。私の場合本人が間抜けだからですので、それ程不幸ではありませんが。

『監獄の歴史と現在』は興味を引くタイトルですが、次号に掲載とのことで残念でした。それでは皆さんお体に気をつけて下さい。

（東京拘 柴壽正一さん）

◆ 「潮風」いつもありがとうございます。

九号の荒政さんの絵、なかなかいいですね（ちょっと昔……といってもそんな昔ではないんですが……を思い出しました）。荒政さん、健康第一で頑張ってください。

（東京 中川憲一さん）

◆ 何時も潮風ありがとうございます。荒政さんが絵を描かれることをはじめて知りまして。なかなかのもんですね。丹念に描かれているんですね。添えられている短歌にも荒政さんの気持がにじんでいると思いました。思いつくのはあの笑顔です。そして涙もろくて人情家の荒政さん、再審でがんばってください

将やんも元気で。 （東京 大道寺幸子）

◆ 荒井さんもお元気で新しい年を迎えられますように。 （神奈川 小笠原秀子）

◆ いつも通信ありがとうございます。こんな風に着実にがんばっているところがあるんやなあ、と思いなまけ者の私も、ちとは心を入れかえねばと思わされます。みなさんよいお年を。 （大阪 畑健次郎さん）

◆ きびしい闘いと思います。がんばってください。荒井さんお身体お大切に。

（東京 山田さん）

◆ 荒政さん寒さにめげずにお元気で！

（東京 大道寺ちはるさん）

◆ 潮風九号ありがとうございます。手取りよりも編集がむつかしい上、ぬくもりが伝わりにくいこの手の印刷物の中で、「潮風」はいつもできばえがいいので、毎回「クソ一負けた」となげきつつ読んでいます。その上九号は一頁まるまる荒井さんのイラスト!! こういう活字とイラスト・カットの組みあわせがバツグンです。仕上げるまでに原稿のチェック・リライト・割付けと大変な作業をすることでしょう。でもどの過程にも荒井さんと共にがんばる救援会の方たちの熱意がこもって自然に紙面に表われるのでしょうね。どうも『かすみ草』は確定後のあれやこれや、何かと遅れをとっているのですが、潮風について勉強しながら佐川君と共にがんばっています。

荒井さんかぜひかないでね！

（東京 かすみ荘住人高安イツ子）



## 今日も元気で(七)

### 風邪



今回は風邪。リクエストがあつたというより、私自身が今風邪をひいているもんで(トホホ……)。

風邪はたいいていの人が、年に何回かはかかるものです。それだけにちよつとしたケガみたいなもの、たまにかかるのも当り前に思われがちですけど、基礎体力が落ち、体の抵抗力も低下している中長期獄中者にとってはまさに「万病の素」になりかねませんから、シャバの様な軽い考えはくれぐれも禁物です。私が長崎刑で知っていた獄中者は、風邪だと思いをそのままにしていたら、治らずに肺炎になつてしまいました。「風邪ってやあね」のCMは、ふた昔前の酒井和歌子でしたっけ(年が知れますな)。獄中で風邪がもとで肺炎・気管支炎・肺結核なんかあったら、「やあね」じゃすみませんよ。

風邪の症状はセキ、発熱、頭痛、鼻づまり、

体のだるさ、くしゃみなど様々です。一般的な体験事なので、症状についての説明はいらないでしょう。ただ誘因はシャバではもっぱら不節制(本人に責任あり)がきっかけなのに、獄中は基礎体力と抵抗力の衰え(監獄当局に責任あり)に求められる違いがありそうです。

ところで風邪と感冒は違うことを知っておいてください。風邪は自律神経の失調(その失調をもたらすものは冷え)が原因で粘膜が炎症を起こし、そこから様々の症状をひきおこしていくもの。一方感冒はウイルス感染によるもの(感冒罹患の特徴は、高熱・頭痛・下痢・嘔吐・関節痛など、ほとんど重症です)。普通風邪にかかることが多いですけど、感冒にでもかかれば獄中者自身はなんともしようがなく、獄医にワクチン注射をしてもうしかありません。

さて風邪をひいた時はどうするか。体でできるだけ温かくして、寝る(横臥)こと。「静養」これに尽きます。日本の監獄はどこでも発熱は何度以上ないと横臥許可を出さないという、おそろしい非人間的な処遇をやっています。なんとか要求して横に

なつて体を休めるようにすることです。

なんとと言っても風邪に対する最良の対策は横になり温かくして休むこと(エネルギー消費を少なく、体を保温して気を養い抵抗力を少しでも高める)であり、これは獄中でもできるし、しかも一番の基本的養生で早く治す為の方法なのです。

これぐらいなんだ(ト)って空元気を出して頑張っている人もシャバでは多いです。でもそれは自由勝手なシャバでの話。権力に身柄を捕われている立場では無理は絶対に損(しかし体は甘やかしてもダメ)。ただでさえ堀の中には不如意の毎日なのに、その上身体までやられては踏んだり蹴ったりでしょう。

自分を大事にするといつても、あわてて薬を求めて飲んだりしないでください。軽い風邪なら少々の症状が出て、水タオルで頭を冷やすくらいにし、すぐ温かくして寝ることを勧めます。何故って、こうした諸症状も自分の身体が正常に戻ろうとする反応ですし、自然治癒力を発揮している最中なんです。少々のことと思ひ、回復するまでじたばたしないことです(もちろん、重症の場合は別)。大体医務の薬といったって次に書くような代

物です。原則はやはり自分の身体はなるべく自身で守る(一)です。

### 風邪薬について一言

風邪薬といわれるものを服用するなどは申しませんが、期待はしないことです。今の世はまだ風邪をトータルに治す薬なんて、発明されていません。風邪とは諸症状の総称です。しかし人の個別症状は様々に分かります。一

応近代医学には下熱剤、せき止め、鎮痛剤など個別症状を止める薬はあるとしても、アレコレいっぺんに治せる薬はないのです。だから適当にブレンドした上に催眠剤を入れた薬なんて飲んで治ればめっけものの気安めにすぎない訳です。御承知を。

### 予防法について

(一) 乾布摩擦が一番。

・乾いたタオルで、できるだけ全身をゴシゴシ。始めからはりきって強くこすったり、長くやると皮がむけるので、ほどほどに。

・昔、大道寺さん達はタワシでやってたとか。マアそこまで気合い入れずともタオルで十分です。

・年中、毎日やること。やる時間を決めてする。運動時間にやる人が多いのですが、可

能なら体の動き始めの朝がいい。

・時間は五〜一〇分。ポイントはお腹と背中。なんで腹と背中への乾布摩擦か？

まずお腹には臓器の大事なところがつまっていますので、ここを全体的に刺激し、活性化させることが体の活力を生み出す(腹がまず先に温まる必要があります)ための第一歩。

次に背中には東洋医学でいう風邪のツボ(背中の上の方、第二胸椎の左右にあり、「風門」という。文字通り風の邪気の入口といわれる)と、エネルギーの湧くツボ(背中の下の方第二腰椎の真中にあり、これも「命門」という)があるわけです。

### (二) 薄衣での運動。

なるべく冬でも外の運動では、上半身裸に近及格好でやる。運動後、出た汗はきちんと拭くこと。

(三) 入浴の際の上がりでは、冷水を何杯かかぶる。これも年中やり、習慣にする(暑い時には後で汗が出て来て大変だけど、体の新陳代謝にはよいので)。

### (四) うがい。

出房して帰って来た時には必ず。のどの粘膜を保持するための常識ですけれど、大切な

予防法です。

要するに獄中者は(貧乏人も同じかな)さやかでも己れの皮膚と精神力を鍛えて難儀に備え、克服していくしかなさそうです。でも、それこそ一番自然にかなない、理にかなったことではないでしょうか。

医食コンサルタント 木田明夫

## 《会計報告》

2月5日現在

| ① 収入       |         | ② 支出      |        |
|------------|---------|-----------|--------|
| 前月より繰越     | 209,706 | 潮風9号印刷代   | 27,100 |
| カンパ、会費     | 87,400  | 年賀ハガキ     | 6,150  |
| パンフ売上げ・購読料 | 8,371   | 発送費(潮風9号) | 7,673  |
| 家族より援助諸経費  | 20,000  | 荒井さんへ     | 10,000 |
|            |         | 交通費(家族宅)  | 3,500  |
| 合計         | 325,177 | 合計        | 54,423 |

① 325,177 - ② 54,423 = 270,754 ……次回へ繰越

今号は編集後記も書けないうれしい悲鳴。みなさんの投稿をお待ちしています。(編)

発行 荒井政男さん救援会

東京都千代田区神田錦町一―一六

神田錦町ビル三階 大手町共同法律事務所気付

郵便振替 東京31546727

一九九三年二月二十五日 第十号発行

頒価 二〇〇円

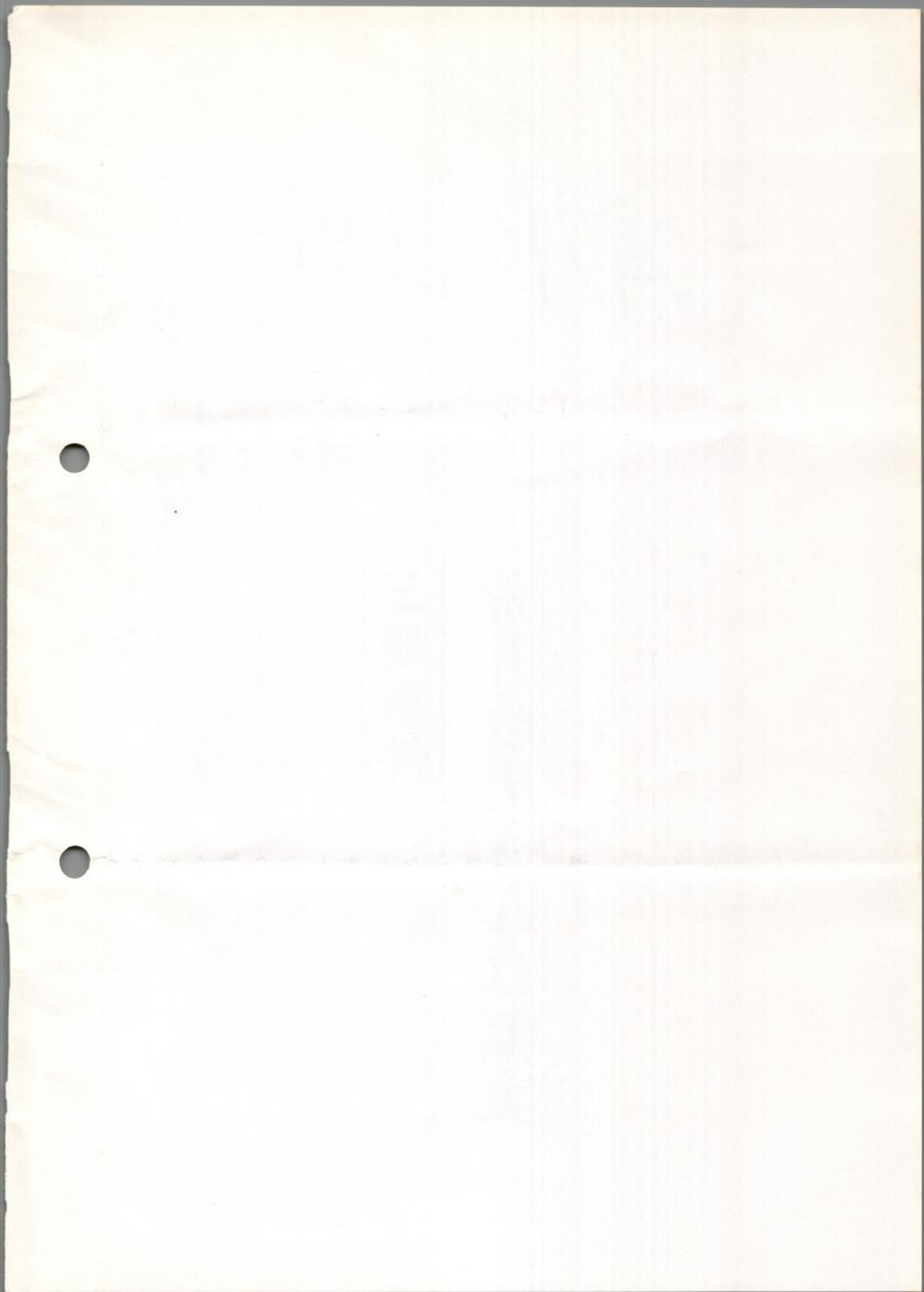
# 潮風

第11号。

1993年5月25日

三崎事件

荒井政男さんは無実



三月二十六日の

## 三名への死刑執行に抗議する

三月二十六日、後藤田法相は三年四ヶ月の死刑執行停止状況をやぶつて死刑執行を再開し、三人の死刑確定者の命を奪いました。私たちはこの暴挙を絶対に許すことはできません。断固として抗議します。

処刑された近藤清吉さん（仙台）、立川修二郎さん・川中鉄夫さん（大阪）の無念を思うと、もう二度と死刑執行をさせてはなりません。

この死刑執行を知った荒井さんが、家族が、一人一人が、様々な想いを胸に抗議の行動を起こしました。みなさん、共に死刑廃止にむけて更にたたかっていきましょう。

### どんなにか無念

近藤さんは、一九三七年生まれで五十五歳。七〇年七月、保険金をかけて雑貨商を殺害、七一年五月、山林売買にことよせて材木商を殺害したとして、殺人・強盗殺人・死体遺棄の罪で、七四年福島地裁白川支部で死刑判決

を受け、八〇年に上告棄却され死刑が確定していました。しかし、保険金殺人については一貫して無実を主張し、確定後も四回にわたり自力で再審請求をしていました。

立川さんは、一九三〇年生まれで六十二歳。七一年一月、姉と共に謀して実母を殺害して保険金を騙取し、その発覚を恐れて兄・姉と共に謀して七二年七月妻を殺害したとして、殺人・死体遺棄・詐欺で七六年松山地裁で死刑判決を受け、八一年上告棄却され死刑が確定しました。しかし、実母殺しについては一貫して無実を主張し、確定後も自力で再審請求をしていました。

川中さんは、一九四四年生まれで四十八歳。七五年四月、姫路市の電気店に押し入り幼児二人を殺害し両親に怪我を負わせて金を奪うなど七都道府県で四年間に二〇件の犯行（殺害された被害者三人）を重ねたとして強盗殺人・強盗・窃盗で八〇年神戸地裁で死刑判決を受け、八四年上告棄却され死刑が確定しま

した。両親不在の極貧の環境に育ち、初等教育さえ受けられないまま食料を得る手段として盗みをおぼえ、少年院や刑務所を出入りする人生でしたが、刑務所内で看守から暴行・侮辱を受けたことに憤激し、看守に仕返ししようと思いつけねらったが果たせず、自暴自棄になってせめて看守の出身地で大きな事件を起こして思い知らせてやろうと考え、酒に酔った勢いで電気店に押し入り強盗殺人を犯したとされています。確定後の八二年に既に医師から「精神分裂病の疑いがある」と診断され、ここ数年は幻覚妄想が激しく、症状が重く心神喪失の状態にあったと報告されています。また、中道武美弁護士が再審代理人に選任され、再審請求を準備中でした。

### 違法な処刑

今回の処刑は、執行手続にも問題があり、違法性が指摘されています。

刑事訴訟法四七九条一項に「死刑の言渡を受けた者が心神喪失の状態に在るときは、法務大臣の命令によって執行を停止する。」と定められているにもかかわらず、川中さんは処刑されました。中道弁護士は後藤田法相を

殺人罪で告訴するとともに国家賠償請求訴訟を準備すると表明しています。また、全国「精神病」者集団は「…痛恨の思いで、この死刑執行命令書への捺印が『精神障害者』差別であると断言する。同時にこの差別に屈服することを拒否する。…」と声明を発しています。

### なぜいま処刑が

後藤田法相は、昨年暮れの就任直後の記者会見で「執行を大事にしないと、法秩序そのものがおかしくなる」と述べ、執行後にも「判決を執行しないのでは国の秩序が保てない」とくりかえしています。さらに、「法相の職についた以上、職責を果たすべきだ。法相が個人的に思想信条で執行命令をしないとすれば、初めから大臣に就任するのがまちが

い。就任時にそれが分からなかったのなら、分かった時点で辞めるべきだ。」と述べ、過去三年四ヶ月死刑執行をしなかった四人の法相を批判してさえているのです。

後藤田法相による今回の死刑執行は、明らかに、三年四ヶ月の執行停止状態に対する挑戦であり、死刑制度維持という政治目的のた

めだけに、後藤田法相は三人もの人間の命を奪ったのです。殺された三人の死刑確定者は、後藤田法相の政治目的のための犠牲者にほかなりません。

国家による殺人をくりかえし、国際的に孤立してもあくまで死刑制度を維持しようとする人々は、一体何に固執しているのでしょうか？その先にはどんな社会があるというのでしょうか？もう一人の犠牲者も出すことは許されません。今回の執行による打撃をはねかえしてがんばっている荒井さんをはじめとした獄中の死刑囚、家族と共に、一日も早く死刑制度廃止を実現していかなければならないと思います。

### 怒りを胸に

救援会では、互いに連絡をとりあいながら死刑廃止フォーラム90のよびかけによる行動に参加しました。

三月二十八日は都内一斉ピラマキ。十一時に集合して、冷たい雨をはねのけるように五カ所でまき、その後広尾駅に集合し、後藤田法相邸のある超高級マンションに向かいました。本人は不在と女性がインターフォンごし



4月4日 全国抗議集会

に対応したが、その対応はすこぶる不遜。代表が受付で抗議文を読み上げ手渡し、怒りの声を後藤田邸にぶつけました。午後からは一五〇名が集まったの緊急抗議集会。死刑囚の家族や各団体、個人が、「もう一人も執行させない」「もっと廃止運動をがんばる」と発言が続きました。

三月二十九日朝八時半、法務省前で職員に死刑執行抗議のチラシを配布しました。

四月四日、渋谷山手教会で全国抗議集会。免田さんや赤堀さんの顔もみえて、七五〇名が参加しました。デモのあとの集会で、多く

## 怒りに身も心もふるふる手紙より

(荒井政男さんの手紙より)

今日の新聞に三年四ヶ月ぶりに死刑が執行されていたことが報道されていました。他にも、まだ殺されていることが未確認情報としてあると云うことが出ていました。きのう吊

し首虐殺された死刑囚は、立川修二郎62歳、死刑確定から12年だと云う記事でした。後藤田正晴が法務大臣に起用された時点から、父さんは今年の年度末迄に死刑囚密殺の虐殺をやるだろうと、危惧していたんです。そのとおりになって、父さんはやり切れない怒りでいっぱいです。実に残念無念です。アーメン。

全世界人類愛の流れとしても、死刑廃止が実現していきつつある現代なのに。

冤罪死刑囚の父さんとして、法務省と後藤田の殺人集団の死刑囚虐殺実行した今日のニュースを断じて許すことができません。

全世界人類愛の死刑廃止条約に対する、日本法務省と後藤田正晴の殺人合法的死刑名目の虐殺実行したことを、とても許せません。全世界の死刑廃止条約への挑戦ですから、怒

りに身も心もふるふる父さんです。共に死刑廃止へガンバロー！ (三月二十七日)

今日の新聞で、三人死刑執行されていたことが報道されていました。三月二十六日に三人(大拘で二人、仙台で一人)殺されていたことがバクロされていました。

吊し首密殺虐殺がこんなに早くマスコミにバクロされたのは、現場看守が良心から隠しきれなかったものと、父さんは分析しています。

大拘で虐殺されたのは、立川修二郎さん62歳と川中鉄夫さん48歳で、仙台拘で虐殺されたのは、近藤清吉さん55歳であることが公表されていました。今日は怒りも新たです。今日は東拘の周囲に獄外から死刑反対の激励スピーカーがきこえました。共にガンバロー！ 後藤田の非人間行為は永久に呪われる歴史記録と残ることも事実でしょう。虐殺された三人の死刑囚のご冥福を祈ります。アーメン。 (三月二十八日)

の仲間の発言のあと荒井政男さん救援会からも発言しました。荒井さんの手紙を紹介し、劣悪な死刑囚処遇をはねかえし、再審と死刑廃止を訴えてがんばっていると報告すると、激励の拍手が大きく起こりました。

### 家族・弁護士とともに

四月八日、弁護士団会議が開かれ、娘さんが荒井さんと面会した報告をもってかけつけてくれました。荒井さんは、家族の面会や差入れを大変喜んで、元気でいたこと。そして弁護士のみなさんに再審をよろしく頼むと伝えられたそうです。会議では、死刑廃止にむけて一緒にがんばっていくことや、再審についても補充書の完成に全力をあげることなどを話し合い、これからもっと協力し合ってたたかいを押し進めていこうと確認しました。

### 署名に協力を

死刑廃止国際条約の批准を求めるフォーラム90では死刑執行の抗議し、二度と死刑執行をせず、死刑廃止国際条約の早期批准を行うことを求めて署名運動を行っています。読者の皆さんの協力をお願いします。

# さまざまな動きのなかで再審へ

⑨

## 名張事件第五次再審

### 名古屋高裁で棄却

いわゆる「名張毒ブドウ酒事件」(奥西勝さん・死刑)の第五次再審請求は、地裁の棄却決定後弁護側から異議を申し立て、名古屋高裁で審理されていたが、この三月三十一日に不当にも異議棄却の決定が出された。

本誌9号で、再審に関する「白鳥・財田川決定」の良い点は、新証拠を単独で評価するのではなく旧証拠と総合して再評価することにあると解説したが、今回の名張事件の棄却決定は、言葉では「総合的判断」を使いながらも「白鳥」の任意性・信用性を強調して確定判決を擁護するものとなった。争点の一つだった瓶の王冠の「歯形」が奥西さんの歯と一致するかどうかについて、確定判決は「白鳥」を除いても「王冠」が決定的な証拠だとしていたのに対し、再審の地裁段階では鑑定「証明力は弱まった」とされていた。ところが今回は「奥西被告のものでないと断

## 山際 永三

定出来ない。反対の鑑定があるとしてもそれなりの証明力が認められる」と逆に評価してしまつた。「白鳥」を重視した確定判決が新鑑定でゆらいだ後、また「白鳥」重視に戻つたものだ。

三十一日は名古屋高裁前に赤堀政夫さんも駆けつけて、棄却に怒りの声をあげていた。奥西さんは、一審では無罪だったのである。検察官に控訴され二審で逆転死刑となつたもので、今回の棄却決定は酷すぎる。

### カウンターレポート

#### いよいよ国連に提出

国連の規約人権委員会(委員十八人)で日本政府報告が審議されるのは、また延びて十月になりそうだ。正式決定は七月末になる。十月十八日から十一月五日に予定されている第四九回会期はジュネーブで開かれる。

わが「再審事件交流会」で作成した英文のカウンターレポート「日本には、無実事件が多すぎる」は、その後三人の死刑執行という事

態を受けて一部修正し、その三人のうち近藤さんと立川さんはなんべんか再審請求を繰り返していた人であり、川中さんは執行が違法な精神状態だったという説明を追加した。本文六ページのほか十三の事件の英文解説を付けて、この五月じゅうには他の団体のカウンターレポートと一緒に国連に送ることになる。

五月二十二日に、自由人権協会主催で「カウンターレポート交流会」が開かれる。香川大学教授・山崎公士さんの「自由権規約の政府報告制度とNGOの役割」と題する講演とカウンターレポート提出団体からの報告・アピールが行われる。提出団体は、自由人権協会・部落解放研・再審事件交流会・統一獄中者組合・死刑廃止フォーラム・アジア人労働者問題懇談会など十数団体となる。

提出後は、マスコミ等への発表もされる予定だ。冤罪事件・死刑廃止運動関係の各団体は、このカウンターレポートをおおいに活用してほしい。

### 死刑廃止アジアフォーラム

#### 7月10日に日比谷公会堂

日比谷公会堂で定着してきた死刑廃止フォーラム90のイベントは、死刑執行再開の打撃をはねかえすべく、今年七月十日(土)に

「死刑廃止アジアフォーラム」として開かれる。フィリピン・韓国・台湾・香港から二人ずつの死刑廃止運動関係者を招待し、七月九日夜はレセプション、十日は日比谷公会堂でシンポジウムなどをやった後、死刑廃止を訴える街頭行進が予定されている。

この五月八日には、東京三弁護士会と日弁連の共催による憲法記念行事として「今、死刑を考える」3年4か月ぶりの死刑執行が開かれる。テレビのニュースキャスター田丸美寿々さんの講演「取材を通して死刑を考える」とシンポジウムが行われる。ごく一部の弁護士会を除いて、多くの弁護士会では死刑反対を打ち出すことをしていない。これは本来弁護士としておかしいのではないかと私などは考えているところだ。しかし、やっと弁護士会にも「死刑を考える」動きが出てきたことになる。

国会では、死刑廃止議員連盟を結成する動きもある。現在二百名近くの国会議員が死刑廃止フォーラムの賛同人になってくれている。しかし、その内訳をみると社会党百三十人に對して自民党はわずかに七人だ。いかに死刑と権力というものは関係が深いかを物語っている。死刑を執行した後藤田法務大臣は、ほとんど同時に副総理になった。今回の死刑執

行は高度に政治的な、そして非人間的な出来事だった。

### マスコミを利用した

#### 死刑執行の情報操作

今回の死刑執行について、政府は公式発表を一切していない。しかし、執行の当日にはマスコミになかば公然とリーク（耳打ち）をした。権力は、死刑執行が一般に知られることを必要としている。一部のマスコミは「法務省の秘密主義」を批判したが、それは重要な批判とはなり得ない。

三月二十七日付読売新聞大阪最終版は「死刑2人執行」を一面トップに出した。立川さんの名前を書き、もう一件は不明とした。同日付東京版は一面トップで「死刑、3年ぶり執行」とし、やはり「もう一件執行未確認情報」とした。しかし、同日夕刊では、読売の「死刑の執行は2人」は完全な誤報となり、毎日の「3人に死刑執行」が読売を抜くことになった。毎日には川中さんの名前を特定した。一部のマスコミ情報が二十七日中には仙台の近藤さんを特定し、二十八日朝刊にはじめて三人の名前が出た。

当局は、情報を小出しにしながら、情報操作した。おどろおどろした恐ろしい死刑の

執行が秘密のうちに行われ国民がそれに従うように、マスコミは十分にその役割を果たすことになった。人権と報道・連絡会では、五月の定例会でこの問題を検討した。

### 免田さんの映画

#### 全国上映に協力を

免田栄さんの記録映画ができる。この七月十五日は免田さんが死刑再審無罪を勝ちとった十周年となる。アジアフォーラムの盛り上がりを引き続いて七月十五日には東京で映画の上映会が開かれ、続いて劇場での長期公開も予定されている。

映画は「免田栄・獄中の生」（仮題）で監督は小池征人さん（『狭山事件』など多くの記録映画で知られる）、製作はシグロ。

獄中三十四年のあいだ支援者に書き綴った多くの手紙を見ながら、免田さんが交際し、見送った死刑囚の人間性について語る。一人一人の死刑囚が、ごく普通の生身の人間であること。多くが自分の判決に不満をいだき、冤罪を訴えつつ執行されていたこと。その生・死を担って、現在の免田さんがあること。——感動的な映画だ。

「免田さんの映画を上映する会」が発足し、全国各地での上映を目指す。

## 荒政さんだより ⑩



### ●大イヌフグリが

父さんの窓下の基礎石側の日当りのいい場所に沿い、春一番に咲くあの「大イヌフグリ」の小さい青い水色の花が、一斉に咲いているのに気付きましたよ。毎年二月一〇日前後に咲くことを思い出しましたが、水色の小さいこの「大イヌフグリ」の野花を見るたび、

花の名前を覚えてくれた荒井まり子さんを思い出しますよ……。

暖冬の獄窓下の日当りのいい所に、草花で春一番先に咲いている「大イヌフグリ」を見ながら、愛する家族と親愛なる救済会様皆様と弁護団各先生様方のご健康とご多幸をお祈りしながら、このきれいな「大イヌフグリ」の花たちをながめています。

ふと、セッコさんの住んでいる「山」の（海拔千米もある）雪写真をなつかしく思い出しています。私は夢の中でいつも山小屋を訪問していますよ（笑い）。

（二月一八日記）

お手紙日記で、小さく普通の「もみぐら入りか、ソバガラ入りか」の新枕を買って差入れてください、と書いて発信したことがありません。だがもう差入れりませんよ。東拘の官品枕が枕生地を洗い直して新枕がとても良くなり、悪臭もしなくなり、イヤな匂いもしないし、丁度、レンガを四ヶ位並べた位の形にした新枕です。

新枕は厚さ10センチ位。長さが25センチ位。幅が22センチ位でやや平たい形の原形ですよ。とても寝心地がいいのですよ。もちろん枕カバーは付けてあります。そして丸枕の形にも使えますので、とても便利です。丸枕のように頭をのせると、頭位置はやや高くなりますが、高枕が好きな人は、丸枕にして使用すればいいのですよ。

もちろん、面会で話したように、官品枕は「もみぐら」枕ですから、高血圧は正常に戻ることにはまちはないと思いますよ。といいますのは、この「もみぐら」入りの官品枕を使ってから二日目に父さんの頭がすっきりしてきたからです（笑い）。

山鳩が窓辺の物干しパイプに止まって、餌

をくれといって、房の方に向けてテテポツポツと唄うのですよ。餌をやらないと、山鳩は物干しパイプを移動して他の房前にいて、又唄うのですよ。その姿は、なんとも云えなく可愛いのですよ。家族や救済会や弁護団各先生様にも見せてやりたい位です。

（三月六日記）

### ●みなさんにありがとうを

カウンタールポートの英訳の手紙をくれたのですね。桜庭さんにありがとうと、ガンバルようにお伝えください。

潮風10号とどきました。ありがとうございます。年賀状下さった皆さまに心からお礼申し上げます。蒲公英さんのお話しになっている獄中死した三鷹事件の竹内景助さんの貴重なお話しのいろいろありがとうございます。

「山小屋だより」はつららが下がっているね。ストーブエントツの写真ありがとうね。薪ストーブ大事に使っているウィッチさんの山の生活が書かれていて父さんの心までお餅つきしている気分になりましたよ（笑）

潮風にのつての赤堀政夫さんに激励をいただき感謝感涙していることをお伝えしてね。

ガンバリ、闘い抜き、真実必勝目指していま  
すとお伝えして下さいね。皆様にもどうか  
く、宜しくお伝えして下さいね。

「今日も元気で」の木田さんありがとう。

父さんは風邪引きそうになると、例の防寒半  
コートを着込んでガッチリと保温するんです  
よ。だから今年は風邪が逃げていきました。

「監獄通信」、組合の皆さんよろしくね。

「死刑廃止の会」「冤罪通信」「麦の会通信」

ありがとう。「甲山通信」きびしい裁判に立

向ってさらにガンバって下さい。「六月の炎」

礎江さんの闘いを心から応援します。「キタ

コブシ」将やんのガンバリによろしく。「ば

じとうふう」石橋さん一家のご健康と御多幸

お祈りしています。「ごましお通信」益永さ

んと英美さんが別れたことを知りました。激

励を益永さんに送ります。「お元氣通信」「大

きな手の中で」「救援」…ありがとう。皆々

さんに愛をこめて。  
(三月一六日記)

### ●白髪が増えました

今回三人の死刑執行を、金丸事件のドサク  
サにまぎれて後藤田がハンコを押して死刑囚  
虐殺を実行したことは実に残念のかぎりです。

死刑廃止は全世界人類愛の流れとなっている  
現在、いかなる惨酷極まる殺人犯人でも、生  
きて償いすべきが本当の人間の道だと思いま  
す。

今回の後藤田と法務省が三人を虐殺したこ  
とは死刑廃止活動している人々の横顔を張り  
倒した極悪人です。父さんが未決中文通して  
きた死刑囚たちは有実死刑囚たちが多かった  
が、犯行時点は平常心が欠落していたことで  
の犯行実行だったことが明らかな死刑囚たち  
です。全員後悔と反省の毎日を生きているこ

とも明白です。このような死刑囚を死刑制度  
があることを理由に死刑執行することは計画  
的虐殺実行であり、人類愛をふみにじる超極  
悪人だと言わざるをえない。

死刑制度があることを理由にして法相が死  
刑囚を看守らに虐殺させるのは、法相は正常  
心を失っている超極悪人に他ならない。どん  
な正義論も詭弁にすぎない。

父さんのエンザイを何としても晴らさね  
ば、後藤田のような超極悪人からいつ死刑虐  
殺命令判コ押されるか分からない。



三月一六日、花を挿し、お祈りいたします。  
お祈り花を挿し、お祈りいたします。

後藤田は死刑制度を正当化して平然と死刑囚を三人も殺していながら、今までの法相が(殺さなかった)判コを押さなかったのは職務怠慢、と批判している鬼です。本当に軍国主義の本性を丸出しにしていることに気付いていない奴だ。怒り心頭に達したよ。

ラジオから死刑執行ニュースあり吾が頭髪に白髪増えたり

法相が死刑囚等を殺人す正義の詭弁正に戦争

無実吾れ百迄生きて生き抜いて身体障害無実晴らさん

(四月三日記)

### ●家族の面会、資料も届いて

三月三十一日にM、四月八日にはSが面会にきてくれました。同時に八日には弁護団会議にも出席してくれたこと。感謝します。

死刑囚が人間として反省していきっているのがみんなの本心本姿であることを、父さんは今迄の死刑囚との未決中の交信の中で知りつくしてきましたよ。生きて償いたいと叫んで

いましたよ。みんな。

その死刑囚たちを三人もまとめて、後藤田が死刑執行命令の判コ押して、看守達に吊し首虐殺させた悪魔の後藤田が、宮沢総理から福相理に指名されて承諾して二人共、嬉しそうに談笑している笑い顔の写真が新聞に出ていたのを先日見ましたが、父さんの心も身体も怒りにふるえましたよ。政治野心ムキ出しにして強権をふりおろしたのです。虐殺された三人の死刑囚のご冥福を祈ります。

父さんは救援会で話されたという、三崎事件とは何かを分かりやすく解説したパンフレット別冊の作成については大賛成です。両足骨折の図面をコピーして採用してください。何よりの無実立証の原点だからです。よろしくね。

(四月一六日)

### ●よもぎ餅を思い出す

獄房から見える獄庭の柿の木の本の葉も少し大きく四センチ位に伸びました。名も知らぬ他の木の葉も次々芽吹き、浅黄色の柔らかない色がとても目も心もなごませてくれます。吉野桜のハツパは、もう色が濃くなり新緑色が太陽の陽を浴びてとつても目に眩しくて、

食べたいようなおいしそうな色です。よもぎ草も、おいしそうに広がりはじめています。緑色の(幼い頃の)よもぎ餅や、だんごを思い出しているよ。(笑)

(四月二八日)

殺されし死刑囚等三人の冥福祈り再審闘かう

嵐庭の真白に散り舞いし吉野桜の花哀れなり

差入れの写真と語る孫娘吾れより背丈高くなりけり

太陽に大口開けて喉ちんこ日光浴す戸外運動

愛し娘の面会きたり嬉しくて話しとびとび時間終りぬ

風呂日には曲らぬ足がはずみたり廊下を急ぐ足のもどかし

差入れの孫娘写真枕元壁立て並べ涙あふるる

四月二〇日

## 桜前線を逆行して

蒲公英



今夜からさむくなるという。全くその通りで、東京駅に最終の大垣ゆきの列車を待つまでの二時間は辛かったですね。

あらかじめ用意しておいた新聞を体にまき付け、その上をスカーフで覆って体温をにがさぬように自衛してホームに座り込んだものの、風と夜ふけの寒気が攻めよせてきます。

今日の東京は、一挙に三人の処刑を執行した後藤田法相への抗議集会が行われていましたが、私は参加せず、夜の西下に備えていました。

四月ともなると、夜明けが早く、名古屋に着いたときは、空がすっかり晴れ上がっていました。名拘に心臓手術まえの山根一郎さんを訪ねるはずの予定は、夜来の雨のあとの寒気と強風、その上重い荷物を提げていたので氣力をなくしてしまい、そのまま大阪へ。

大垣で乗りかえる列車の外枠に掲示されている文字はなんと「弱冷房車」、冗談じやな

いわ、と当事者の非常識をあげつらったものの、車内はべつに冷房の様子もなく、適温で、まずまずの乗り心地でした。

大阪駅でかなり迷い、淀川べりの大阪拘置所に辿りついたときは十時すぎ、河畔はいま、三分咲きの桜の園生でした。川に面した拘置所の門をくぐると、手入れの行き届いた広い庭があつて、この住人はさぞ住み心地がよいでしょう、と瞬間的に思ったのですが、足をふみ入れた待合室は狭く、暗く、これが大阪の拘置所か、と思わず嘆声があつた位です。

なんだかここには忘れものがあるような気がして、記憶をたぐってみましたが、若しかして、ここは六十年の昔、「国の道」はずれた「非国民」をドンドン送り込んでいた、そして私の相棒が長年ご厄介になっていた建物ではなかったか、と反芻してみるのです。

大拘にきたのは、広田雅晴さんに会うためでした。東拘の沢地和夫さんと前歴が同じだときいていたので、沢地さんをイメージしていたのですが、目のまえにいる人は、作家の松下竜一さんとお相撲の高見山を足して四等分したような、といったところででしょうか。冤罪を主張している人なので、この三〇日

の判決に一筋の期待はあるようなものの、やっぱり裁判への不信感は拭えないのではないのでしょうか。

山陰の実家へ足を伸ばしたときは、日は未だ高く、私はそのまま山草を探しに村のうしろの山へ入りました。きれいな谷の流れにわさびが育ち、すみれに似た稀らしい山草もみつけました。たなびくように紫の山つつじがかすんでいます。

ふもとの墓地に山椿の老木が健在でした。落花がしきり、百年は尤にこえています。離郷の日は釈迦の誕生日でしたが、駅に向う途中の山々はうつつすらと雪を刷いていました。

米原の駅では、乗り換えに二時間を費やしましたが、寒風にふるえ上がりました。晴天の富士は、いつもの裾を引いた女性的な美しさはなく、天空に孤絶して屹ちはだかっている、おそろしいまでの峻嶽でした。

どうやら「積年」の疲れがでたらしく、帰ってから三日間、ねたり起きたりの自由時間をすごしましたが、この解放感、獄中にもお裾分けしたい位すばらしいものでした。

お元気ですか？

湯の丸の頂きの雪も薄くなり、うぐいすの笹鳴きを初めて耳にしたのは、確か四月十六日でした。そして落葉の中に福寿草の花を見つけた時の歓びは久しく会わない恋人に会った時のように嬉しいものでした。

生れたばかりの春（奈良原の春は東京より一ヶ月遅れてやって来るので私は二度春を迎えられます）。ムックと大地を押しあげて芽を出すよもぎにならずな芽。むらさき色の春霞。太陽の柔かい日射し；と眼にふれ、肌を感じるすべてに「意気意気、伸び伸び」の季節があふれ自然界の力強い生命感とその躍動を知るのです。しかし人間社会の現実はず間に追われ、情報と欲望にふりまわされて働き続け、拳げ句の果ては「過労死」、だなんてあんまり悲しすぎます。ですから私は「頑張る」という言葉が嫌いになりました。だつて頑張ることは疲れることですもの……ウフフ

三月二十六日、死刑執行。この日の衝撃は一九八六年四月二十六日のチェルノブイリの原発事故同様「アッ」と息をのむだけで声も出ませんでした。このいのちが蘇える春に、昨日まで一生懸命生きていたそのいのちを奪

うとは……。そんな不埒なことって考えられますか！ 私は憤まんやるかたなき思いを抱いて、四月四日の集會に参加しました。「ヤ

アー」となつかしい顔と声。免田さんや赤堀さんにもお目にかかれて嬉しかったのですが、願わくばこうした怒りと哀しみの場での再会でなければと思いました。今年も東京の桜は華やかで美しく咲いていましたが夕方からの



山小屋だより

雨で花びらは涙となりました。

荒井さん、今日は五月四日です。四月になって雪が降ること三回。五月二日もみぞれが降って零下七度。おかしな陽気が続いています。それが、それでも野球開幕。続いて相模も夏場所が始まりますね。先日図書館で借りた「東部誌」に雷電のことが書いてありましたので御紹介しましょう。

「雷電為衛門」は春風と共に幾多の伝

説的逸話を残している名力士であった。彼は寛政八年三月西方の大関となった。一枚肋いちまいあばらであったと言われるほど強い体の持ち主であった。

江戸に出て力士浦風林右門の弟子となり相模を学び、その技は天下に冠し、雷電の名は將軍家から列候ちゆうこうに及ぶまで、しばしば彼を召して技を闘わしめ、その風を壮して、その状を偉じやういとした。ひとたび大関になってからは、よくその地位をおとさざること十六年。横綱の免許も拒み「わしは天下の雷電で満足でござんす」と豪語したといわれる。

今日でも天下無双の雷電にあやかりたいと弱い子は丈夫に、商売は繁盛と雷電の碑は砕れているそうです。素朴な民間信仰ですね。

桜草が風と遊んでいます。何事もないように月日は過ぎ去りますが決して忘れてはならない出来事が幾つも心のひだに折り込まれていきます。そして覚えていられるから二度と繰り返してはいけない過失かちまちの重さを知るんですね。後藤田さんに贈りたいことばです。迷い子の春もやつと奈良原に辿り着き、桜の花の春爛まんです。

奈良原のウイッチより

## 潮風にのって



◆立春に入りまして春のおとずれが近づきまして、花のたよりがきかれるきせつになりました。みなさんにはおかわりはありませんか、お伺い申し上げます。

毎月潮風ニュース送ってくれて、ほんとうに、みなさん有りがとうございます。ニュースを読ませてもらっています。勉強になります。荒井さんの体のくあいは今はどうですか、お元気で獄中の中で健康でがんばって生活していますか、政男さんからは事務所のほうか、かぞくの人たちのほうへ手紙が送られてきていますか、おたづねをします。政男さんのところへは、毎月かぞくの人たちか、弁ご士の人たちや会員者の人たちがめんかいはいつていますか、会っておりますか、おたづねをします。

獄中の中に入っている本人の荒井さんは、

一番気の毒な人です。政男さんの体のことが私は一番心配です。新しく法務大臣になりました後藤田正晴はわるい人ですから、みなさんはどうか気をつけて用心して下さい。国家の司法の政治の法律を使って、死刑囚確定者の人たちを平気で殺すわるい大臣です。死刑執行命令書に法相が、かつてに判こう押してそれを刑務所側の拘留所の所長宛に送れば、書類が手元に届きしだいに、あくる日の朝になれば、保安課のけいび係官の人たちが朝大ぜいの人たちがきて、本人をよびだしてむりやりに刑場へつれいきます。そして殺してしまふのです。

弁ご士の人たち、かぞくの人たち、支援者の人たち、国民の人たち、世界各国の人たちのところへも、れんらくをとりまして、ニュースをつくって出来上がったのを手がみをと封して一緒に送るのです。世界中の人にどんどんと、みんなてよびかけて訴えていきなさい。みんなて協力して団結をして、応援してもらって、町の中に出まして、人どおりが多い中へいつて、道を歩いている人たちに向けて大きな声を出してよびかけて訴えていきなさい。

みなさんは体を大切にして下さい、病気をしないように気をつけて下さい、大変でしようがさいごまでがんばって戦って下さい。

二月六日

救援会のみなさま、荒井政男さま、かぞくのみなさまへ  
赤堀政夫

◆桜庭章司さん（八王子拘）より

政男さん、ご無沙汰しております。

「潮風」8号、戴きました。おせっかいして政男さんのカウンターレポート英文に手を入れてみました。どうか関係者の方々に相談してみてください。この英文も良いですが、スコーシ？添削した方がよいと思われるところがありましたのでデシヤバリました。：私には昔英語でメシを食っていましたのでもっと早く政男さんに手紙していいのに…。

私はもう半分廃人です。手が動かないのでとてつもない苦痛です。拘禁性ノイローゼです。この七年間手が動かないのです。政男さん、ワープロ裁判勝ってワープロ入手したら毎日でもお手紙させて貰いますね。いや私のワープロ裁判結審前に政男さんの再審終了、無罪釈放が実現しているかもしれませぬ。政男さんお元気で何よりです。(92・9・24)

一切何もやる気なくよく眠れません。：政  
男さん私は、トーコはこの手紙を、法令に反  
して政男さんに交付しないときには家族に引  
き渡してくれると信じ切っていました。：

(93・2・18)

：外窓から風景を見詰める！ハチコでは想  
像もできない贅沢です。一事が万事この調子  
で尻から生血（これもハチコ処遇から重い褥  
瘡）していても房内立ち姿を「スワレッ！」  
では直ちに坐っても一週間懲罰されるなど  
トーコでは想像不能です。：政男さんには何  
卒くれぐれも私の謝罪を宣しくお伝え下さい。  
手が動かないため私はひんぱんに発熱します。  
政男さんのことは一日として忘れることはあ  
りません。：

(四月二〇日)

(編集より 桜庭さんが荒井さん宛に出した  
手紙二通を、東拘は桜庭さんに返却しないと  
回答しました。幸い桜庭さんは手紙の写しを  
とっていて、獄外に送ってくれました。桜庭  
さんありがとうございます。なお、桜庭さ  
んは死刑を求刑され、七月七日午後一時一五  
分東京地裁八王子支部で判決が予定されてい  
ます。)

◆この寒さの中、荒政さんは元気にしてるか

なあ？と思ったりします。

四国の国道から落ちた件で国を相手に裁判  
を起こしました。第一回公判が二月二三日に  
入りました。獄壁を越え、共にがんばってい  
こうと思えます。それでは、又。

(福岡 山崎・平山)

◆荒政さん、そして救援会の皆さん御苦労様  
です。

おうーい荒政さんお元気でつかあー。足の  
具合はどうでつかあー。もう湯タンポはい  
りまへんなあ。名拘も昨年から湯タンポOK  
だそうです(50円！)。名拘は冬期入浴も週  
三回。カップラーメン、うどん、冷やむぎ、  
ざるそばOK。休日もカップコーヒー、メン  
類OK。名拘は良くなってきましたなあ。そ  
れにひきかえて、我が大拘の後進性を嘆かざ  
るを得まへん。平日のコーヒーだけは確保し  
たけど、あとは名拘には負けですわ。

東拘もメン類は自弁おまへんやろ。キムチ  
は大拘もありますが、タクアンをキムチ風に  
したもので、白菜のキムチとは全然違うので  
あきまへん。正月料理も東拘や名拘はよくな  
っていますね。大拘は変わりなしです。食い  
もんの話ばっかりしていやしいでんな。えら

いすいまへん。

えーっと、私の方の上告ですが、今年は補  
充書に力を入れています。上告して四年目で  
すからちよつと気合いを入れてます。相変わ  
らずバタバタやっています。

荒政さん、弁護士さんに他囚のことをちょ  
こつと話したら叱責でつか：日本の監獄も改  
革が急務でんなあー。腹立ちまっしやるけど、  
糖尿に悪いから？ま、ホホイのホーイで私に  
任せて下さい。荒政さんのくやしさを晴らし  
てやります。では又。皆さんお元気で！

P S、荒政さん、三月二七日に二男とまる  
11年ぶりに再会しました。感動的でした。

(大拘 山野静二郎)

◆御見舞及び「潮風」送付ありがとうございます  
ました。本当に心配をお掛けして申し訳ござ  
いませんでした。荒井先輩も糖尿病は心配で  
すね。

私の方は御心配をお掛けしましたが、実は、  
四月六日(夕)東拘に戻って参りました。と  
は言っても、まだ東拘内の病棟生活ですが、  
それでも退病できたことは、治療が順調に行  
ったと言う事で、その点は安心しております。  
今は、もっぱら「静養」に専念しております。

まだ落ち着かないのですが、体力的には、もういたって元気です。今日はとり急ぎ退病までの報告です。本当にありがとうございます。荒井さんにもよろしく伝えて下さい。

(東拘 猪熊武夫)



◆いつも「潮風」をありがとうございます。私もだいぶ元気になり、通院しながらですが、かたつむりの会の発送作業や集中面会に参加できるようになりました。来週からは職探しに出かけます。みなさま、どうかお元気で！

(神戸 山本利恵)

◆救援会の皆様、そして荒井政男さんお元気でしょうか。

しばらく筆不精をしていて申し訳ありませんでした。

ここニューヨーク郊外も四月に入り、雪もすっかり融け、春の小鳥たちが南から帰ってきて樹々の上で囁いています。

クリントン新大統領になっても、やはりア

メリカの社会は急には何の変化も感じられませんが、街角にはホームレスの人々があふれ、暴力事件が日常茶飯事でくりひろげられ、麻薬、同姓愛、エイズ、人種差別、極端な貧富の差、長期化する不況と失業など、独立以来の二〇〇年の歴史の中で重積した諸矛盾がこり固まっている感じがです。

冬の間にマンハッタンのど真中にあるホームレスの人々に昼食サービスをしているスープリキッテンという食堂(山谷や釜ヶ崎などにもある無料食堂とよく似ています)で時々働きました。この世界一の大都会の下で、「豊かな資本主義社会」から切り捨てられ底辺に押しやられた人々、またその多くがアルコール中毒や麻薬、結核などに侵され、人によってはエイズを患っている人も少なくありません。貧しい人々、底辺に住む人々がどのように大切にされているかによって、その社会の民主主義の度合が推し測ることができると言われますが、そのような意味では、このアメリカ合衆国という国は「人権と民主主義」の最後進国のひとつだと断言してよいでしょう。

私の住んでいるニューヨーク市郊外の OSSNING<sup>オスニング</sup> という町には、大きな刑務所がそ

びえ立っています。駅のすぐ近くからでもコンクリートの高い塀と監視塔の不気味な建物が眼にとびこんできます。かつて住んでいた函館の駒場町の近くにも刑務所と少年刑務所があり、次の住地の月形町にも権戸監獄があり、そして今住んでいるオスニングにもニューヨーク最大の刑務所があるということで、どうも私は刑務所と因縁があるようです。それは獄中であつて人権を奪われている人々、或は無実の罪ゆえに苦悶の叫びをあげている人々の声なき声にいつも耳を傾けているように、という神のはからいなのかとも受けとめています。

OSNING<sup>オスニング</sup> というのが、実はオスニングの町の名前で、「シンシン」というとすぐにアメリカ人は「刑務所のある町」と連想するとかで、市長が町の名前を変えてしまったというものです。

日本も春をむかえ、小菅の町の土手沿いにも桜の咲く頃かと思えます。荒井政男さんの上にも、そして支援の皆様の上にも希望あふれる春の訪れとなりますように、遠くニューヨークの空の下よりお祈りいたしております。

(ニューヨーク 新海)

## 今日も元気で(七)

### “ 高血圧症 ”

いま沖縄は“うりずんの季節”と言って、若葉が海風にそよぐ一番いい季節のはずなのに、このところ冷えびえとして天気悪く、わが「琉玄」もさっぱり調子ができません。沖縄大好き人間の椎名誠じゃないけど、ナンデカネー？ 今年が厄年だからか(クリスチャンにも厄年関係あるんかな)、今月天皇が沖縄上陸しようとしているからなのか(しがない貧乏人を二十四時間監視してどうすんの)。

「パスすれば、あのひと言が、プレッシャー」

「気をととり直し、カラカラ元氣」

さて俗にムシヨを指して「修養の場」「健康道場」なんて言い方をする人もいますけど、一応管理された節制生活を強いられる訳ですから、シャバで好き勝手な生き方をし、そのツケを背負い込んで入ってる人には、そうした意味もあるかもしれません。でも高血圧に

ついては、はつきり絶望。そのままではお先真つ暗な「不健康道場」にしかならないようです。で今回のテーマは高血圧。

高血圧というのは糖尿病と同じで、そのこと事態はどうということありません。確かに血圧が高いだけで死にはしませんが、それもたらずいんな血管性の障害は、糖尿以上に恐しく脳や心臓にきますので、ほとんど致命的な難病となります。本人に自覚のないまま高血圧体質は進行すること、一度なると治りにくく治療は長期戦になること、生活上の注意がけっこううるさいこと、なども糖尿病と似た特徴でしょう。

獄中の食事傾向は昔より少しは良くなって来てるのですが、それでも野菜類は絶対的に少なく、質の悪い酸化した油を多く使い、塩味も濃くなりがちです。これが大きな問題で、運動不足とストレスに板ばさみの獄中者が、こんな食生活を長く続けていると、体内に過酸化脂質を蓄積して血中コレステロールを高め動脈硬化を進めるので、高血圧体質の人にはいいはずがありません。

獄中の食事が原因で高血圧になることはありません(高血圧体質は急にはなりません)。

シャバで高血圧体質を知らずのうちにつくって来た人が、獄中で更に進行するのです。だからそんな人が獄中生活をそのまま受け入れたんでは、高血圧体質が悪くなることはあっても健康体に戻るなんてことはありませんので、塩味の濃いものや油ギトギトのものは避けるとか、降圧のやり方(後述)を毎日努力するとか、少しでも悪くならない為にやってみる必要はあります。残念ながら他にやり様はないのですし、やらんよりはましな程度とはいえ、何もせずほっておくことはないでしょう。

前置きが長くなりましたが、高血圧の一般的めやすは低い方の拡張血圧が成人で90〜95ミリ以上、高い方の収縮血圧は150〜160ミリ以上です。但しこの数値も年齢時の差はあります(中年以上は年齢プラス90の値が正常値のひとつのめやす)。それから血圧測定時、心身の状態や季節、入浴、運動等によってもかなり違って来るので、何度か計ってみて数値の判断はすること。一〜二回計っただけで自分をどうこう決めつけないでください。

血圧が高くなる原因は臓器等の障害によるものと、はつきり何だと言えないものがあり、

マア原因も判つていればその治療回復で正常に戻るのですが、やっかいなのはよく判らないまま高血圧になっていくやつ（本態性の高血圧と言っています）です。

いつのまにか本人に忍び入り、自覚のないまま高血圧体質になっている（ある日血圧測定してビックリ）。本当は、「忍び入り」じやなく基本的に身体（血液と細胞）を決するのは毎日の食事なので、自らの長い食習慣の偏り（動物性脂肪やインスタント食品の多食と過ぎたるタバコと酒）こそが「招き入れ」

たのに違いありませんけども、ともあれ気付いた時は既に進行中で、血液は酸性常態化して粘性をもち流れにくく、血管内にコレステロールもたまり、動脈硬化を起し心臓腎臓も苦しみ始めている（前述の理由で量的質的に食べることかなわない獄中でもゆるいながら動脈硬化は進行します）。この時点でほちと不眠、めまい、頭痛、イライラ、耳鳴り、肩こりなど様々な自覚症状が出て来ます。これが進行して最終的に心臓、腎臓や脳の病変を起こしていく訳です。

### 高血圧の対策

高血圧は一旦なってしまうと『生涯療治』

というくらいですから、そのつもりで努力してみてください。

#### (1) 手と足の運動

血流を全身一定にする為の軽い運動。房内で手足を動かさないと血の流れは淀んでしまい、危険な頭や胴の方ばかり盛んに流れます。無理な動かし方をしなければやり方、時間は自由に。但し腕をグルグル廻すのは止めること、血流が偏るので。操体法を知ってる方はとてもいいので実践してください。

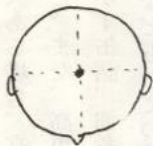
#### (2) 深長呼吸（腹式呼吸）法

酸素を充分体内にとり入れて、精神を安定させ、血液を浄化する。ゆっくり息を吸いお腹に溜めてゆっくり吐く。朝や夕方の方がよいし、のほせぎみの時やるとおちつく。時間は自由。陳式太極拳八段錦を知ってる方は効果あります。

#### (3) 身体の降圧点

本来は鍼灸のツボ。えんぴつの様な棒で圧します。

#### ① 頭会（百会）



頭頂の中心

#### ② 足の裏（湧泉）



土ふまずの真中  
ちよつと親指より

左右

#### ③ 首（人迎）



のど仏の両側

#### ④ 脚（風市）



お尻  
キオツケをして  
両手中指が当  
た指先の体側線  
の箇所

左右

①↓②↓③↓④の順でやる。各ツボの押圧15秒。人迎と風市は左右同時に。一度に五回廻り以上はやること。時間ある時はこのツボを指で揉みながら指圧してもよい。

#### 降圧剤について

西洋医学では高血圧には必ず血圧を下げる降圧剤を用います。これを服用すれば一時的にせよ血圧は下がって便利なのでさかんに用

いられ、今では薬の種類は何十種類もありま  
す。しかし自然にはなく薬の力で無理に血  
圧を下げるのですから、当然そのしわよせは  
副作用として現れます。今の薬のほとんどは  
降圧利尿系薬と自律神経遮断薬に分けられ、  
前者にはミネラルの脱流、すい臓機能低下、  
皮ふの発疹、過敏症など、後者の方には便秘、  
急な貧血、めまい、食欲不振など自律神経失  
調の副作用がそれぞれあることを知っておい  
てください。もちろん一回の服用で必ず副作  
用が出るとは限りません。権力拘禁されてい  
て自由に薬も治療法も選べない身の上では、  
副作用を承知で用いる時があるのもやむを得  
ません。でもせめて連続して服用することは  
避けてほしいと思います。それから急激に血  
圧を下げるような薬は、かえって危険です。  
服用する前に確かめてください（例えば血圧  
135/75ならばほぼ正常なんですから、どの様な  
降圧剤も飲まないこと。それでも服用するの  
は命を縮めるようなものです）。

・自弁食や差入ある場合、高血圧ぎみなら  
過食はしないこと。また、高塩高脂のものは  
止めること（おかず缶詰、佃煮、塩辛など。  
重症者はサバ缶などもつてのほか）。甘い菓  
子類もダメ（高血圧の人には糖尿ダブルの人  
が多いので）。しかし果物はとってもよい。  
・房内備付の調味料の使い方には気をつけ  
ること。  
・肥満大敵火事看守！獄中で太るのは何に  
してもよくないことです。  
・うめぼしは血液の浄化にすぐれた効用を  
持っていますので、もし自弁可能な人は求め  
てください。低塩のものでも毎日一個を食す  
くらいで。  
医食コンサルタント「琉玄」 木田明夫  
（相談や掲載希望を当会まで寄せて下さい）

7・10死刑廃止アジアフォーラム集会  
アジアから近隣諸国との連帯をテーマに、  
韓国、香港、フィリピン、台湾から死刑廃止  
運動の活動家を招いてのシンポジウム。  
日時 七月十日 午後一時半～  
午後六時半～デモの予定  
場所 日比谷公会堂

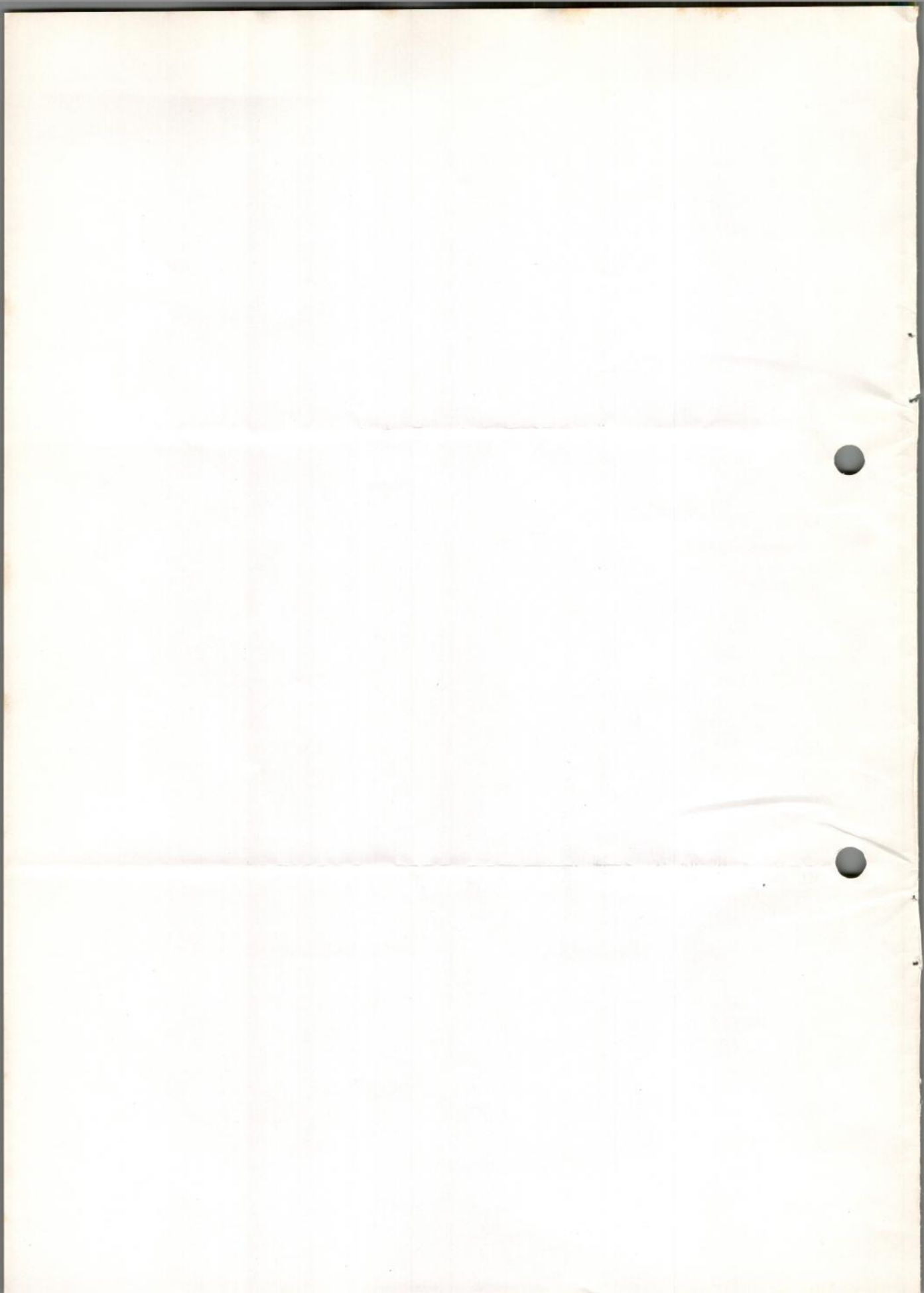
◆編集後記◆  
●権力者、支配者の精神構造が変ればみんな、  
ハッピーな気分で暮せるのに——と願ってや  
まない。  
●心騒ぐ日々の中で、下獄する小野さんへの  
手紙は、書くまでに何日もかかったが、間に  
合って返事をもたらった。励ましのつもりが励  
まされうれしかった。当分会えないと思うの  
でこの場をかりてありがとう。  
（青木）

4月30日現在

### 《会計報告》

| ① 収入      |         | ② 支出     |        |
|-----------|---------|----------|--------|
| 前月より繰越    | 270,754 | 潮風10号印刷代 | 28,450 |
| カンパ、会費    | 34,000  | 発送費      | 7,673  |
| 潮風売上げ     | 5,980   | 配達証明代    | 1,364  |
| 家族より援助諸経費 | 20,000  | 交通費(家族宅) | 7,000  |
| 合 計       | 330,734 | 合 計      | 44,487 |

① 330,734 - ② 44,487 = 286,247 ……次回へ繰越  
●ありがとうございました。再審鑑定や実験につい  
てのカンパ協力もよろしく願います。



発行 荒井政男さん救援会

東京都千代田区神田錦町一―一六

神田錦町ビル三階 大手町共同法律事務所気付

郵便振替 東京31546727

一九九三年五月二十五日 第十一号発行

頒価 二〇〇円

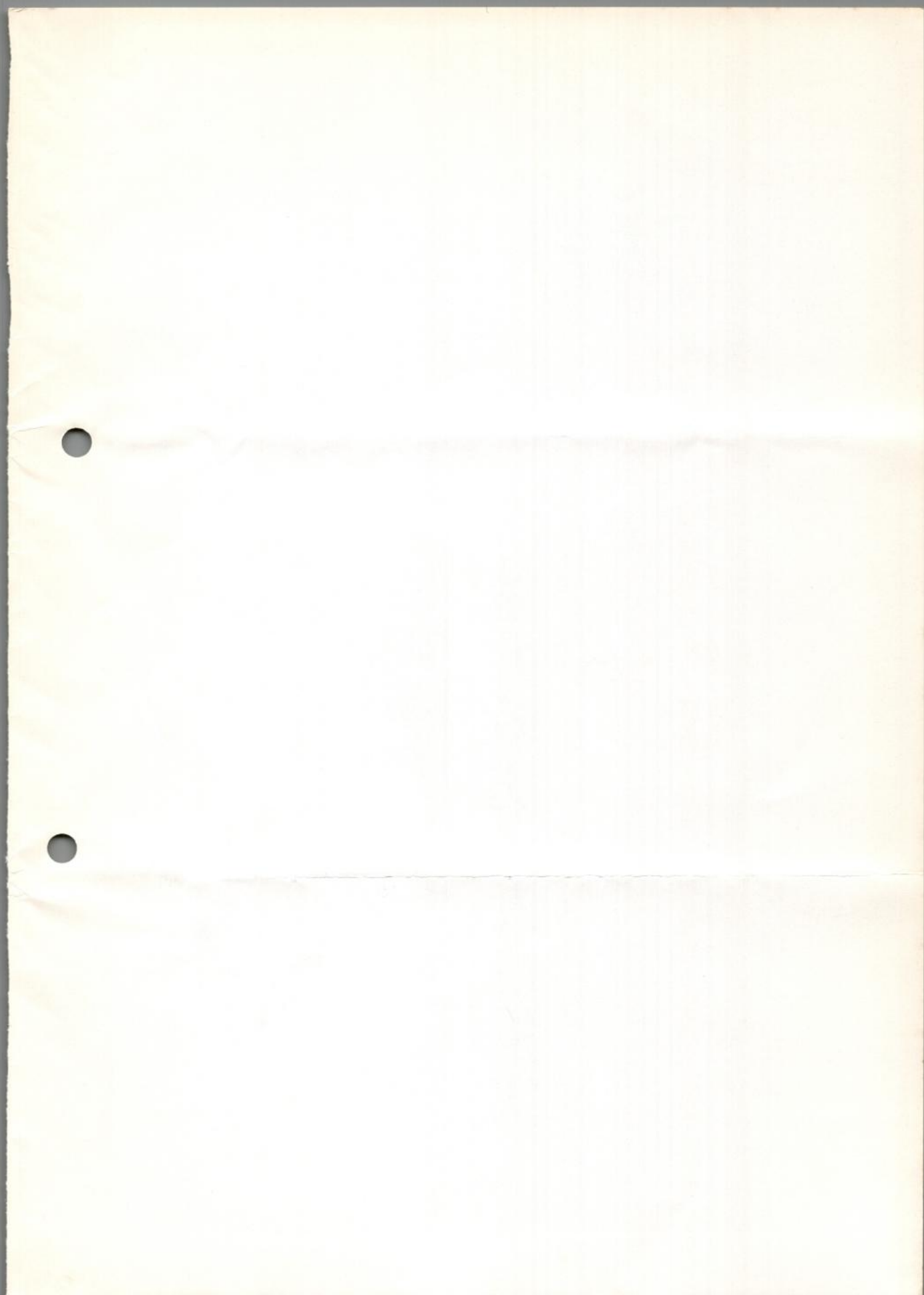
# 潮風

第12号

1993年8月25日

三崎事件

荒井政男さんは無実



## 再審はいま

「再審はどうなっているの？」と、問い合わせが続いています。

弁護団は補充書の提出を準備中です。

この補充書では、荒井政男さんが事件現場の階段を駆け上れないことが中心になる予定です。医師の意見書の完成を待って横浜地裁横須賀支部に提出します。弁護団が補充書を提出したら、潮風誌上で報告しますので、いましばらくお待ち下さい。

また救援会では、「三崎事件とは？」(仮題)というパンフレットを発行しようと討論を始めています。救援会への参加を待っています。

## フォーラム90集会にて

集会後のデモンストレーションでは「56人の死刑囚が生きているのです」と書かれた横断幕の後で、荒井さんの笑顔がまぶしい会員手作りのプラカードを掲げて参加した。免田栄さんや赤堀政夫さんをはじめ多くの人が励ましの声をかけて下さった。

赤堀さんは、いつも潮風を読んでいるよ。

政男さんはどうしているか。体の調子はどうか。家族の人たちは会っていますかと尋ねて下さり、自分は命のあるかぎり死刑制度の廃止にむけて頑張るから、政男さんも元気で闘ってほしい。今度荒井さんの集会がある時には必ず来るから連絡をしてくださいと言ってくださいました。

免田さんは、潮風を読んでも再審がすすんでいないようなので心配だと、六月に手紙をくださったいました(今号九頁に掲載)。

免田さんは、経験にふまえて、裁判官や世間は、前科があつて逮捕の経験もあるのにと、うしてやってもいけないのに自白したのか」と自分に対する先入観をもっていた。それで、自分の恥をさらけだして自白したときの赤裸々な心境や、自分はやっていないんだということを考えに考えて上申書にしてきた。

弁護士は裁判資料を検討して矛盾点を明らかにし新証拠を提出することが仕事だ。再審請求人本人のやることは、裁判官の心証を動かすことである。今の裁判のあり方には問題があるが、しかし、それが現状なのだ。そうやって、自分の裁判では何人目かの裁判官の目にとまって再審がとりあげられたのだった

……。と、自分が会えるのだったら荒井さんにこのことを話したいのだけれど、現在の処遇では会えないので是非伝えて、頑張るように言って下さいと話して下さいました。

アジアから五カ国の仲間が集まって開催されたフォーラムは、今後も各国が協力して死刑廃止に取り組むことが話し合われました。当面死刑制度が復活したフィリピンに対する行動などが予定されています。

荒井さんを取り戻すために、力を合わせて頑張りますよ。

新法務大臣に「死刑執行するな」とハガキの集中を!

三ヶ月章法務大臣は、「裁判所は慎重な審理を尽くして(判決を)言い渡したと信じている。執行命令は、そういう判断を尊重しつつ検討する。個人的感情はさんではいけない」と述べている。救援会では要請書を提出した。まだの人も三ヶ月法相にハガキの集中を!

宛て先 千代田区霞が関一の一  
法務省内 三ヶ月法務大臣 宛

# さまざまな動きのなかで再審へ

⑩

山際 永三

## カウンタレポート発送

### 十月に日本の審議予定

国連の規約人権委員会に提出する「再審事件交流会」のカウンタレポートは、「統一獄中者組合」のカウンタレポートと一緒に七月十二日に発送した。

カウンタレポートは一年ごしで準備をすずめてきたが、同委員会での日本政府報告の審議が次々とおくれたため、なるべく新しい情報をとどけるべきだとの考えから発送を見合わせてきた。ところが、どうやら本年十月の第四十九回会期（十月十八日から十一月五日の三週間）内の数日間に日本の審議がなされるもよう、委員に日本からのカウンタレポートを十分に読んでもらうための時間的な余裕があったほうが良いとの判断もあり、この七月十二日から始まった第四十八回会期の会期中に委員に配付してもらうため発送に踏み切った。

規約人権委員会の委員は十八人で、現在の

委員の国籍は、コスタリカ・日本・フランス・ユーゴ・エジプト・ハンガリー・オーストリア・イギリス・モリシャス・キプロス・セネガル・イタリア・エクアドル・ヨルダン・スウェーデン・オーストラリア・ヴェネゼラ・ジャマイカ。それぞれ大臣経験者や大学教授という。日本政府の報告を審議する時は日本の委員（安藤仁介京大教授）は参加しないのだそうである。カウンタレポートは、挨拶の手紙と共にそれぞれの委員の名前を書いた封筒に入れて（安藤教授にも）、十八の封筒をまとめて小包とし航空便で発送した。三日間くらいで到着するとのことであった。宛先はジュネーブの国連人権センター規約人権委員会セクレタリー（書記）。

日本は「市民的及び政治的権利に関する国際規約」（国際人権規約）に加盟し、日本の国内法より上位に位置する条約として一九七九年九月から発効している。規約第四〇条により、加盟各国が「この規約において認められる権利の実現のためにとった措置及びこれ

らの権利の享受についてもたらされた進歩に関する報告」を定期的に国連に提出する義務を負うことになっている。日本政府は一九八〇年に第一回、一九八七年に第二回、一九九一年十二月に第三回の報告書を提出している。第二回の時は、日本の民間団体（いわゆるNGO）として自由人権協会・精神科ソーシャルワーカー協会・北海道ウタリ協会・死刑廃止の会・朝鮮総連・拘禁二法に反対し代用監獄の廃止を求める市民センター・行動する女性たちの会・部落解放研究所・社会政策審議会などがカウンタレポートを提出し、日弁連は日本語の意見書を外務・法務両省に提出した。同委員会での第二回日本政府報告の審議には、日本政府代表（外務省国連局人権難民課長・法務省から外務省に意向している参事官など）が出席して、委員からの質問に答えた。

第三回日本政府報告は、全文がすでに公表されており（英語・日本語）、その内容は多岐にわたるが、こと刑事政策（拘禁・裁判・再審・死刑など）に関しては日本政府のたてまえばかりが書かれており、綺麗ごと過ぎる実態は無視されている。そこで、われわれ「再審事件交流会」としてもカウンタレポートを提出しようということになったわけであ

る。日弁連は、今回の政府報告に対してはやくカウンタレポートを作成し、会長がジュネーブに行って提出している。日弁連からは三つの文書が提出されているという。そのほかの日本NGOとしては、自由人権協会・部落解放研究所・在日朝鮮人人権セミナー・アジア人労働者問題懇談会・国労だから女だからそんな差別は許さない女のネットワークがすでに提出しており、死刑執行停止連絡会議が追って提出することになっている。

「再審事件交流会」のカウンタレポートは「日本には無実事件が多すぎる」と題した英語の本文A4六ページ(1誤判の死刑囚が多い/2再審を目指す人々/3最高裁に上告した無実事件/4問題点)。添付資料として、①免田事件、②波崎事件、③袴田事件、④秋山さん事件、⑤金川さん事件、⑥晴山さん事件、⑦三崎事件、⑧帝銀事件、⑨山本老事件、⑩横浜事件、⑪狭山事件、⑫甲山事件、⑬小野悦男さん事件の英文概要合計四十二ページとなっている。

「統一獄中者組合」のカウンタレポートは拘留所・刑務所での処遇・懲罰・検身・医療・外部交通・死刑確定者処遇・在日朝鮮人処遇・代用監獄などについて説明したもので、十ページ(うちイラスト二ページ)。

十月の規約人権委員会で日本の審議が行われることになれば、その直前にカウンタレポート提出NGOの記者会見などをやるべきだと思う。なんらかのかたちで盛り上げていきたい。再審・冤罪事件支援者の皆さんの協力をお願いする。

### 免田さんの映画大成功 全国各地の上映へ

七月九日から十一日の「死刑廃止アジア・フォーラム」(日比谷公会堂ほか)に引き続くものとして、七月十五日「免田さん再審無罪十周年と映画完成のつどい」(新橋ヤクルトホール)は企画された。近代法制史上初めて死刑再審無罪をかちとった免田栄さんは、一九八三年七月十五日に釈放された。それを記念し、おりから完成した免田さんの記録映画「免田栄・獄中の生」(小池征人監督・一時間半)を上映する「つどい」には、多くの人々の想いが重なりあい、満員の六百数十人が集まった。

その「つどい」で行われた作家・加賀乙彦さんの講演「死刑囚と人権」は、加賀さんが拘留所で医官をしていた頃の経験やその後の調査に基づいたもので、死刑はまさに「残酷な刑罰」であることを論証するものだった。

三十数年前は社会全体に民主的な雰囲気があり、死刑確定者にも文通や面会の制限が少なく死刑囚同士の交流もあった。ところが、だんだん制限が厳しくなり、「密行主義」が酷くなり、最近の死刑囚は完全に孤立化されている。いつ執行の朝がくるかわからないまま長期間拘禁されてノイローゼになっていく人が多い。その状態こそ「残酷」そのものだと加賀さんは死刑廃止の有力な論拠を示した。

映画終了後挨拶に立った免田さんは、まだまだ低い日本の人権意識を指摘し、自分としては恥ずかしいことだったが、あえて映画に撮られて、なお冤罪とのたたかい・死刑廃止のたたかいに力をつくしていきたいと決意を話していた。

この映画は、今後東京での長期上映(映画館?)を目指し、全国各地ではアムネスティをはじめ宗教関係など死刑廃止を願う人々が中心となって、上映会が計画されている。十月十六日の岐阜県高山市、十一月七日の青森県弘前市、十一月十四日の静岡県清水市が決まっており、札幌・新潟・仙台・岡山県津山市・四国・沖縄・三重県員弁郡・熊本・国立・名古屋などでも企画されている。問い合わせ電話は「免田さんの映画を上映する会」〇三―三五八六一五〇六四。

## 荒政さんだより ⑪



いつもパンフレットありがとうございます。救援、冤罪通信、やってないおれを目撃できるか、死刑と人権、ばじとうふうなどありがとうございます。甲山通信の山田悦子さんの無実勝利の闘いに獄中から熱い応援を送っていますよ。ごましお通信、利明さんの生きざまがわかります。よろしく伝えてね。フォーラム90のパンフは、死刑執行した後藤田正晴への抗議行動報告がびっしり埋っていますね。とても力強く思いました。もう一人も殺させないようガンバリましょう。

監獄通信ありがとうございます。統一獄中者組合のガンバリに拍手を送ります。さらに皆さまの活動をおねがいます。私も確定死刑囚とさせていただきます。私も確定死刑囚とさせていただきます。いつも家族を通して通信を受けていますのでとっても励まされています。

(五月十五日記)

### 洗濯で少々疲れが

今日は洗濯物を三点も洗いましたので、少々疲れましたね。肌シャツと冬物木綿長袖ジユバンでした。そしてポロシャツのうす物です。洗濯物は、朝食後の(食器は自分で洗い、房内所持)空弁当箱下げが終わってから洗濯物専用容器に入れて出します。受刑掃夫さんが集めて、外でヒモで作った物干しにかけて洗濯バサミで止めて乾燥してから、夕食前頃洗濯物専用の容器(各房の房番号が書いてある)に入れて、食器口から返してくれませう。洗濯物は雨の日以外は、月々金まで毎日出せるのですよ。だが、父さんは、今日洗ったのが出るのが遅くなり、明日の朝食後の空弁当下げが済んでから出すことにしています。

(五月十九日記)

### 潮風11号ありがとうございます

潮風11号を読みました。救援会から後藤田法相の死刑虐殺執行に抗議して獄外行動や集会に参加してかけまわったこと、死刑廃止に一生懸命行動して下さったことに改めて心からお礼と感謝を申し上げます。今回の執行に

シヨックと怒りで一杯です。この怒りをバネにして何としても日本の死刑制度を廃止へ向けて前進していきましょう。

名張事件第五次再審名古屋高裁で棄却。残念無念です。奥西さん、どうかお体ご健康に生きて生き抜いてさらに闘って闘い抜いていきましようとお父さんの叫びを伝えて下さい。免田さんの映画、全国上映に協力を、これは素晴らしいことですね。後藤田法相への思いあがった強権力への突きつけの反撃になることでしょうか。

蒲公英さんのレポート読みました。老年にて大拘まで行って広田雅晴さんと面会、激励なされたこと。そして生れ故郷にも戻ってなつかしい思い出の実家や、墓地の山椿も健在でしたこと、百年はゆうにこえている山椿と見事でしょうね。たんぼぼさんの実家が山陰でしたとは今回のレポートで初めて知りましたよ。米原での乗り換えさぞ寒かったことでしょうかね。米原駅は石川県(※荒井さんの生れ故郷)に行くには必ず通らねばならぬ、冬は雪深く寒い駅ですから、私も忘れることができない思い出の駅ですよ。たんぼぼさんの人生の苦勞の一端をのぞいた気がするレ

ポートに胸があつくになりました。ありがとうございます。ありがとうございました。そして死刑囚面会行動に感謝いたします。

ヤッホー!! 山小屋日よりありがとうございます。この写真は福寿草の花でしょうかね。父さんはあまり草花の名は知らないですよ。福寿草の花も知らないのですよ。切花の差入れも花の名を知らないのが多いのです。残念です。3月26日に死刑執行した法務省と後藤田法相を恨みました。山小屋のウィッチさんもシヨックだったこと、山小屋日よりからひしひしと伝わってきました。四月四日の集会に参加して下さったこと。父さんからお礼申し上げます。免田さんや、赤堀さんにもくれぐれもよろしく伝えてね。

潮風につけて、赤堀政夫さんによるしくね。いつも死刑廃止への集会行動デモ行進にもご参加くださり、あらゆるニュースパンフレットを読むたびに心から感謝しています。お伝えしてね。いつも潮風に父さんや家族や救援会や弁護団へ激励を下さり厚く御礼を申し上げます。赤堀さんもお体大切に生きて生き抜いて今後の人生を楽しんで下さい。

同じ潮風に桜庭さんの励ましのお便りを読

むことができました。心からありがとうございます。大事な脳を手術されて、桜庭さんの人間性を破壊された殺人事件の求刑が死刑だったこと、七月七日の判決予定との件心配しています。だまして桜庭さんの脳を手術した藤井医師こそ責任をとるべき事件です。どうか桜庭さん、どんな判決出されようとも生きて生き抜いて闘って闘って下さることを心から祈っています。永い間父さんの未決中に百本以上の激励文通下さったのは桜庭さんでした。そして父さんが確定しても父さんのことを心配して下さり、潮風にもいろいろと激励して下さり、カウンターレポート英文にもアドバイスして下さったことを知り、涙が出ました。さらに裁判を闘い抜いて東拘に戻ってきて下さい。囚友として父さんの一番心に残る友人です。元氣を出しつつ生きて生き抜いて下さい。七月七日判決減刑を祈ります。

福岡の山崎さん・平山さんの激励読みました。四国の国道から落ちた事件で裁判を起したことです。これから大変でしょうが、勝利を祈るとともにお体が無事に完治しますように。どうかお体大事に。

大拘の山野静二郎さんが息子さんと十一年ぶりに再会獄中面会なさったことを先ず安心しました。上告となり補充書にガンバっていること。どうかがんばって下さい。

名拘の湯タンボ許可まずまずでした。名拘は冬期入浴も週三回とはうらやましいね。カップラーメン、うどん、冷やむぎ、ざるそばOKにはおどろいたね。名拘はどうしてこんなに間食が買入れ飲食できるのか? うらやましいよう(笑)。東拘もさらに間食物の買入れができるようにしたいものです。

猪熊武夫さんが医療刑務所から東拘に戻ってきたこと、何よりでした。安心しましたよ。ムリしないでボチボチ体を動かして下さいね。

神戸の山本さんの犬好き人間のやさしさが、ある日ある時のパンフからわかりました。お体大事にね。

新海さんからのニューヨークからのレポートとお便りそして父さんへの激励いつもありがとうございます。どうか呉々もよろしく伝えて下さい。木田さんいつもありがとうございます。いつも勉強して参考にしていきますよ。

感謝で一杯です。

(六月五日記)

### ●電報が遅れに遅れて

電報を土、日と渡さず、月の午後三時になって父さんに渡したのです。明白な死刑囚に對する差別処遇です。

つまり確定囚には手紙でも電報でも時間をかけてコピーしたり、検閲時間を故意に遅らせているのです。だから父さんが確定死刑囚にされてからは、電報を打とうとしても、手紙発信と同じく日数がかかるから手紙にしたほうがいいと看守が教えてくれるのです。電報打つても早く届かないからもうつたいないですよ。ということですよ。

ま、今回受けとった電報は「一一ひいく」だったから、日数的にまだ余裕があるから困ることがなかったけれど、でも父さんは看守にカンカンになって文句を言つてやりましたよ。電報なのだから、中味はどうであれ電報らしく早く渡せ、差別するなと、大声で抗議したら看守氏は困っていたよ。

(六月七日)

### ●今年の夏も蚊が

ゆうべは蚊にせめられて安眠妨害され、頭

からシャツを被って夜明けを待つて蚊の退治をした所、七羽も朝食前までに叩き、壁も、ワラボウキもわが血で染まりました。

(七月十九日記)

たところ、蚊が入らなくなり、安眠できて二コニコですよ。それでも蚊が入っても、頭からシャツを被って眠ることに馴れてきたから、どうかご安心下さい。

窓すべての隙間に、書き損じの罫紙を詰め

(七月二十二日記)

(一九八九年作)

台風が足の痛みも連れ去りて夏空戻り今日の嬉しき  
獄空や台風一過夏地獄汗を拭くのが仕事なりけり  
台風の雨風に濡れベランダに親子スズメのパンくれと鳴く  
食器口台風余波の涼しさに体を寄せて獄の涼みし  
台風去り獄運動のさわやかさ制限なしの空気吸い居り  
そろそろとツバメも南へ帰る頃獄の西瓜を待つ我れ哀し  
一枚のハガキに夏の溢れ居り心こもりて友の嬉しき  
かもめ鳴く荒川近く東拘の夜明けの空に群れてなつかし

(一九九〇年作)

鉄窓の空はるかなり入道の雲湧出でる空の額縁  
差入れの夏の衣類が心地良し妻に感謝の新品の服

(確定前に宅下げされたノートより)

## 北海道ベツ見

蒲公英



荒井さん お元気ですか。

ながい梅雨が明けましたが、湿度が高くて気分爽快とはいえませんがね。

六月のなかば、私は『六月の炎』の仲間と北海道へ行ってきました。その辺のことを少しおしゃべりしてみましよう。

旭川刑の磯江洋一さんの民事裁判が、十五日にひらかれるというので、十年ぶり、磯江さんに会ってきました。と時間とふところのむり算段をして仲間と海を渡りました。

渡道まぎわになって、磯江さん出廷の奇蹟は実らず。どうしようかと考えていたので、折角だからと家のものも勧めてくれて、漸く決心をつけました。

北海道は異国的な土地柄であろう、と沿線に目を注いでいたのですが、風景は内地とそんなに変わりありません。けれども、線路ぞい至る所に路が簇生して、やはり北海道は、小人の神話に欠かせない主役の国でありました。

ベツ見しただけの札幌の街でしたが、駅前

の大通りは、近代的で重厚な建物が梃でも動かない頑丈さで並んでいて、北海道の底力を垣間みるおもいでしたが、この底力は、開拓使以後の収奪の遺産でしょうか。

札幌は夏祭りをやっていました。北海道は神社が多いそうです。そうでしょうね。「侵略は宗教をさきに立ててやってくる」

ハイカラな北の国のイメージは崩れました。札幌から旭川までの車窓、田圃が拡がってしましてね。北海道で米が穫れるとは以外でした。キララという品種だそうです。

緑の平野がはるかな地平に繋がっています。やっぱり北海道の大地は広大でした。

ライラックの花が咲いているだろう、とやってきた札幌でしたが、植物園のライラック並木はすでに盛りを過ぎていて、少々見苦しく感じました。それを補うかのように、通りの緑地帯はれんげつつじと石楠花が見事でした。

駅前でピラを配っているとき、なんとも香ばしい匂いがただよってきて、誘惑にかかず、唐もろこしを買いましたが、その夜、お腹がゴジョゴジョ文句をいって、あれは失敗でした。

た。

十五日の裁判では、磯江さんの出廷をめぐって双方の応酬のはて、なんとも締りのない結論にもち込まれました。

歩きにありて見付けた店は飲み屋さんでした。「めしを喰いにゆこう」は「酒をのみにゆこう」ということで、皆さん、よく召し上ります。

一旦札幌に戻って、札幌の大森勝久さんに初めて面会、きびしい手紙の主は、ニコニコとやさしい青年でした。話をもっぱら熊本刑の加藤三郎さんに集中して、同行者の時間をさらってしまいました。

異国情緒のまち、函館には寄れませんでしたが、あしこにはトラピストがありますね。詩人の三木羅風が在籍した修道院で、

風ひとり歎<sup>ツ</sup>歎<sup>ッ</sup>りつ、遠国のはてをゆくなどはその頃の作品です。羅風は、啄木に憧れて函館に渡ったのでしょうか。

私の渡道は、家族に福音をもたらすはずでした。飛行機事故による、なにがしかの賠償金が家をうるおすわけだったところへ、私のぶじご帰還です。そのあとのことはご想像に任せます。幸いに紙面も尽きました。

こんばんわ、八月になりました。またお会い出来た欲びに胸が弾みどんなお話をしようかなあーと心のカレンダーを捲っているのですがこの雨の音を聞いていますとだんだん気が沈んで寒気がしてきます。ほんとに冷たい夏です。五月以来低温が続く夏野菜の苗を求めたものの遅れ霜が怖くて畑へは移植出来ず、六月上旬にポットから畑におろしました。でも今度はすぐ雨期。日照不足と低温で育たず、八月になってやっとトマト一つと胡瓜四本を収穫しただけです。従ってお日様が大好きなピーマン、ししとうは花をつけても実らず、とうもろこし、かぼちゃも元気がありません。昨年までは全くこの様なことはなかったのに、まさしく異常気象は進んでいます。というの、とても恐しい現象を発見したのです。長い梅雨であるだけにゾォーッとしますが、雨に打たれる植物や野菜は色を失い脱色して白くなってしまうこと。又薄い花びらのあやめやおいは、花びらが穴だらけノ見るも無惨な姿です。高原に咲く花はそれは色鮮やかで美しい(お見せしたい!!)のですが、それがどれもこれも色あせバラなどはそばかすのように茶色いしみを残して朽ちていくのです。

おおばこの葉も針を刺された様にフツフツと穴があき見るのも怖いほどです。

それからこの私ノ毎日、風邪を引いたようにのがひりひり痛み、眼は玉ねぎの汁がしみるように痛く涙がポロポロこぼれるのです。「どうしてだろう?」とあれこれ不思議に思っていました。が、ある日はたとこれが酸性雨の仕業であることに気がつきました。思え



## 山小屋だより

が建設中であること、そしてリゾートホテルが出来たことだと睨んでいます。なにせ昨年からは自動車の数がふえ、今では従業員、業者、客の車にダンブカーとその数は数えきれません(その他原因はまだあると思います)。七月の北海道の津波や九州の洪水の被害を考えると天変地異の不安は募りますね。長い梅雨が明けたとはいえ、雨の日は続いています。花びらから落ちる滴は花達の涙であり、被る災害は「地球が危い!」という天からの警告と怒りの叫びではないでしょうか?

憂愁の山小屋便りになってしまいました。自然が教えてくれることばを真摯に受けとめ現在の暮しを捉え返してみるこの大切さを痛感しています。今なら間に合うのですから。寒い夏も獄中者の皆さんにとっては羨みやすく、免田さんの映画完成は嬉しいニュースです。

どんなに打ち砕かれても、生きる力を失わない植物達の偉大なるパワー。それは他者を決して浸触しない崇高な心と天地を信じているからなのでしょう。素晴しいですね。それでは又お会いするまで、お元気で。あした天気になあれ。 奈良原のウィッチより



## 潮風にのって

◆ 免田 栄さんより

潮風御送り頂き有難うございます。

荒井君の再審もなかなか進展しないようです。ご承知ですが、再審には二つの理由がみだされないと実現しないのです。内部証拠と外部証拠で、内部証拠とは請求人がどうして全く関わりない事件に関わるようになったか、この事情は本人しか知らない、この説明です。外部証拠とは弁護士方が確定判決に疑問を生じて居る証拠です。

私の経験から申しますと、昭和三十一年八月に死刑確定者で初めて再審が受理されて居ります。この決定を勝ち取るには、警察に理由なくして連行された時から一審の裁判にいた

るまでの司法官の不法な扱いを詳しく説明して、裁判所に訴え裁判長の心証をうる努力をしました。

この結果、受理決定したのです。けど検察の即時抗告で福岡高裁の形式審理で取消され、その理由に「一度調べた証拠を再度調べて新証拠と解するは司法の安定をかく」と云っています。

この決定が不服で特別上告しますと、「司法の安定には国民の一人や二人犠牲にしてもやむをえない」と云って抗告を棄却しています。

この決定に私は非常に苦悶しました。法律は誰の為に。司法は何の為に。真実を知り裁く者は誰。この三つの問題で独房の壁に毎日問答したのです。そして、法律に関する本と人間の歴史に関する本を拘留支所から借り、あるいは買って読みました。

この読書で教わったことは、日本の司法界には法律を運用する必要不可欠と云われる①がないことを知りました。分かりやすく申しますと、司法界には天皇から公職を拝命されると云う名誉と誇りがあります。この思想は、選んで頂いた天皇には丁重に頭を下げて従し

ても国民はかろんずると云う差別感で、犯罪の疑いなど負わされた者は物のかずとは思われていないのです。

司法界がこの思想に構造されていれば政治界も同じで、国民が選挙で選んだ代議士が国会に入り大臣に任命される場合は天皇から大臣の地位を拝命されます。それでは天皇の地位は国民が選んだかと云うなら、この事実は歴史のどこにもなく、ほうだいな国民の血が流れて現在の地位があつて、この地位擁護の政治と云っても過言でないのです。

このことを教わった私は日本弁護士連合会の人権課に提訴して、法治国の三権でこの事件の真実をどう扱うかためてみました。それから二〇年六次再審へと道が開けてゆきましたので、司法界とか法曹界などきれいごとを云って居る法律の社会にも、国民を見る常識及び良心は存在することを知りました。

私が社会に帰って十年、財田川、松山、島田再審のほかに再審のトビラが開かない。敗戦から今日まで内閣の影に犯罪が四〇件も起きて全てうやむやに扱われ、各件とも自殺者や行方不明が数人出て、国民の眼は一般犯罪ほどに向かないばかりか常識とみる眼が強い。

「日本人は公の犯罪に弱く、私の犯罪に強い」と外国から指摘されるゆえんはここにありと思えます。

私は日本の国家公務員が天皇からの公職拜命でなく国民からの公職任命の時代に転ずる時代に、国民各自が努力する時代と思う。だって外国の民主社会は法律も政治も国民のものだからです。

それまで私は弱身ながら経験をいかし司法界に国民の真実をすなおに受け入れられる時代が来るまで、生涯闘ってゆきたいと思えます。どうか心ある皆さん、司法と人権、司法に民主性を覚める日まで健康に注意してがんばりましょう。

#### ◆ 赤堀政夫さんより

濃緑のきせつになりました。会員のみなさんにはお変わりありませんか、お伺いします。私にかわって荒井政男さんとそのかぞくのみなさんや、弁護士のみなさんにはよろしくいって下さい。御礼をいって下さい。おねがいます。先日は潮風ニュース送ってくれました、ほんとうに有がとうございました。お世話になっています。御礼を言います。ごぶさ

たしています。荒井政男さんは獄中の中にいますが、本人は身体ぐわいはどうですか、元気でがんばって裁判闘争へ向けて戦っている事と思えます。

一日も一日も早く荒井さんの再審裁判開始することがみとめられるとよいのですが、死刑執行は後藤田法相は今後ぜったいにしないように、死刑はぜったいに廃止をしなければなりません。

今獄中の中に囚われている死刑囚の人間を一人も殺さぬように、私と大野さん全国病者集団の人たちは法務省の後藤田法相宛に助命たんがん書をかきまして送っておきましたのです。

来る七月十日日比谷公会堂で死刑廃止フォーラム大会があります日には、私は東京へ行きます（フォーラム会場で免田さん、赤堀その他大勢の人たちが大会があります、会場に集まると思います）。外国人の人たちに会いまして、一緒に仲良くしていろいろなお話をしてみたいと思います。交流交際をしたいと私は思っています。元死刑囚の人たちと会って話合いたいと思っています（もし許されるならば私は荒井さんのかぞくの人たちに会

いたいです）。

会って、かぞくの人たちと会いまして一緒に死刑廃止とぜったいに死刑囚の人たちを法相は殺さないように助命たんがん書をかきまして、これからも送ります（助命たんがん書です）。

みなさんたいへんですが、荒井さんを助けるためにさいごまでさいごまでおうえんをしていきます。力を合わせて団結して共闘して裁判に向けて戦いましょう。一日も早く裁判を開始してもらうために、裁判長さんあてに、裁判では再審差戻しをしてくれるように要請しています。体を大事にして下さい。へんじをかいて送って下さい。荒井さんにお願います。さようなら。

◆ 『潮風』第一号を拝読致しました。三月に死刑執行が行われた拘留所名と氏名は徹底的に抹消されております。私は全て知っているし、私が知っていることを大拘も知っていて抹消をせよとやるのは時間のムダなのに、それをやらないと執行を認めることになるのでしようが、認めるものにも執行したのだからなにをかいわんやです。執行された一人と私は転房の際、よく入れ

替わったという間柄でして、彼はきれいな好きで彼の後に入ると気持ちが悪かったですね。私も彼に嫌われるといかんで、せつせと掃除をしたもんです。彼ともう入れ替わるこゝとができなくなりました。もう一人は、私の階下の方で毎日ほどわけのわからんことを云って怒鳴ってました。完全に異常でした。大拘の者はあの怒鳴り声を毎日聴いてたんですが、もう聴けなくなりました。二人共成仏できたでしょうか？霊福を祈ってます。

荒政さん、お元気でつか？暑くなってきたですネ。又、蚊との闘いでんなあーハハハ。大拘は衣類に関しては六月一〇日から夏期処遇になりました。昨年からは早目に切り替わるようになって合理的で喜んでいます。

荒政さんはすし屋をやりましたが、私の次男も将来はすし屋をやりたいと云ってましたよ。そのくせフランス料理を習つとるので、ようわからんですわ。どうぞお元気で！

（大阪拘 山野静二郎）  
◆ はじめまして。「潮風」のご送付、ありがとうございます。ご挨拶が遅れておりましたが、一〇号よりお送りいただいています。個人パンフとしては出色の仕立てなので、び

っくりしています。荒井さんのお人がらゆえなのででしょうか。でも、「事件」へのアピールや解説がないのはなぜなのでしょう？せつかくの媒体なのに、もったいない気がします。が、寄稿文も充実のご様子。ますますのご発展をお祈りします。荒井さんもお元気で過ごされますように。

（広島拘 崎田烈）  
◆ 荒井さん、こんにちは。お体にはお変わりありませんか。荒井さんは糖尿病で大変でしょうが、お体を大切になさって下さいませ。

荒井さん、全国の冤罪事件に対して支援して下さっている先生が今度、冤罪者ばかりの会を作りましょうと言っておられますよ。という私のほうは相変わらず頑張っております。共に頑張つて無実を晴らすまで頑張りますよ。では、お元気で。

毎回「潮風」送付ありがとうございます。  
（大阪拘 中元勝義）  
◆ 一年過ぎるのが何と早いのでしょうか。でも、限られた空間では？

爽やかな初夏の風は、荒政さんにも緑の香りを送っているでしょうか。死刑廃止へあと一息の途を裁ち切った法相の非人道的・前近代的な暴力は怒りて余りあるものです。この

所、ずっと抗議の署名用紙を持ち歩いています。が、お願いする方は大い「もうしました」という事で、仲々埋まらないのは何と解釈すべきか、という所です。でも署名が回っているという事と心強くなります。余り動けませんので、何もできませんが、「法相の無法」がまかり通るような不当な事がこれ以上絶対に許されません様、諸々の場から絶えざる声が湧き起るのを祈ります。まして、荒政さんのような冤罪が、何時迄も放つておかれる等全く言語道断。全ての冤罪事件の雪辱を願つて止みません。

（東京 斉藤）  
◆ こんにちは、「潮風」一〇号落手しました。いつもありがとうございます。荒政さんは血圧の具合いどうですか。わたしは五月末から配置がえで、障害者だけでなく何人かの老人のところへもホームヘルパーとして行っています。パーキンソン氏病の方、白内障の方、リハビリの体そうのお手伝いをしたり、コップ一杯のお茶を一時間かけて飲むことにつきあったりと。様々な方たちの老いにより、そえればと思うようになりました。

今日はむし暑い一日でしたが少し雨が降りほっとしています。うっとおしい梅雨がもう

すぐですね。どうかお元気で！

(東京 足立)

◆「潮風」十一号、ありがとう。荒政さんの写生のことですが、もう一つどうなりましたか。ミカンの絵ではなかったかしらん。これがのってませんネエー。フーン。

大拘の山野静二郎さんの投稿はものすごくおもしろかった。関西弁で、食べ物ばかりのせて、いかにも大阪らしい。喰いだおれだからネエー。固苦しいことなし、ユーモアがあつて荒政さんはケラケラ笑つたんじゃないの。でかした、これからも投稿するといいですよ。とにかく、「潮風」十一号ありがとう。又の日まで。ヌチドウタカラ。(東京 鉄腹)

◆「潮風」いつもありがとうございます。荒井さんの様子を知ることが出来て、笑つたり応援したりです。これから、あついでですね。荒井さん、がんばって、乗り切つていこう！こちら皆元気ですので、よろしくお伝え下さい。(大阪 石橋)

◆いつまでも梅雨が明けず、うんざりしています。荒政さんも、独房から梅雨空をながめ、「ちきしょう。今日も運動に出られない！」と思つてのことでしょう。

がんばって下さい。

(東京 中川)

◆荒井さんも、皆さまも身体の方はいかがでしょうか。ごぶさたしてすみません。夏期？カンパです(あれ、もっとも会費は間に合つていたかしら)。

一転して農作物の冷害が心配になるほどの寒さ。冷えにも注意して下さい。

(東京 玉田)

## 《会計報告》

7月31日現在

| ④ 収入      |         | ⑤ 支出     |        |
|-----------|---------|----------|--------|
| 前月より繰越    | 286,247 | 潮風11号印刷代 | 40,606 |
| カンパ、会費    | 47,772  | 発送費      | 14,400 |
| 潮風売上げ     | 2,600   | 封筒代      | 947    |
| 家族より援助諸経費 | 32,000  | 交通費(家族宅) | 10,500 |
| 合計        | 368,619 | 合計       | 66,453 |

④ 368,619 - ⑤ 66,453 = 302,166 ……次回へ繰越

●ありがとうございました。補充書・意見書の費用もよろしく願います。

## ◇ 編集後記 ◇

●ヤッホー12号デース。この間三年の歳月は長く感じますが、荒政さんだよりから、いつも私達への細やかな心遣いが嬉しく、共に歩んでいる実感に顔も心もほころびます。ニコッ、ありがとう！ (S・U)

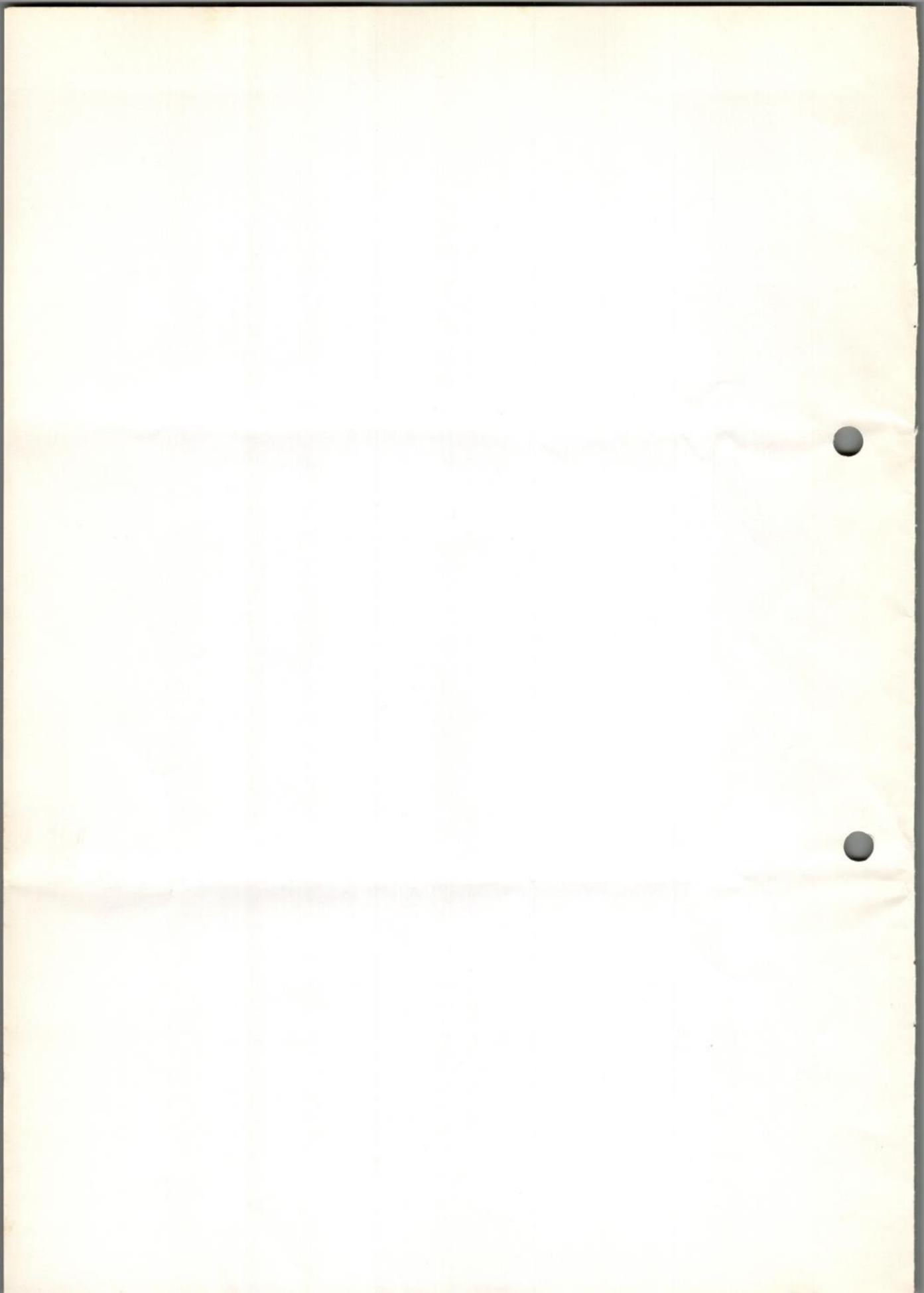
●先日東拘へ行きました。荒井さんを申し込むと「あなたは会えませんが」とまたすげなく断られました。それではと、荒井さんが文通をしていた人に会ってきました。獄中に入る前は虫菌も一本だったが、十一本に増えて昨年治療したら一本三万円して合計三十三万円もかかったとか。保険がきかないので大変だったと話されていました。荒井さんのことをよろしく願いますと言われて、うなずきました。さて、これからです。(青木)

\* 編集より

問合せのあつた前号の山小屋だよりの写真は「水仙」。今号は昨年七月撮影の「クラリセージ」(ハーブの仲間)です。

\* 訂正

前号7頁上段12行目 磯江さんが礎江さんとなっていました。お詫びして訂正します。



## 三崎事件

荒井政男さんは1971年12月、神奈川県三浦市三崎で起きた一家三人殺害事件の「犯人」として逮捕されました。裁判所は、荒井さんの無実の訴えを無視し、強制による「自白」、目撃証言などを根拠として死刑判決を下しました。1990年10月に上告棄却となり死刑が確定し、現在東京拘置所に収容されています。

荒井さんは、その事件の犯人では決してありません。偶然現場の近くに車を駐車させて中で眠っていた荒井さんが事件に気付き、立ち去ったに過ぎません。

目撃者証言は、現場から立ち去ったもう一人の男（真犯人）と荒井さんを混同したものです。荒井さんを犯人とする物的証拠は何もありません。だいいち、荒井さんは過去の交通事故により足に重い障害を負っており、三人もの人を殺したり、家の中を走り廻ったり、2階に駆け上がったたりすることが出来ません。

また犯人が現場に残した足跡（25.5 or 26cm）が荒井さんの履いていた靴（27cm）と一致しません。さらに凶器とされた刃物が特定されていません。犯人であれば当然浴びたはずの大量の返り血が荒井さんの衣服や車に全くありませんでした。荒井さんがとられた「自白」と客観的な事実のあいだに多くの矛盾があります。

荒井さんは、1991年1月に横浜地裁横須賀支部に再審の申立てをしました。裁判所は、一日も早く再審の開始を決定すべきです。

**潮風**は、荒井さんが若い頃船に乗っていたことから名付けました。荒井さんが家族へ宛てて出した手紙の中から、“荒政さん（荒井さんの愛称）だより”として荒井さんの声を獄外に、また支援の声を荒井さんに届けて再審を共に闘うために1990年11月から発行しています。『潮風』の購読をお願いします。

潮 風 第12号 1993年8月25日発行 頒価200円(〒72円)

発行人 荒井政男さん救援会

東京都千代田区神田錦町1-1-6

神田錦町ビル3階 大手町共同法律事務所気付

郵便振替 東京3-546727